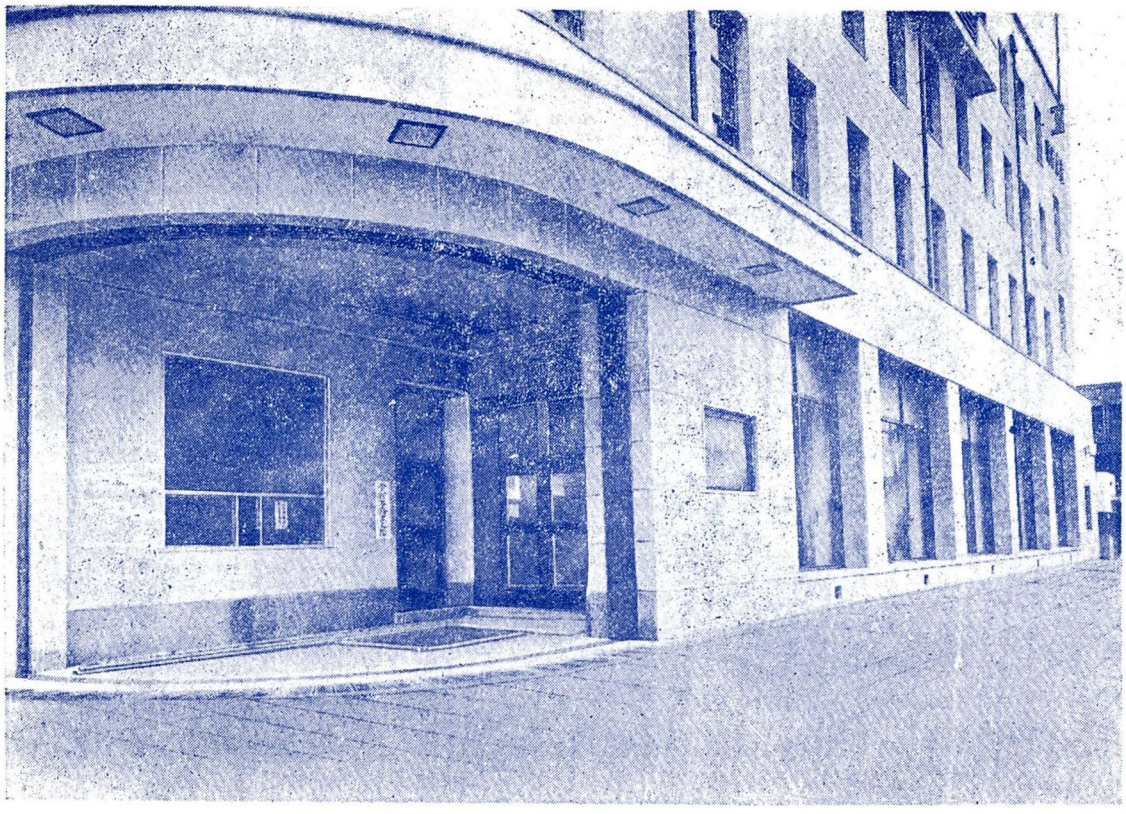
大正六年九月十四日 第三種郵便物認可・昭和十一年二月二十五日印刷納本・昭和十一年三月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

3

第十九輯第三號　昭和十一年三月一日

日本建築協會



(寫眞ハ最近竣工ノ大阪府産業會館)

設計　大阪府營繕課殿

施工　新工務所殿

東鋼式　サツシユ、ドアー、陳列窓納入

諸建築材料及附帶設備一式

設計監督・工事請負並材料販賣

三機工業株式會社大阪支店

大阪市北區中之島三丁目(大阪三非ビル內)

電話土佐堀(44)8365(5)1776・3103

本　店　東京市麴町區有樂町(三信ビル內)
電話銀座(57)5140(10)5941(7)

支　店　大阪・名古屋・福岡・大連・京城
出張所　札幌・函館・新京・奉天・臺北・廣島

工　場　東洋鋼材株式會社川崎工場…川崎市渡田

取扱店　三井物産株式會社各地支店出張所

(型錄贈呈)

會告

曩ニ總會ノ決議ニ依ル本會倶樂部室ヲ下記ノ規程ニ依リ實施致シマス

昭和11年3月

日本建築協會

日本建築協會倶樂部室規程 （昭和11年3月1日制定）

第一條　本倶樂部室ハ會員相互ノ親睦ヲ圖リ智識ヲ交換スルヲ以テ目的トス　但シ本規定ニ於テ會員ト稱スルハ日本建築協會會員 名譽賛助員 終身賛助員及特別賛助員ヲ云フ

第二條　本倶樂部室ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ會合及設備ヲナス

イ、各種研究會

ロ、圖書ヲ備ヘテ縱覽ニ供ス

ハ、各種ノ娯樂機關ヲ備ヘ會員ノ使用ニ供ス

第三條　本倶樂部室ニハ會長ノ委嘱ニ依ル幹事若干名ヲ置キ之ヲ管理ス

第四條　各幹事ノ互選ニ依リ幹事長一名ヲ定ム

第五條　會員ハ倶樂部室使用ニ關シ別ニ費用ヲ徴收セザルモ普通賛助員ハ本人ニ限リ入室料トシテ一回金拾錢ヲ申受クベシ

第六條　會員ハ家族及友人ヲ同伴スルコトヲ得　但シ同伴者ニ對シテハ入室料トシテ一回一名ニ付金拾錢ヲ申受クベシ

第七條　會員ノ同伴者ハ三名迄トシ同伴者ノ氏名ヲ受付ニテ記名シ來室ニ就テノ一切ノ責任ヲ負ヒ前條ノ入室料ヲ支辨スベシ　婦人ノ同伴者ハ家族以外謝絶ス

第八條　來室ノトキハ會員章ヲ佩用シ來室名簿ニ記入ノ上外套帽子其ノ他ノモノハ所定ノ場所ニ置キ又ハ預クベシ

第九條　室內備付ケノ器具其ノ他ノ物品ヲ損傷シタルトキハ幹事會ノ評價ニ依リ辨償スベシ

第十條　本倶樂部室ハ午前九時ニ開室シ午後九時ニ閉室ス日曜日祝祭日ハ休室ス都合ニ依リ臨時休室スルコトアルベシ

第十一條　會員ガ室內ニ揭示又ハ印刷物等ヲ配布セントスルトキハ豫メ幹事長ノ承諾ヲ得ベシ

第十二條　電話使用ハ必ズ給仕ニ命ジ市內ハ一通話ニ付金五錢ヲ支拂フベシ市外通話ハ之ヲ取扱ハズ

會告

今回當協會常務(編輯)評議員三浦尚史氏逝去ニ付定款第十九條ニ依リ昭和十一年二月十二日開會ノ評議員會ニ於テ常務ノ補缺選擧ヲ執行致シマシタ處下通當選セラレマシタ

常務(編輯)　評議員　堀口甚吉氏

定款第十九條ハ常務ノ補缺選擧ニ名壹ヲ追加シ評議員ニ但書ヲ之ヲ行ハサルコトニ決議アリマシタ

昭和11年2月

社團法人 日本建築協會

建築と社會

第19輯第3號　昭和11年3月發行

三月號

目　次

建築教育の今昔 …… 田邊平學 (13)
建築教育の片見 …… 澁谷五郎 (18)
都市美の問題 …… 葛野壯一郎 (24)
都市と防空 …… 小倉尙 (28)
豐公聚樂第の大廣間 …… 大熊喜邦 (35)
乾構造小住居試作 …… モトノ・セイゴ (43)

建築隨想

未來の大阪 …… 島田良馨 (81)
第十四回住宅問題及都市計畫國際會議 …… 吉田信武・津田文平 (48)
大阪驛前土地區劃整理內建物高の最低限度 …… (64)

新しい都市計畫と新建築

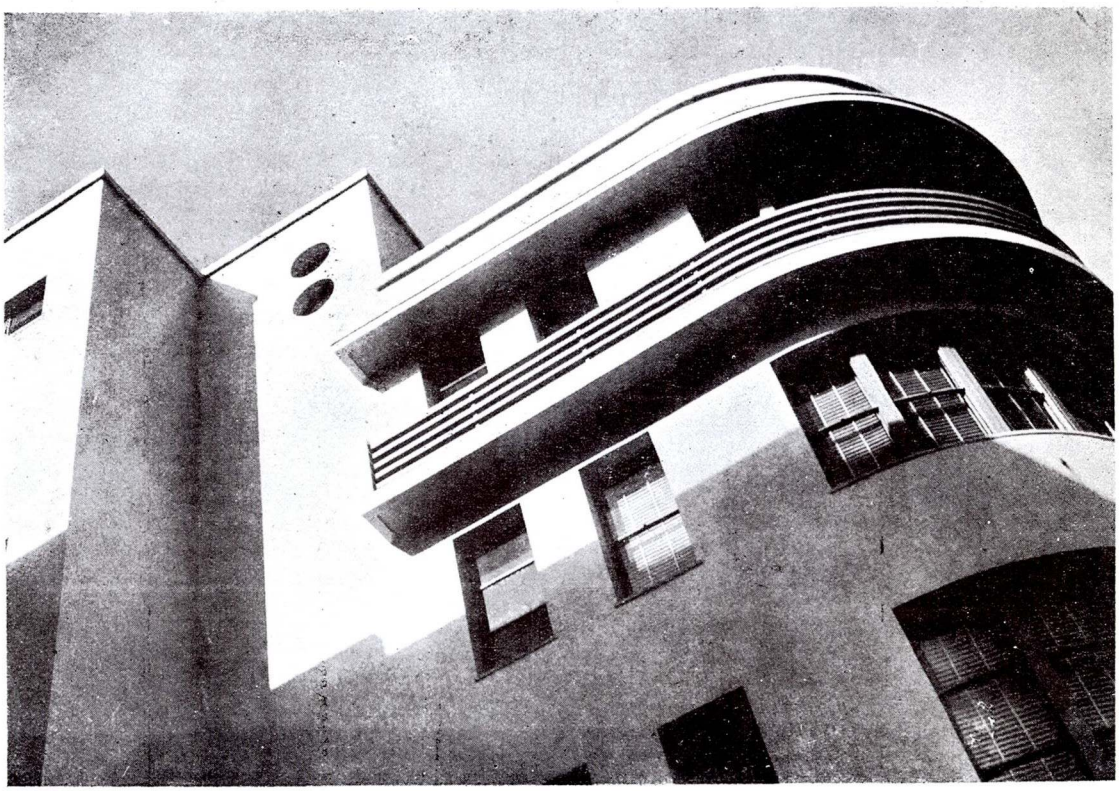
通過交通路計畫案（アメリカ） …… (71)
TVAに依る町の改造計畫案（アメリカ） …… (73)
チュービンゲンの外科大學病院（ドイツ） …… (75)
シカゴの Beverly Theatre（アメリカ） …… (76)
ワシントン、Reminton Rand Building（アメリカ） …… (77)
Davos のスケート・リンク（スイス） …… (78)
Davos の幼稚園（スイス） …… (79)
Winterthen-Seen の幼稚園（スイス） …… (80)

會　報 …… (72)

附錄・各府縣改正市街地建築物法施行細則（京都府廳・大阪府廳）

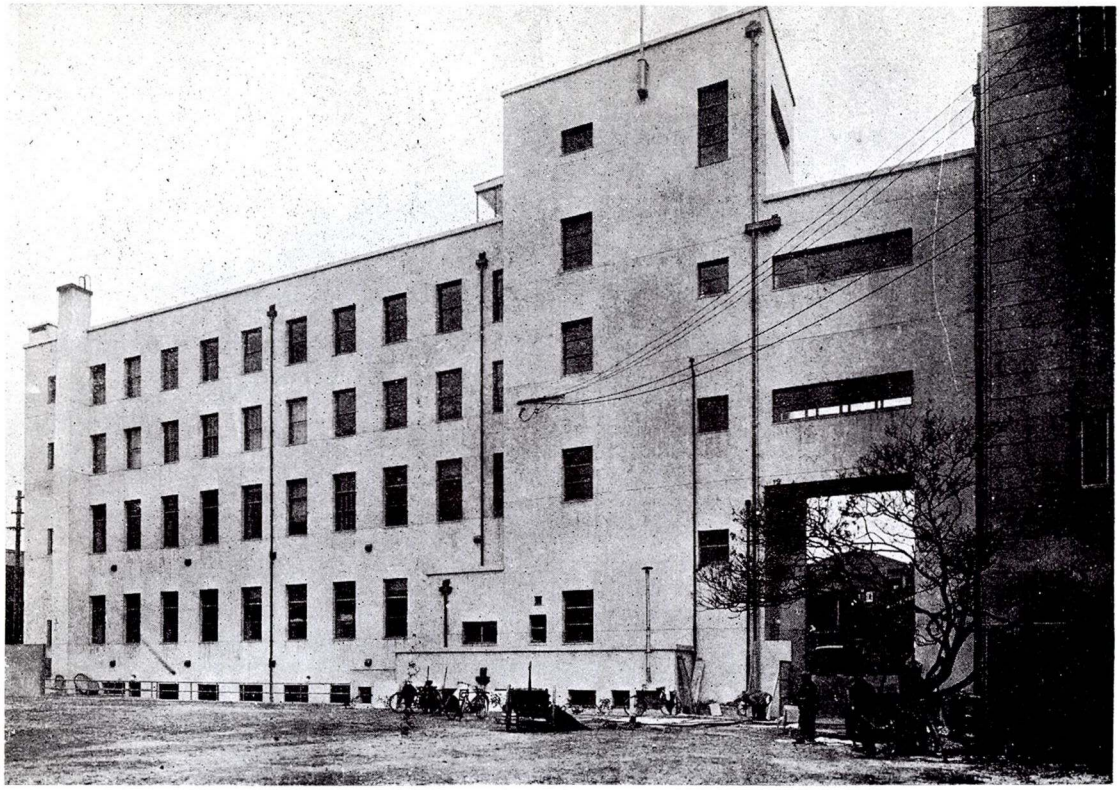


正面姿圖

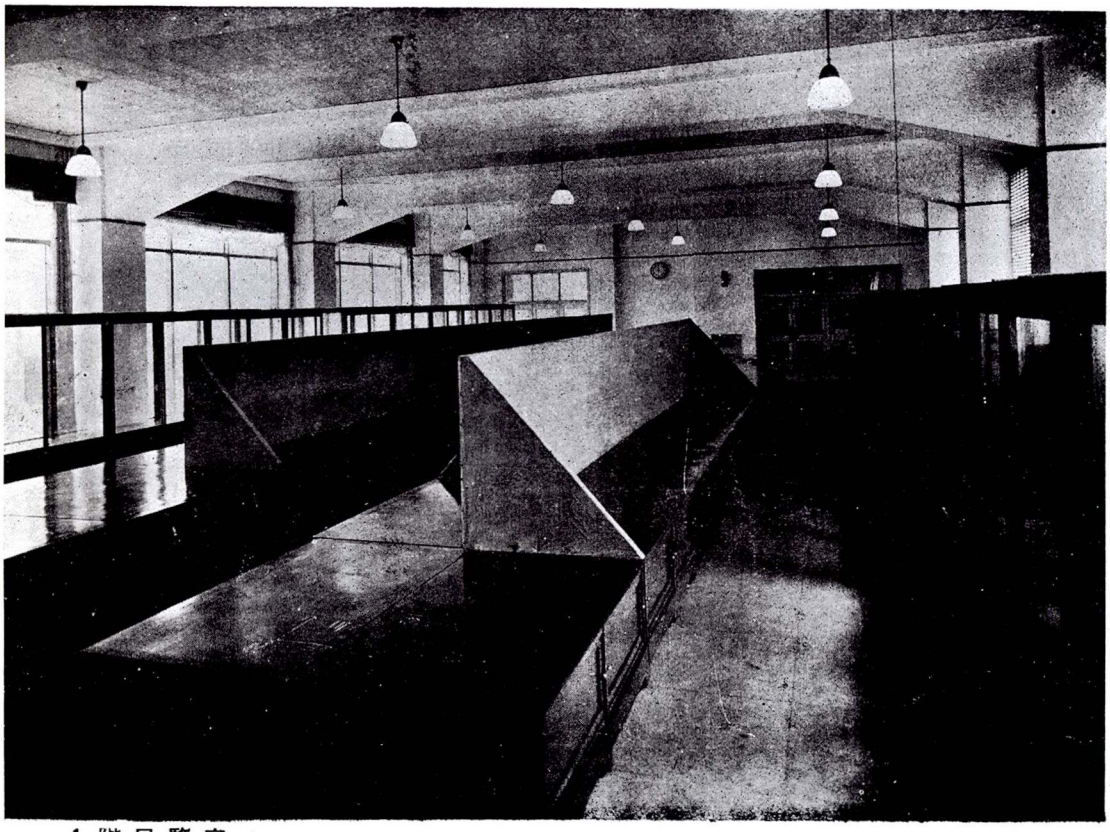


正面バルコニー

"大阪府立産業會館" 設計・大阪府營繕課・施工・新工務所

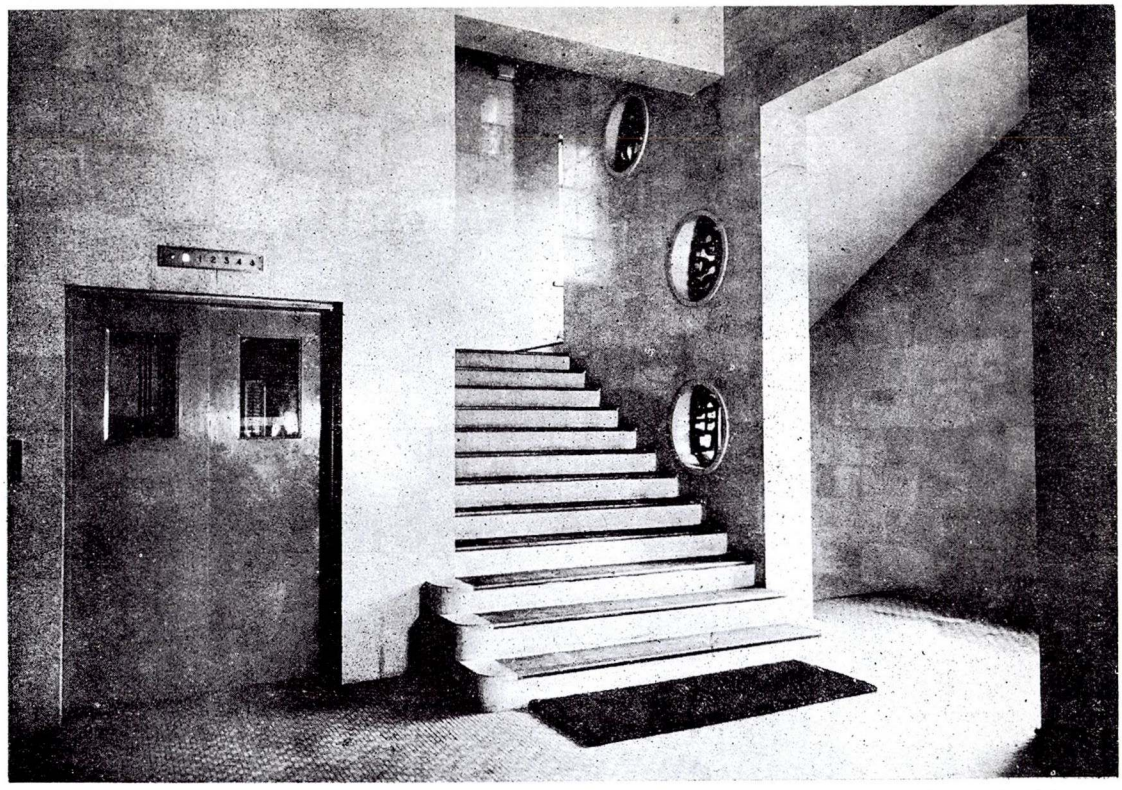


背面姿圖

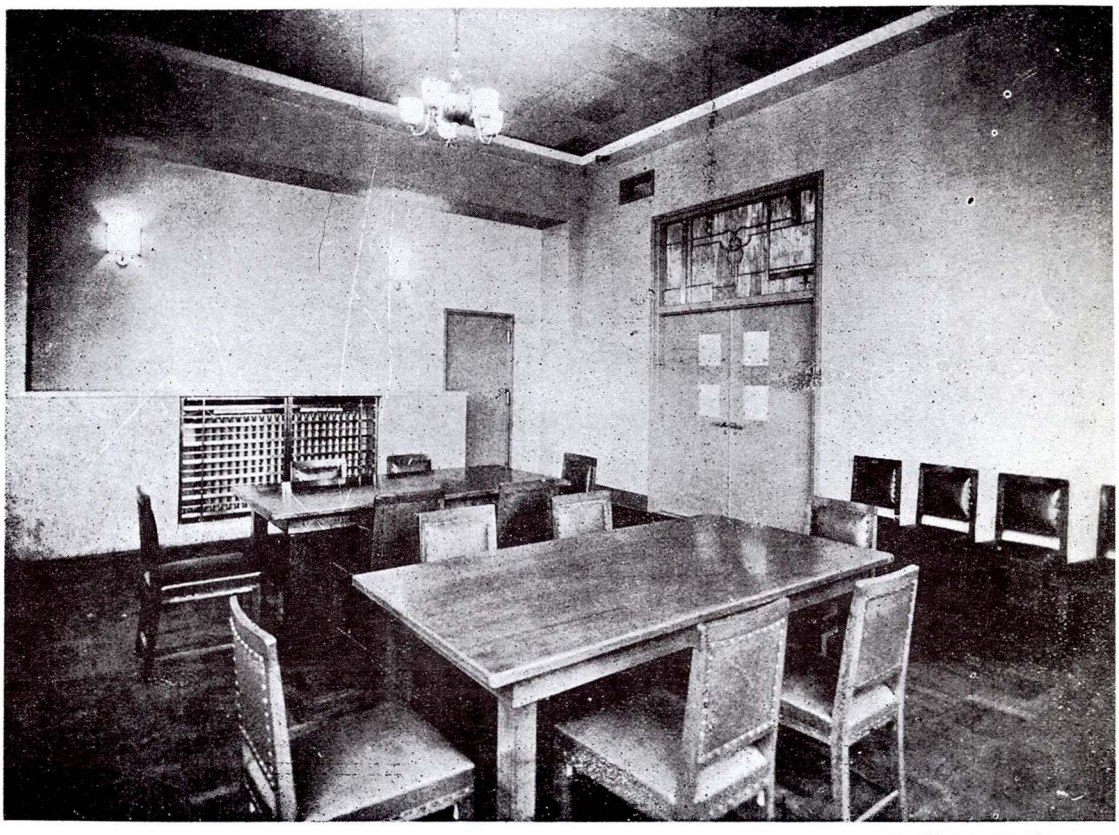


1階展覽室

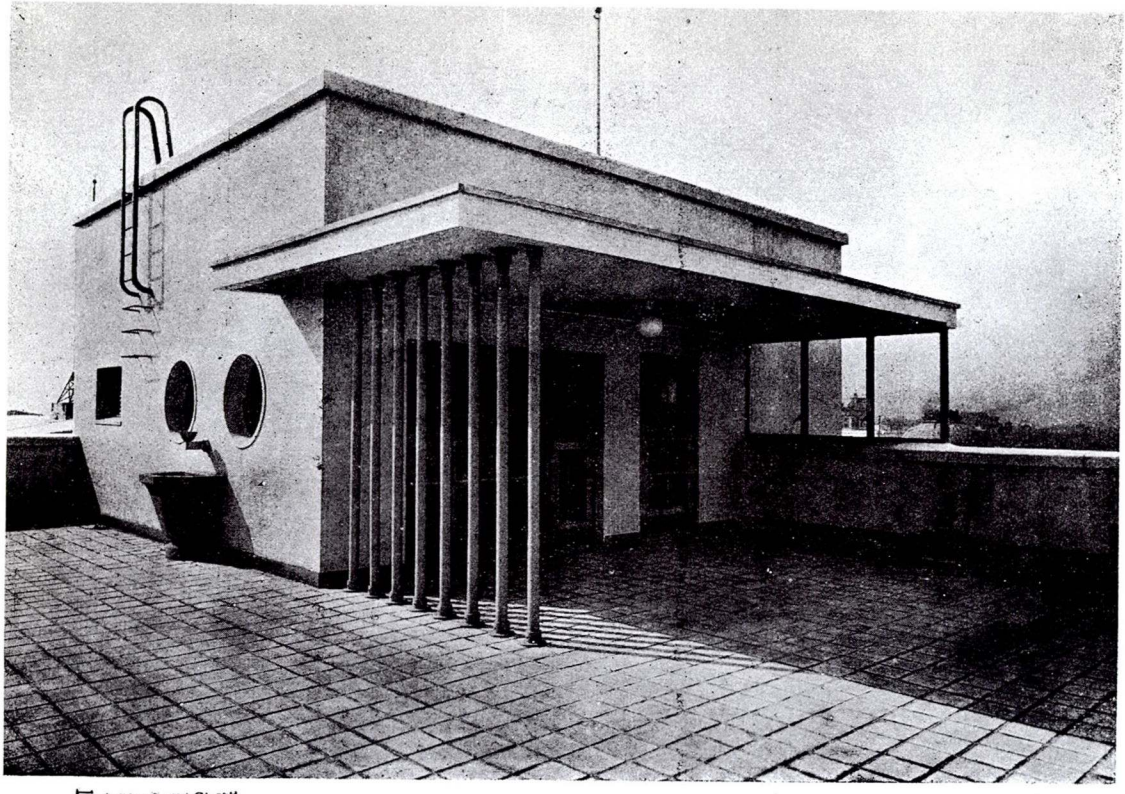
2 "大阪府立産業會館" 設計・大阪府營繕課・施工・新工務所



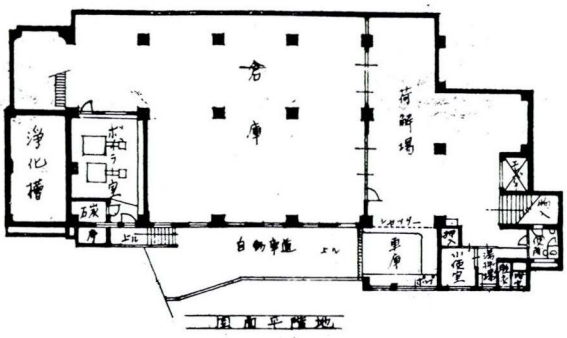
1 階 廣 間

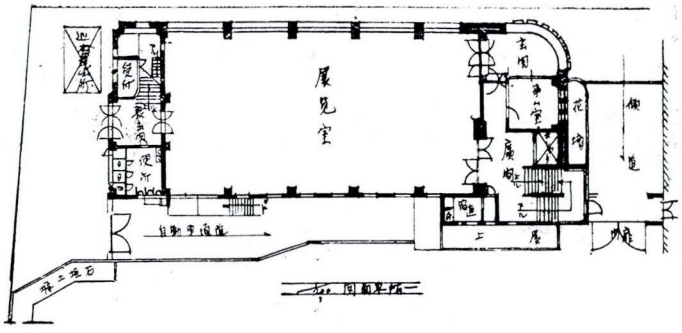


2 階 特 別 室

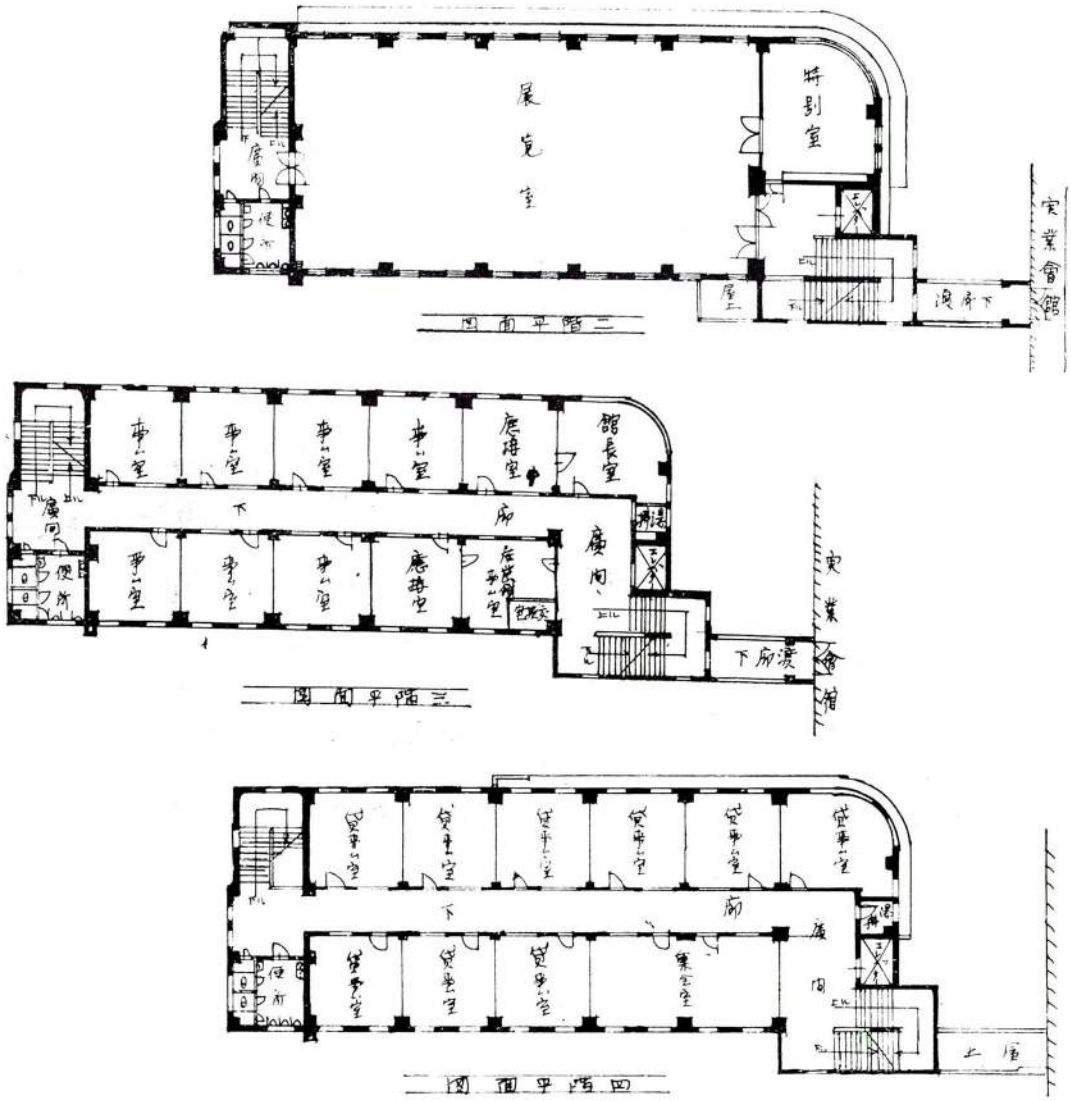


屋上突余至外觀





111 4 “大阪府立産業會館” 設計・大阪府營繕課・施工・新工務所



大阪府立産業會館新築工事概要

位　置　大阪市東區豊後町松屋町通り　　**延面積**　2,779.平方米61

地　階　551 平方米67　　2　階　546 平方米375　　4　階　533 平方米045

1　階　540 平方米865　　3　階　546 平方米375　　屋　階　61 平方米280

軒　高　18 米 42

工　期　起工昭和9年8月　竣工昭和10年12月

樣　式　明快なる近代式

各階諸室の配置

地　階　自動車車寄、荷解場、倉庫、汽罐室、小使室、浴室、便所、エレベーター、階段室

1　階　展覽室、玄關、事務室、エレベーター、廣間、階段、宿直室、更衣室、受付、便所

2　階　展覽室、特別室、廣間、階段、エレベーター、便所

3　階　館長室、應接室、會館事務室、事務室、給湯室、廣間、階段、便所、エレベーター、電話交換室

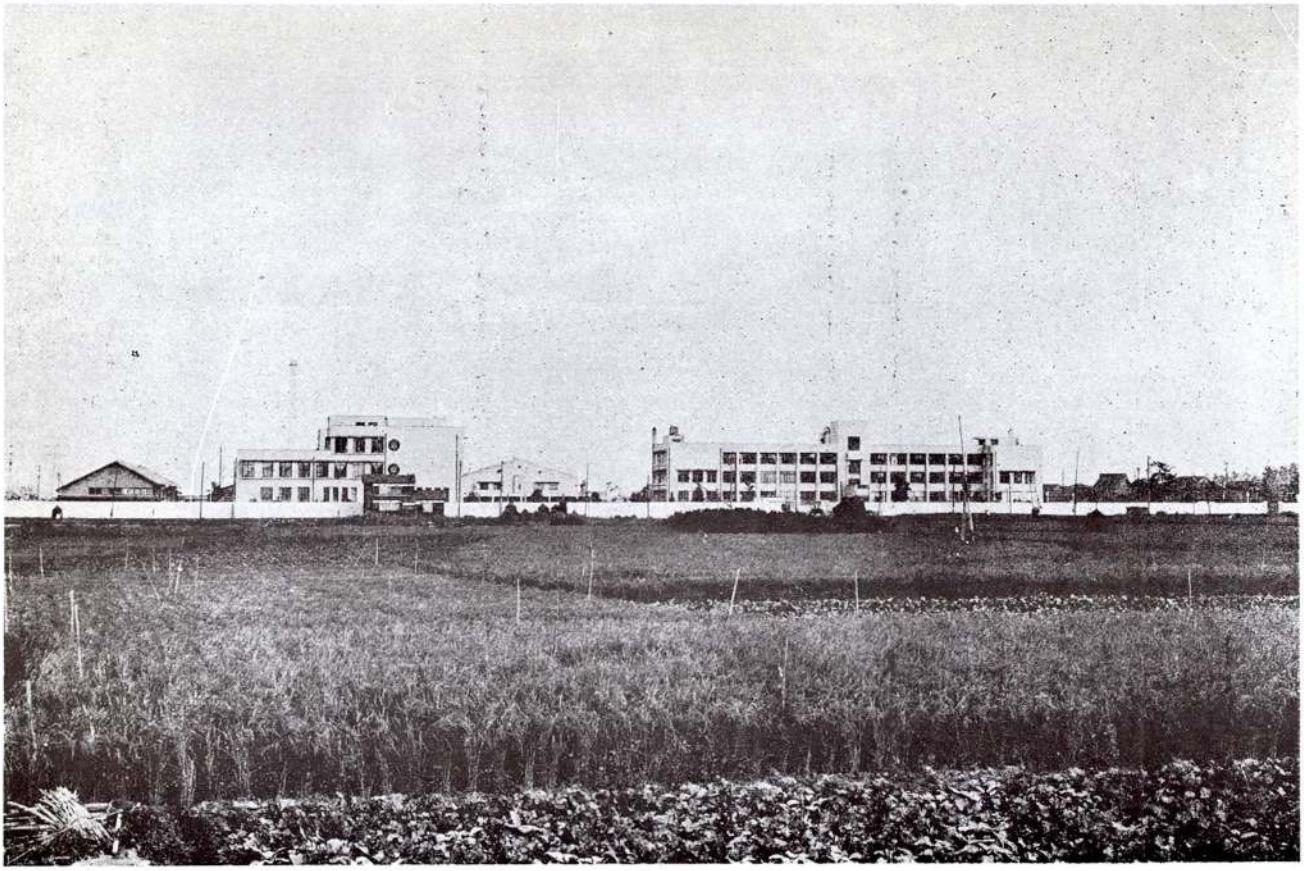
4　階　集會室、貸事務室、廣間、階段、給湯室、エレベーター、便所

屋　階　喫茶室、調理室、エレベーター、機械室

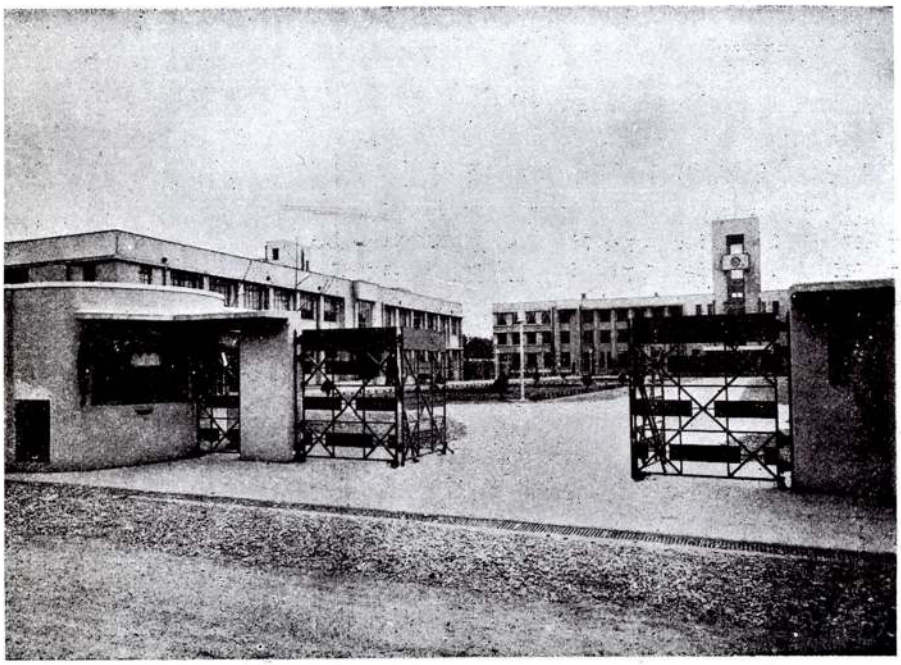
構造の大要

基　礎　布堀をなし、田中式シンブツキスコンクリート杭打ち、栗石搗き固め鐵筋コンクリート地形とす

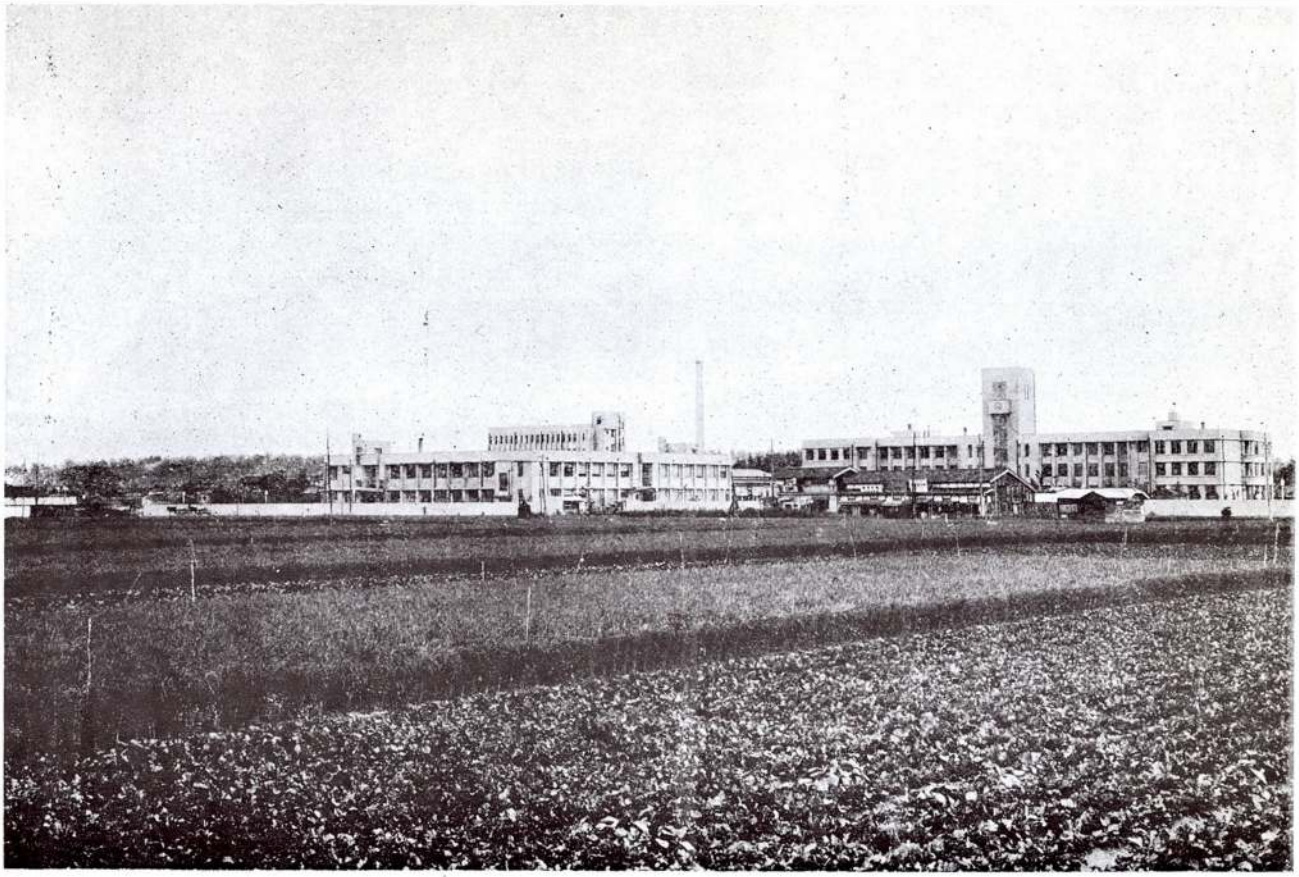
主　體　鐵骨鐵筋コンクリート造　　**設　計**　大阪府營繕課　　**施　工**　新工務所



商大學部・豫科及高商部を含む全景

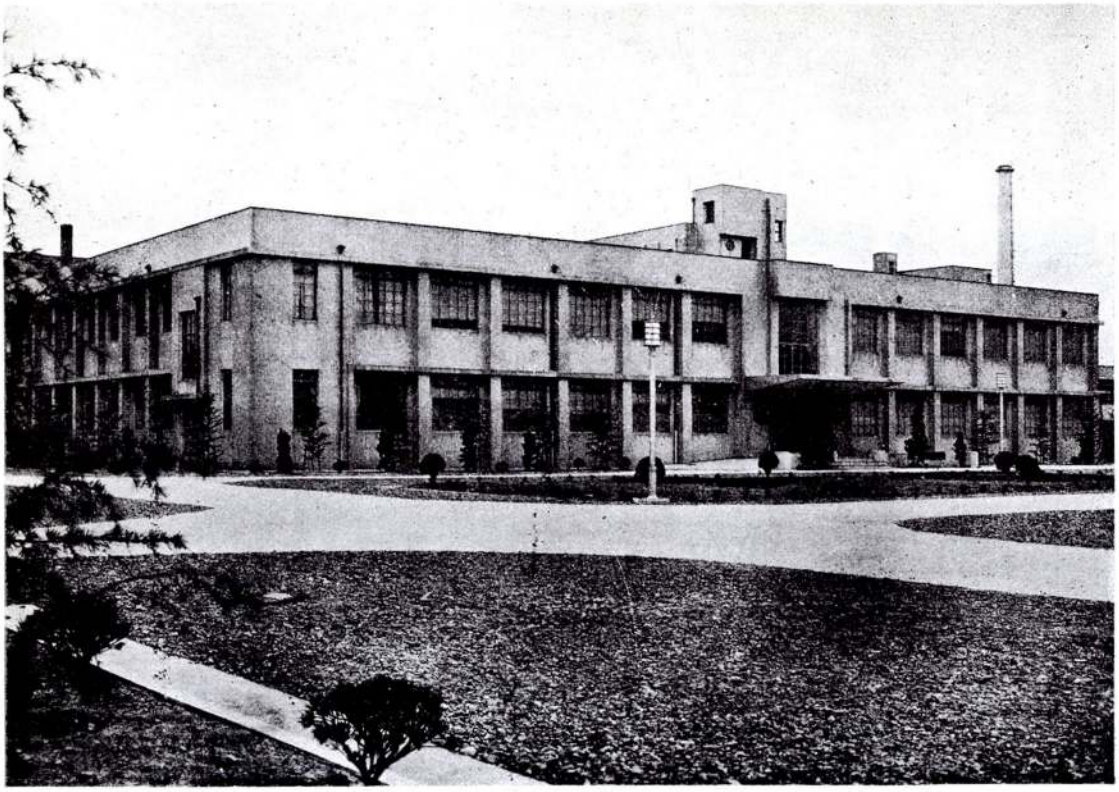


大學部正門より
學舍を望む

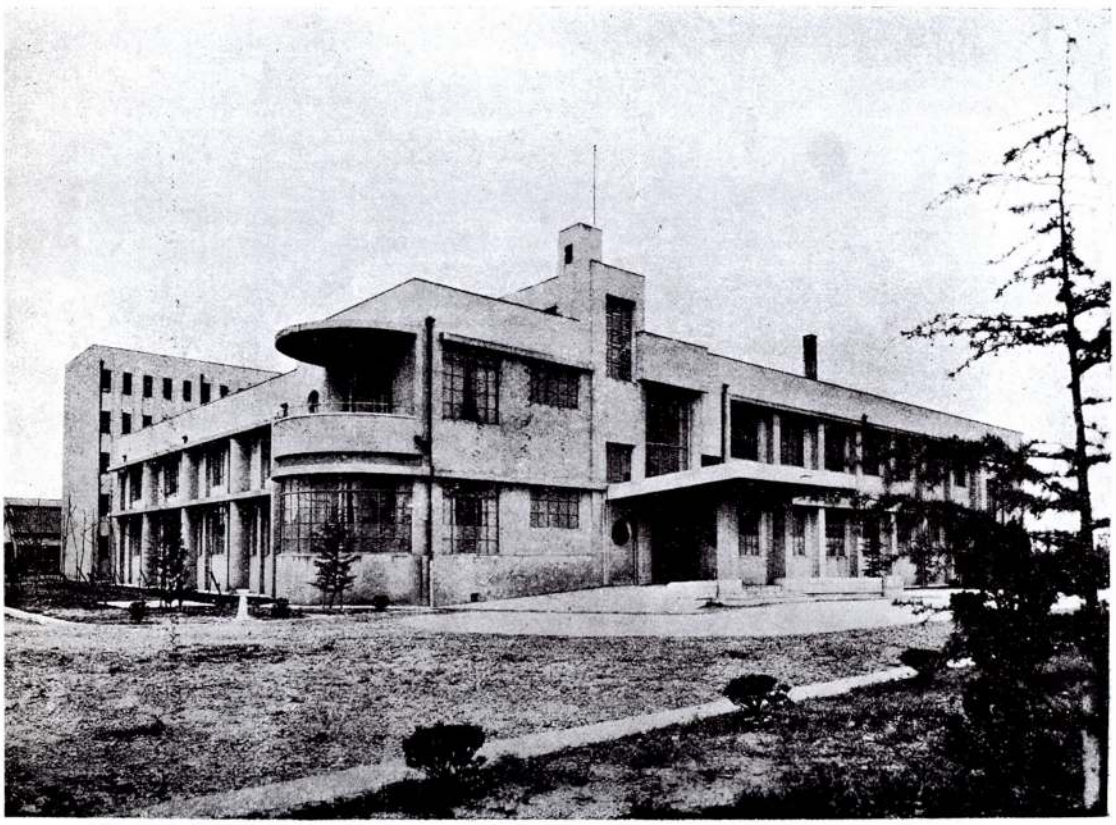


大學部本館



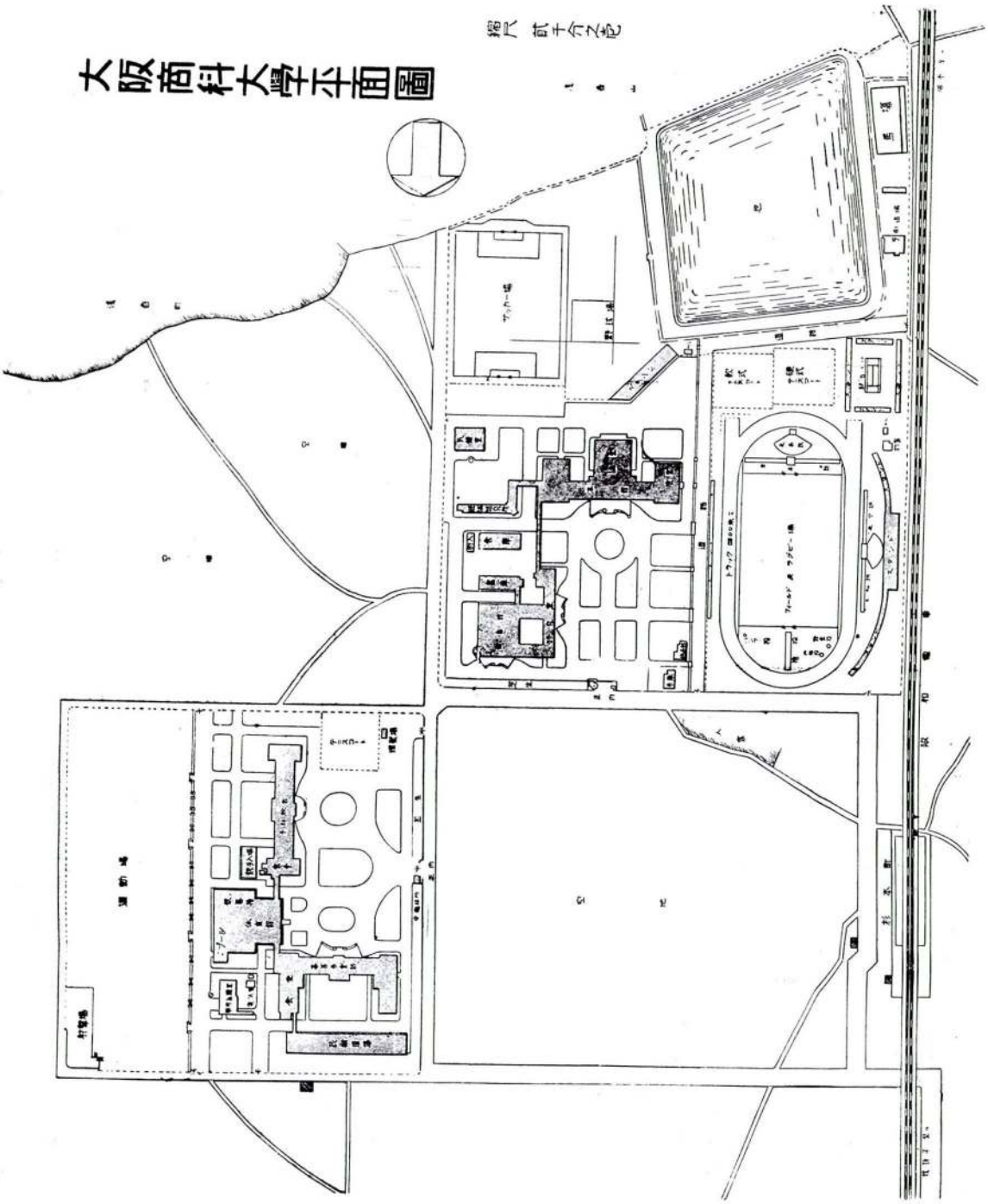


大學部圖書館正面

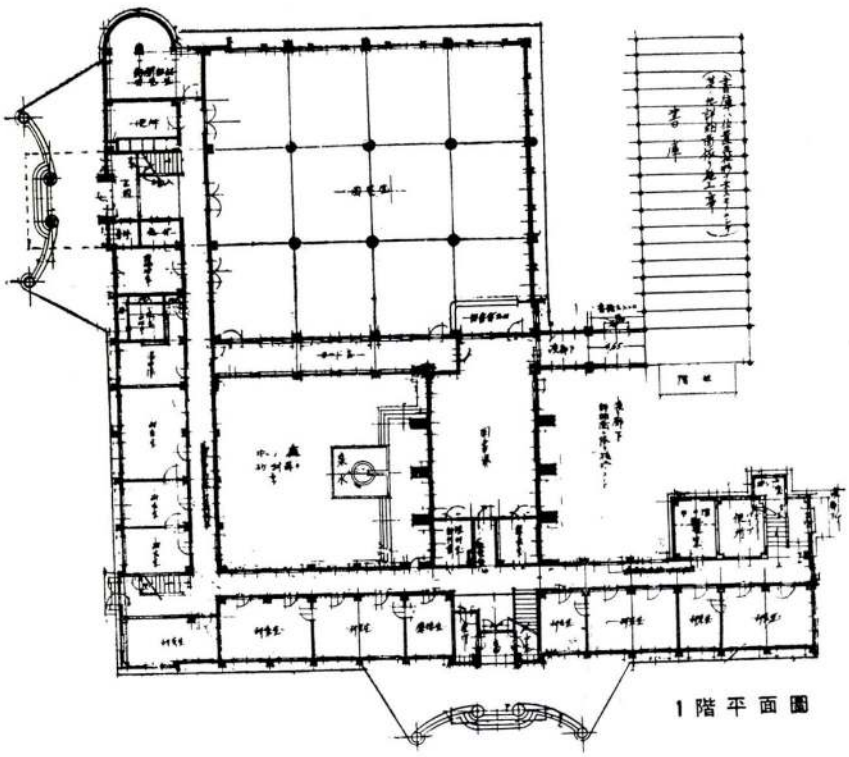


大學部圖書館側面

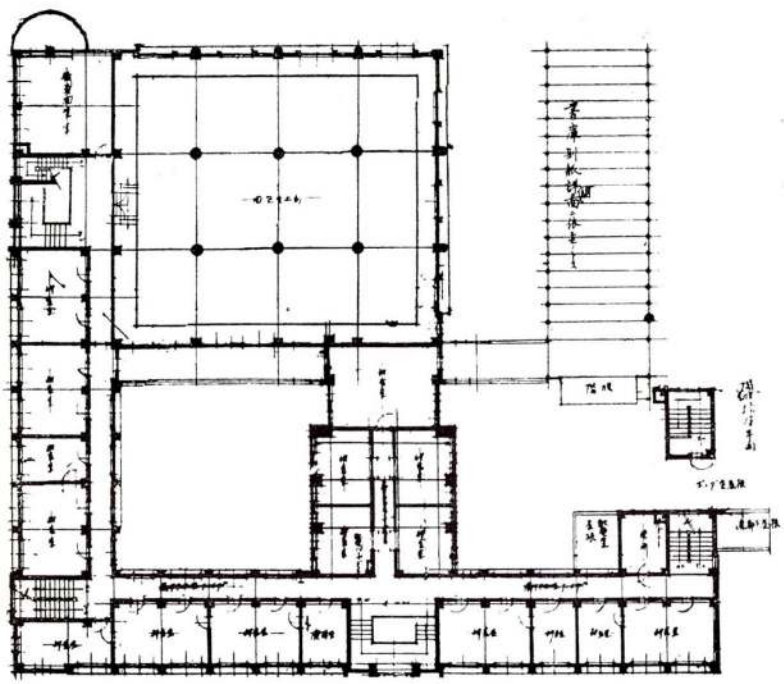
大阪商科大學平面圖



圖書室及研究室平面圖



1階平面圖



2階平面圖

大阪市立商科大學學部校舍新築工事概要

敷　地

南敷地(學　部)
113.431平方米　34.313坪
北敷地(豫科及高商部)
60.122平方米　18.187坪
計　173.553平方米　52.500坪
南敷地には學部本館、講堂、圖書館、研究室、書庫、經濟研究所、倉庫、自動車庫、弓道場、「テニスコート」、「トラック、フイルド」野球場、サッカー練習場、馬場等あり
北敷地には大學豫科高等商業部各本館、體育館、小講堂、武術練習場、銃器手入場、射撃場、運動場等あり

建　物

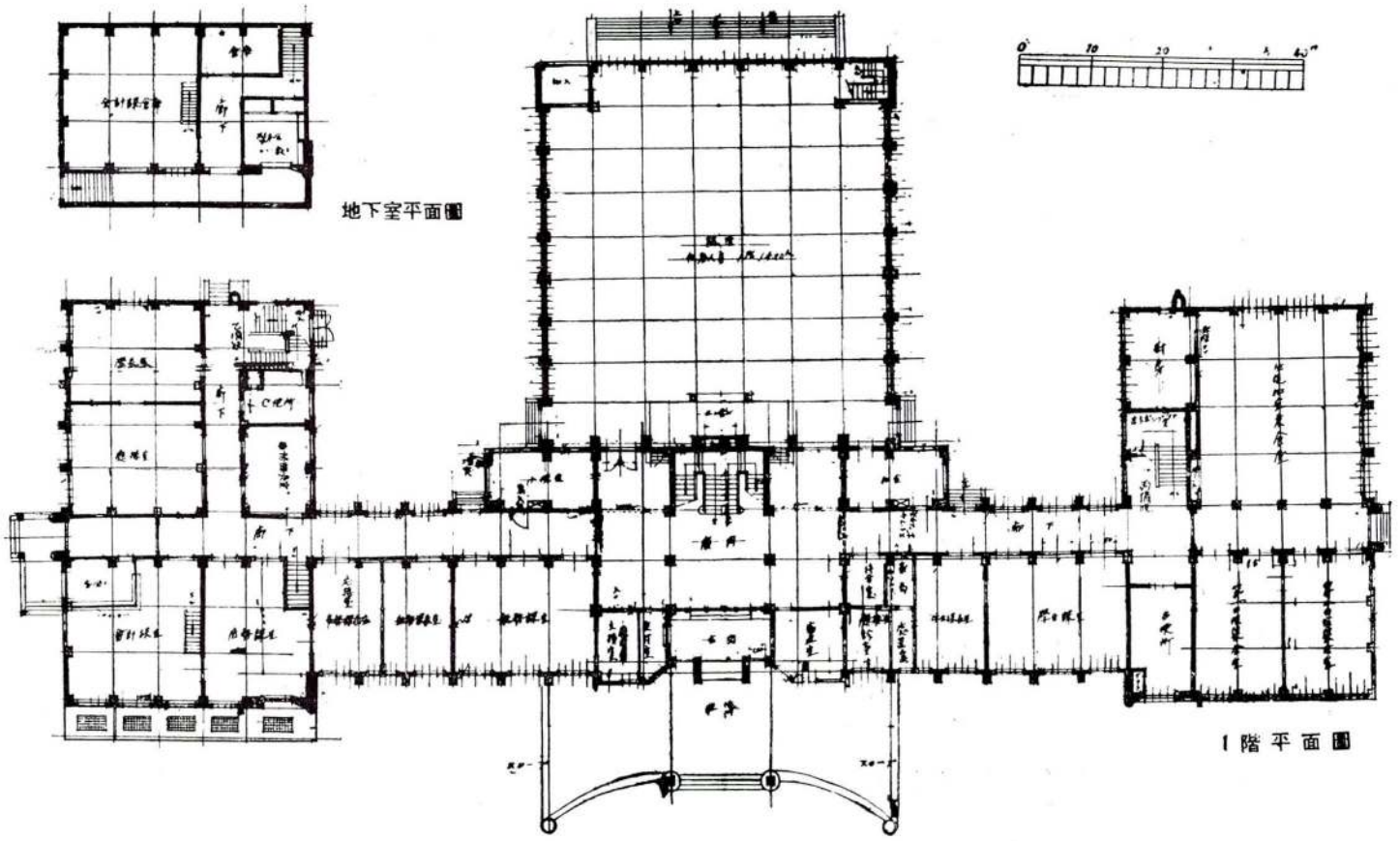
學部本館　鐵筋コンクリート造三階建時計臺及一部地階建坪 1.861平方米(563坪)延坪 5.785平方米(1.750坪)

講　堂　鐵骨鐵筋コンクリート銅板葺平家建 661平方米(200坪) ギヤラリー付にして固定椅子席 1,012. 移動椅子席 192. ギヤラリー 100人、來賓職員椅子席 100收容人員合計 1.404人なり、演壇上に御眞影奉安所あり

圖書館、研究室　鐵筋コンクリート2階建但し閲覽室は平家建ギヤラリー付建坪 1.740平方米(526坪)延坪 2.827平方米(855坪) 本建物は渡廊下にて學部本館及書庫に通ず

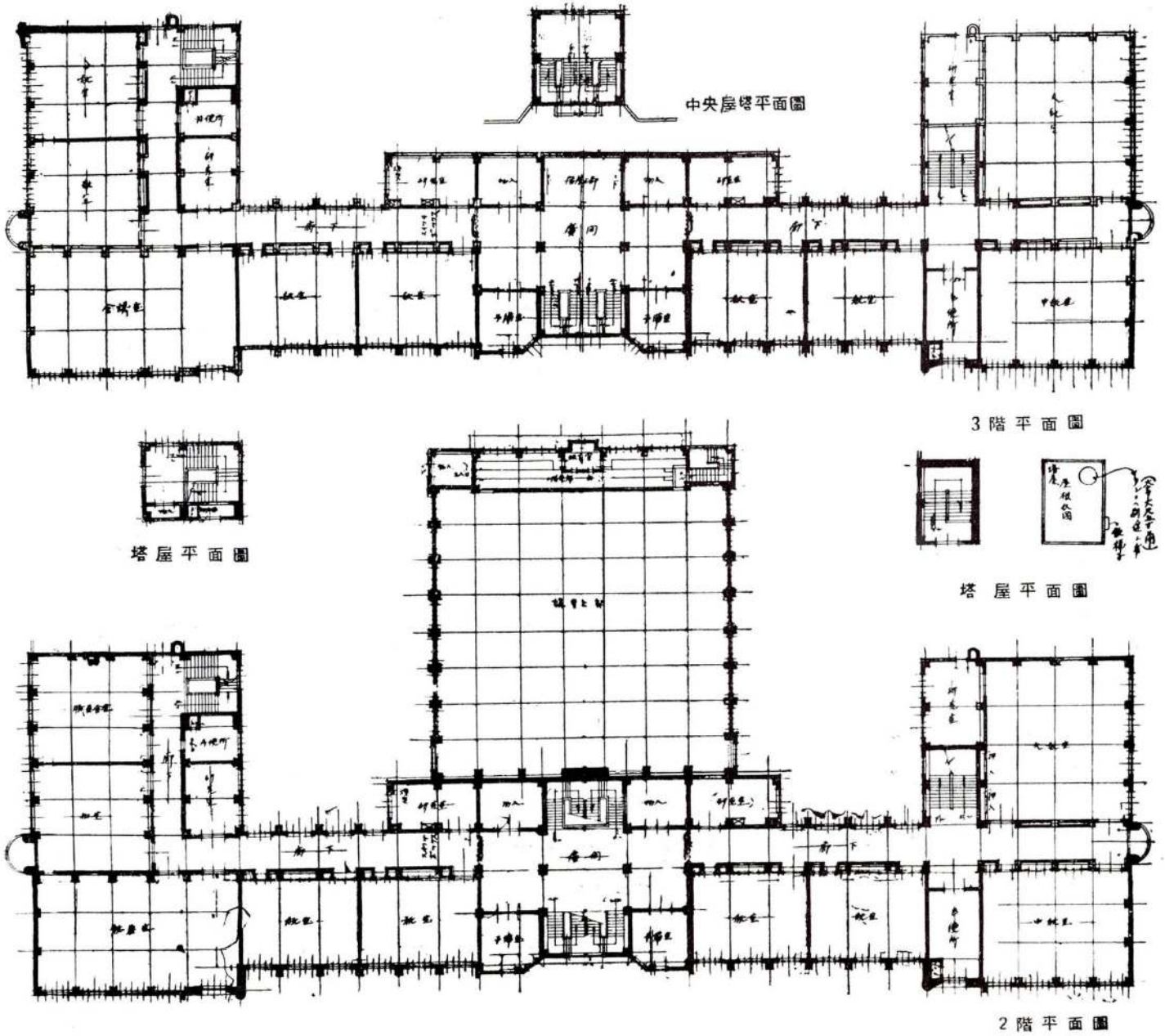
書　庫　鐵筋コンクリート5階建塔屋付建坪245平方米 (74坪) 延坪 1.242平方米 (375坪) 書籍運搬用自動昇降機を設備す内部書架特許XFM式木製連書架にして一連3間16列1、2階完成シ3階以上ハ舊書架書棚を使用中にして全收藏量15萬册なり

商大大學部校舍1・2・3階平面圖



地下室平面圖

1階平面圖


中央屋塔平面圖
3階平面圖
塔屋平面圖
塔屋平面圖
2階平面圖

建築教育の今昔

田邊平學

新卒業生の數

我國に於ける大小の各學校から、年々社會に送り出される建築科新卒業生の數は一體どの位あるだらう？

私はフト此の數が知つて見度くなつて、手近に在る學校一覽の數を引繰り返へして調べて見た。

先づ建築學科（若くは建築科）を有する學校から數へ上げて見ると、大學が5校（官立3. 私立2）、高等專門學校が9校（官立7. 私立2）、中等程度の工業學校が56校（甲種51乙種5少數の私立を除いて大部分は公立）と云ふことになつてゐる。

之等の學校から社會に送り出される建築技術者の數を拾つて見ると、最近の昭和10年3月に於て大學卒業者134名、高等專門學校卒業者256名を算する。試みに其の內譯を示せば下の如くである。

大學：			
東京帝國大學	30	134	490名
京都帝國大學	14		
東京工業大學	20		
早稻田大學	45		
日本大學	25		
高等專門學校：			
名古屋高等工業學校	36	256	
橫濱高等工業學校	25		
仙臺高等工業學校	35		
神戶高等工業學校	27		
福井高等工業學校	31		
東京美術學校	6		
京城高等工業學校	12		
南滿洲工業專門學校	11		
日本大學專門部	73		

即ち高級技術者の養成を目標とする高等專門學校以上の卒業者だけでも最近約500名の多きに達してゐる。中等工業學校の建築科卒業者に就ては正確なる數字を持合せないが、1校假りに30名平均として、56校では約1700名に上る勘定となる。而も之れは主として公立の學校に就ての數字であつて、私立の夜學校の數は含まれてゐない。若し苟くも「建築科」と名の付く程の學校の卒業生を大學から夜間の補習學校に迄亘つて殘らず數へ上げたなら、恐らく全國では1ケ年に3,000名を超えるのではあるまいかと思はれる。

年々之れだけ多數の建築家の卵を產み出し得るに至つた我國建築教育機關の整備充實振りも驚ろかされるが、又兎も角之れだけの新卒業生を年々何とかして消化して行く我國建築界の發展ぶりにも目を見張らざるを得ない。

初期の建築教育

卒業生の數から見た我國建築教育界の現狀は上記の如くであるが、斯の如き隆昌を來した我國建築教育の源は果して如何なるものであつたらう？

我國に於ける近代的建築教育の淵源を成し、今日見るが如き隆盛なる建築事業の原動力を成したものは、實に今日の東京帝國大學工學部の前身たる『工部大學校』であつた。工部大學校は人も知る通り、明治4年（1871年）に當時の工部省が東京市內虎ノ門に設置した我國最初の高級なる工業學校であつたが、我々の大先輩達は此所で始めて近代的建築學を授けられたのであつた。

工部大學校は明治19年（1886年）に至つて東京帝國大學と改稱され、組織や規則等にも變革が行はれたが、工部大學校時代の教育方法は專ら英國風であつた。即ち實習に重きを置き、卒業年限も6ケ年で、最初の2ケ年間は校內で學び、次の2ケ年間は半年宛校內と校外の實地研究とに分けて過し、最後の2ケ年は專ら實地に就て研究する事になつてゐた尙此の外に Post-graduate course として今日の大學院に相當する樣なものも置かれてゐたが、之れは志願者が甚だ稀であつたと傳へられてゐる。

當時の學生には2種類あつて、一は官費生で、他は自費生であつた。官費生の方は政府が學資を支給する代りに7年間政府の爲に働く樣に義務づけられてゐた。政府は斯の如くにして官費を以て工業技術家の輩出を奬勵したが、後には又特に學資を支給して工業教育家の養成に力を注いだ。此の制度は今日も猶「工業教員養成所」の名の下に二三の高等工業學校內に殘されてゐる。

明治12年（1879年）に工部大學校の建築學科（當時は「造家學科」と稱した）を卒業した4人の人々こそ、近代的教育を受けた我國最初の建築家であつて、今日我が建築界の最長老として敬慕されつゝある建築學會名譽會長曾禰達藏博士は實に此の光榮ある4人の中の1人なのである。

我國に於ける建築教育の初期を回想するに當つて忘れてならぬ人に故 Josiach Conder 博士がある。同博士の事績に就ては讀者のよく知る處であるが、明治10年（1877年）我が

工部省の招聘に應じてイギリスより來朝し、工部大學校の建築學教師として始めて西洋建築學を我國の青年學生に教授されたのである。其後明治18年（1885年）に期滿ちて解傭となるまで、同博士の指導を受けて大學を卒業した學生は前記曾禰博士を筆頭として何れも皆我國新建築界に先驅をなした人々である。Conder 博士は其後も帝國大學の講師を囑託せられ、工科大學に於て永く建築學科學生を指導せられた。同博士は又官廳の技師として或は又民間の建築士として大正9年（1920年）東京に於て69才を以て永眠せられるまで、日本在住の44年間に亘つて各種の設計及び監督に當り、實際的方面に於ても幾多の模範を示された。東京帝大の校庭に博士の銅像が建設せられ、日本建築界の父として其の功績が永遠に記念せられてゐるのも亦宜なる哉である。

明治初期に於ける建築教育の內容を窺はんが爲に、試みに工部大學校を帝國大學と改稱した明治19年（1886年）當時の建築學科の學科課程を示せば下の如くであつて、今日の大學若くは高等專門學校に於ける學科課程と比較して見ると、洵に興味津々たるものがある

第1年

數學	建築材料及構造
應用力學	建築沿革
測量學	製圖及意匠等
配景學	物理實驗

第2年

穹窿架法特別家屋意匠	衞生建築特別意匠
裝飾法	仕樣及計算等
建築物理	製圖及意匠等

第3年

建築條令特別講義	實地演習
製圖及意匠等	卒業論文意匠等

建築教育の日本化

我國に於ける近代的建築教育は以上の如くにして其緒に就いたものであるが、爾來今日に至る60年間の進歩は、質的にも量的にも實に目覺しいものがあつた。第一に特筆すべきものは建築教育が完全に日本化された事である。即ち初期に於てはイギリス人教師によつて教授せられたる關係上、自然イギリス風の教育が行はれたが、程なく辰野金吾博士等の日本人教師が之に代つて教鞭を執らるゝに及んで、日本古來の建築法に就ての研究も復興し來り、又イギリス其他西洋風の建築法も最初の直寫時代を脫して、完全に咀嚼され消化されて著しく日本化さるゝに至つた。

特に建築材料學·構造等學に關する科目の教授法は、明治末期に佐野利器博士が東京帝國

大學の講壇に立たれるに及んで俄然面目を一新した。即ち從來のイギリス風の教授法は一變してドイツ流を加味した日本式となり、從來の單なる“Architect”を目標としての教育法に、ドイツの“Bauingenieur”式教育法が多分に織込まれ、建築を單なる美の對象として研究する以上に、更に之を材料的に又構造的に科學の立場から深く考察する氣風が盛んになつて來た。

氏の氣運に一段と拍車をかけたものは彼の大正12年（1923年）の關東大震災であつた。未曾有の大慘事たりし此の大震災は、其の必然的結果として、我國の建築界に對して、有形に又無形に多大の教訓を與へた。殊に歐米風の構造法乃至施工法を直寫した煉瓦構造や石構造の建築、乃至は鐵骨煉瓦造の高層建築が隨所に慘澹たる被害を蒙つた事は、我國の建築家達に異常なる刺戟を與へた。「耐震耐火」を第一義とする純日本式建築構造の完成が高唱され、民族的自覺の下に日本化された建築教育の必要が焦眉の急とさるゝに至つた斯の如くにして我國の風土に適せしむべく、特に科學的研究に重點を置いた建築の教育が日本全土に亘つて勃興して來た。之れを最も有力に物語るものは近年頓に其の數を增して來た建築關係の學校であつて、60年前には只僅かに東京帝國大學の建築科があるのみであつたのが、現在では、既に述べたる如く、建築學科を有する大學のみでも、其の數5校に上つてゐる。

我國建築教育の特長

最近に於ける我國建築教育の特長は然らば那邊にあるであらうか？此の問に對しては種々なる方面から多樣なる答が得られることゝ思ふが、自分は、特に我國の大學若くは高等專門學校に於ける建築教育の一特徵として、**設計製圖**と**構造學演習**とが共に必修科目として同格的に重く取扱はれてゐる點を擧げ度いと思ふ。

建築學科の課程として「設計製圖」が必修とされる事は當然であつて、洋の東西を問はず、又過古現在恐らくは又將來を通じて、建築學科に關する限り、恐らく此の點は不變であらうと考へられるが、「構造學演習」を「設計製圖」と同等に重視し、之は必修として建築學科の學生に課してゐる國は、私の見て廻つた範圍內では、我國以外には斷じて類が無い。

即ち卒業後實社會に入つては、各自の得意とする所に從つて或は意匠計畫を主とする從來の意味の建築家（Architect）となるなり、或は又構造計算を專門とする建築的技術者（Architectural enginer）となるなり、勿論隨意であつて、殊に建築が進歩し複雜化するに伴つて、專門が益々狹く深く分れて行かうとする此の傾向は將來益々顯著になるものと信ぜられるが、少くとも學校教育に關する限り、我國に於ては設計製圖を學ばずして徒らに構造計算や實驗的研究のみに走つた所謂「計算屋」の如きものは存在が許されず、同時に又、構造計算やコンクリート試驗方法の何物たるかも解せずして從らに表面の美のみを追

ふ如き不健全なる建築家も容認されぬ事になつて來てゐる。

而も此の條件は單に學校教育に於て望まるゝ理想と云ふに止まらずして特に關東大震災以後、材料並に構造學に關する知識が我國に於ける建築家として具備すべき重要なる要素として實社會に於て重視强調されつゝある所とも亦完全に一致してゐるのである。

實驗室を整備せよ！

現在の我國建築教育界に於て實驗を基礎とする構造學演習が重要とされる所以は正に上記の如くであるから、今日に於ては、從來の如く**製圖室のみを有して、實驗室を有せざる建築科は學校としては片輪である**と云つて敢て過言でない。「工業學校で一番金のかゝらぬのは建築科である製圖板さへあればよいから」と云ふ樣な考へを若し今日持つてゐる者がありとすれば、その人は時代遲れの甚だしい事を先ず恥ぢねばならぬ。建築教育に當る者は勿論、爲政者も此の點に就ては大いに考慮せねばならぬ。「實驗的研究は大學に任せて置けば良い」と云つた樣な考へは根本的に間違つてゐる。高等專門學校は勿論、中等程度の工業學校に於ても盛んに實驗的研究を行はねばならぬ。此の場合何時も問題になるのは經費の點であるが、私に忌憚なく云はせば、無いのは「金」ではなくて寧ろ「意志」である。實際やらうとする意志と熱意とが充分にあれば、道は必ず開けて來る！實驗設備のない學校が、たゞ「實驗室が欲しい」と口にしてゐる丈けでは、何年經つたとて實驗室の出來る氣遣は無い。最初から完全なものを狙つては無理だ。先づ手近な所から取掛られねばならぬ。それには試驗機の一臺もない學校なら、先づ最も廉い「セメントの引張試驗機」位を一つ買つて貰ふ樣に全力を擧げ努力する事である。セメント引張試驗機が首尾よく手に入つたら、その機械で出來る範圍の仕事に努めて興味を持つて、自分も研究的に仕事をし、生徒にも盛んに實習をさせるのである。そして成績の上るのを待つて次の「コンクリート壓縮試驗機」を要求する段取にかゝるのである。追つて此の調子で熱心に仕事を續け成績を擧げ乍ら要求して行けば、世間には目明きもゐる。必ず努力が報ひられて希望が達成せられ、所期の完備した實驗室に迄發展し行く可能性のある事を私の狹い經驗の範圍からではあるが、太鼓判を捺して保證する。

我國の建築教育も日に月に盛んになり、構造學演習が各學校に於て愈々重視さるゝ氣運に向つて來た事は、我々の日頃の主張が着々と實現するものとして、邦家の爲同慶に堪へぬ次第であるが、反面に於て、特に中等程度の工業學校方面で、「實驗室を持たぬ惱み」を屢々聞かされるので、敢て所信の一端を披瀝した次第である。重ねて申上げるが要は「金」ではなくて「意志」に在る。建築教育關係の方々が强き意志を持つて不斷に努力を續けられ、若し爲政者が不明ならば、熱意によつて其の蒙を啓く迄の決心を持つて、完全なる建築教育の確立の爲に實驗室の整備に對して猛進されんことを所念して止まぬ次第である。

Woein Wille ist, da ist auch ein Weg！ 意志ある所必ず道あり

昭和11年紀元節東京工大建築學教室にて

建　築　教　育　片　見

澁　谷　五　郎

工業教育が我國に創められてから早や五十年を過したが、初期の我國情から比較すると現在は丸切り夢以上の飛躍進展振りで、特に經濟產業上の發達は誰れしも昔を知る者の驚く所であらう。歐米先進諸國の產業狀態や工業教育や科學の驚異的活用を瞥見して驚嘆した往時の先覺者が非常なあわて方で其等の「文明開化」を取り入れやうと、一にも二にも其の模倣に日も足らぬ程焦慮はしたものゝ、事實は彼此比較にもならぬ貧弱な財政下で止むなく急救手當の様な工業教育を創めたに過なかつた事は、現在から見ればむしろ大に敬意感謝を捧げねばならぬものがあると思ふ。そんな工業教育を受けた人々でも。社會に出ると相當な指導的地位に立つて自他共に苦しみ惱みながら次第に我が產業界を興隆發達せしめて來た事は國民性獨特な明敏の致す所であると共に亦將さに諸先輩識者の精進努力のたまものとして、現在を享有する工業界全般が深く謝恩の誠をぬきんでねばならぬ所であつて歐米先進國民から見れば實に一般の驚異にちがひない。ところが次第に產業實際界の發展や國勢の躍進に、相伴つて工業教育も進步したのかと言ふと、アベコベに何時の間にやら教育界が產業界にリードされて仕舞つて、卒業生は產業の實際界に入つてからやつと其處の先輩や職工によつて再教育をせられつゝ、數年の後に初めて一人前の技術者になると言ふ様な轉倒した實情になつたのである。これでは隨分實業界に御迷惑をかけて居る事になるが、割合に社會が寬大である時期（例へば非常な好況の結果人を多く必要とする様な）間は教育者も無反省、好い氣になつて太平樂をきめては居れやうが、そんな事は何れにしても經濟上長く放置すべきでない。勿論卒業生が其儘どんな仕事にも直ぐさま役立つ様な教育は、限られた課程や年限で以て得られると思ふ事も亦非常な誤まつた過欲な期待ではあるが、さりとて今少し、否大いに工業教育の內容を此の進步した社會實勢に相應したものでせなければ、普通教育を卒へた者を工場や現場に入れて再教育をする方が却つて基礎學のしつかりしたのびのびした者が得られる等との批評を社會人から放送せられるやうな結果に陷ると思ふ。

つい工業教育全般に涉つての議論步調になりかけたが、茲に問題を狹めて標題に揭げた「建築教育」の片見を述べる事に急がねばならぬ。しかし機械、電氣、土木、造船、纖維、窯業、化學、醸造、礦業、等諸他一切の工業教育に就いても、各々其專門的立場からそれぞれ教育擔當者が一段の大反省と努力を必要とする事に於て異論の有らう筈がないと思ふのである。誠に工業教育にたづさはる者は、唯單に過去創始時代からの傳統的形體を墨守

して、これを破りこれから脫却する事を危險視するが如きは、徒らに曠日彌久無難に俸祿を食んで安價な滿悅を喫しやうとする者と笑はれても全く辯護の餘地が無いかも知れぬ——勿論私も其の笑はれる仲間の一人である——"弱き者汝の名は教育者なり" 隨分うがち得て居ると思ふ。其處で局に教育を司る爲政者が斷然思ひ切つた施設經倫をのべて全國工業教育の職に當る者を大いに愛護すると共に大いに捧唱を喰はし腰の立たぬ者はすみやかに淘汰して、戰場老殘りの古武士と言つた様な實際經驗のある士を資格とか年齡とかの形式を超越して起用すべきであると思ふ。見渡す所隨分有用工業人材が、老後を安逸に第一線から退却して菊を作つたりなどして、老を養ふなどの事實を見るが、乃木將軍が老後を教育に捧げた様に、其等の人も大いに死ぬまで奉仕すべきであると思ふ。

偖てこれから本論に入るが、先づ建築教育の內容たる「意匠計畫」「構造施工」「材料の吟味撰擇」「職工統制」の四大技能が學生生徒を相手に定められた修業年限教課時數に依つて、校舍設備を道場として教師によつて注込まれ啓發修練せられ是非とも役立つ技術者に仕立上げねばならぬのであるがそれには教課の順序配列組合と言ふ事は事實上重大な効不効を將來すると共に一々の教課取扱、教授の方法によつて非常な得不得を結果するものである。それは歸する所皆教師たる人の巧不巧有力無力によるものであつて今、茲に其の一々の取扱方法に就て述べる紙面が許されて居らぬから前に大別した四大要目に就て概說するに止めたいと思ふ。

(1)「意匠計畫」 これには何れの學校でも相當多くの時限を配當しては居るが、通觀するに何れも教師自身、過去創始時代に、行き屆かぬ放任的な指導方法によつて在學中の製圖室を經過したのと全く同じ様な方法を、今も尙其儘にくりかへして、生徒や學生は大切な時間をたゞ自分模索し、足をなで、鼻をつかみ、尾を握つて互に象の全容を知つたかの様に自惚れ得るまでには非常な困惑迷倒、眞面目な者は神經衰弱に陷るばかりの傾向が多く、しかも具眼の士から一瞥すれば、丸きりモノになつて居らぬ様なものを仕上げかけて居るのに肝腎の教師の机間巡視や個人指導が一向不徹底である爲めに、氣付いた頃にはもう時間不足で課題を提出してしまうと言ふ様な始末で、更に又其の提出した仕事を教師はどれ丈けの時間と根氣をかけて其の「デフエクト」を訂正する爲めの努力を與へて居るかと言ふと、丸きり懸賞募集圖案の審査員が直感的撰別法でやるよりもより簡單に机上を經過さすと言つたやり方が多い様である。こんな事になり行く原因の重大なる根柢は、當局が建築科の爲めの豫算を機械や電氣等の科よりも「ウント」少なくして居る關係上、教授指導の人件費の不足によつて建築科の教師は極めて少數であるから、止むを得ぬ結果からである。機械電氣では教授擔當者以外に實習教師として相當な技能者を配置して直接學生生徒の個別指導が出來る様に施設せられては居るが、建築科に至つては、講義擔當者が製圖室をも管理し、しかも其の教授者には實際技能を社會で經驗した人が少く、多くは學校卒業のまゝの若い薄給な人を、たゞの監督者(番人)の様に付けてある丈けで、生徒の習

作を巡視して一々其の缺陷を途中に發見して指導したり、困り抜いてぼやぼやして居る者に示唆を與へてやつたりする丈けの力と時間的餘裕を持たぬと言ふ狀態が最も多いのである。これは全く、創始時代から建築科の製圖意匠は學生生徒に放任してもよいとの謬見からの惡習慣がそのまゝ看過せられつゝ、今日及んだもので、當局としては大いに此點に反省一番すべからく人件費を充分に與へ、立派な技能者として指導教示せしむる樣にしなければならぬと思ふのである。それと共に一面現在各學校に在職する教授者は亦勉めて街頭に進出し奉仕的に實際の仕事の練習を目的とした實習をとげる爲めには、俳句や圍碁や謠等の餘技にうれしがつて居るべきではあるまいと思ふ。理想的の教師を得る爲めの方法に就ては大いに考へを慮らさねばならぬ問題であつてそれには稿末に揭げた私案（文部省諮問の答申案）が一策と思ふのである。

（2）「構造施工」についても前段に述べたと同樣な意見を述べねばならぬが、其れと共に一言したい事は最近鐵筋「コンクリート」構造施工の興隆發達によつて、例へ中等程度の學校でも其の强度計算については一通り習熟せしめなければならぬ事は異論はあるまいが、さりとて其の理論的な事を序論からシヤナリ、シヤナリと說き述べられては丸きり歸趨に迷ふてしまひやすいのであつて、何よりも先づ第一に圖表を使用して速かに合理的合法規的に各部材の算定をなし得る樣に習得せしめ、然る後にこそ初めて其の理論を理解せしめるべきで、それが最も能率的なのである。專門學校以上でも此の點は全く同樣だらうと思ふ。私は何時も思ふ事であるが實際を處理し得る技能に裏付ける爲めと變化に應用自在ならしむる爲めにこそ理論が必要であつて理論から其の實際處理法を見付け出すと言ふ仕事は學者の仕事であつて技術者は學者の研究を實際に活用するのが使命だと思ふ。丁度電氣工學に其の發見の歷史やら「レイデン」瓶とか獏の皮に封蠟捧と言つた樣な事から初めなくても良いのであるにも拘らず所謂教師と言ふ者の惡癖として何んでも序論から「クドクド」しく述べ立てぬと氣がすまぬらしいからうんざりさせられる。兎に角何を仕上げるにも必要な道程は先づ粗型を造つて、それから艷付をするものなので、理論を先きにし實際を後にするのは學究の道程である。實際家はそれを逆に受入れねば急がしい世間の役には立たぬのである。

施工現場の實際はとても教室では夢見る事も出來ぬのでこれは是非とも休暇を利用した現業練習によつて其の雰圍氣を味はさせねばならぬもので此の點に最も早く先鞭を付けたのが我都島工業である。しかしこれは單なる實習と稱する見學半分的なブラブラ實習を意味するのでなく或る期間は全く其の現場の一使用人として時間的及服從關係に於て忠實な勤務を强要しない世間通有の實習では非常に惡影響（弊習）を馴致するもので最も警戒せねばならぬのである。現場に於て「給仕」「材料運搬整頓」「コンクリート」搗込、鐵筋曲、結束、と言ふ樣な職工の仕事でも喜んで勞役せしめねばならぬのであつて、それならば決して現場でも邪魔にはならぬのみか五六十錢の日給を與へられても先方へ損はかけぬ

事になり又自ら習得する體驗も切實になるのである。

以上(1)(2)に述べた「意匠」と「構造」の巧みに連系した仕事には和式木造の「社寺建築」がある、構造其儘が意匠として巧みに表現せられて居る所の妙味を味はすには最も優秀な遺構に富む關西地方としては實例「スケツチ」等に引率して終日若しくは數日を現地につひやし野外を教場として技能を練らしむるには實に惠まれた天與の地方である。

(3)「材料の吟味撰擇」上其の性質用途の如何を適確に知る事はこれまた非常に大切な要目であるが、一般に從來はこれに力が充分注がれて居ない。恐らく將來の建築に於ては適正なる新材料を妙用して建築物を經濟且つ「フレツシユ」に完成する爲めには其の意匠と相俟つて重大な役目を演すべきものゝ一つであると思ふ。且つ過去の建築材料は大半所謂舶來を以て誇られて居たが今や逆にこれを輸出する傾向に進みつゝあるのであるから出來る丈け優良な國產品を採用し國內產業を奬勵する事が技術者の國家的責務であつて舶來にあらざれば優良にあらずと言ふ過去の謬見はすみやかに捨てねばならぬ現狀であるが其れと共にすべからく新材料を採用する上に充分なる「テスト」を以て應じる用意が無くてならぬ。耐熱、耐酸、耐凍、乾濕、風雨其他の自然現象に曝露したと同樣の結果を短時日間に捕へ得る丈けの實驗設備を工夫設備する事が急務である。これには相當の經費が惠まれねばならぬ不可能事であるが國立公立の試驗場に等しい樣なものを學校毎に設けるなどといふ事は勿論空想にすぎぬけれども殊に大都市の學校では斯界の大會社等が互に學校を利用する樣に協力工夫して其の費用を分擔し、若い技術者養成の爲めに大いに奉仕すると共に一面高い試驗料や時間を空費するの損失を補ふ樣な方法を考へる事は割合に實現可能な事柄であると思ふのである、現に私共は其の方針で試驗室を奉仕的に社會へ公開し他面試驗材料や試驗機設備等の奉仕を受けて居るのである、其れによつて我々は如何に互に利便を得て居るが、貧弱な學校豫算では夢にも見られぬ實驗を生徒に體驗せしめる事が出來て居るのである、現在では鐵、セメント、コンクリートの實驗に止まつて居るけれど今少し斯界識者の大腹に倚托し次第により多く各種の實驗設備を享有出來るやうになる事を念願して止まぬのである、教育當局も學校と實業家にまかせきらず、大いに豫算を奮發して率先範を社會一般に垂るべきだと思ふ。

(4)「職工統制上の技能」に至つては全く人格的陶冶によらねばならぬのであつて講義や見學では到底體得さす事が出來ない。則ち頭の人たるに止まらず、腹の人、力の人、親切になり得る人物を養成しなければ單なる技術者ではてんと物にはならないのである。これは全く人と人の接觸によつて生ずるもので設備や制度からは生れるものでない。幸に大都市には實戰場裏に馳走して居る立派な人が得られるのであるから此等の人材を時間的に招聘して其の體驗を語りきかしめ其間に雰圍氣に接し呼吸を感知せしめる樣に學校側で努力すると共に實業界でも奉仕してくれねばならぬと思ふのである。

以上四項目に就て思ひ付いたまゝを粗雜に書き述べたが、これを要するに、建築教育最

急の問題、否全工業教育の再認識を急要とする問題は其の任に當る教師の完全な人材を如何にして得べきかと言ふ事であつて理想的の教師を得れば方法は自ら生れ出るのである、適當なる教師を得る爲めには教育當局をして「ほんとう」の工業教育をどうすればよいかと言ふ事を確認せしめねばならぬ其の使命は我が協會などの重要な役割だと思ふ、「ヤタラ」に何々調査委員會、何々事業等と宣傳本位につかれるよりも目立たなくても意義ある仕事をするのが——：

左に意見の一たる文部省への答申私案を掲げる。

工業教育上施設經營の改廢に就て

昭和8年5月10日私稿

答申 建 議 案 第一

1、6大都市乃至狀況の許す各地方に於ける、工業學校の專門科教師を、各人交番に現業練習の爲め6ヶ月以上2ヶ年以內の期間中、學校より給料を給與し、現業界に就職せしめ（先方より無給）期間終了後は數年を義務年限として當該學校に在職せしむ又就業先に於て差支なき限り隨時學校に出勤し其の狀況を學校長乃至所屬科長に報告せしめ、或は學校に於て必要なる校務を課すことを得しむる案。

右 理 由 及 說 明

專門學校乃至大學卒業後直ちに教職に就きたる者は、實際的技能及現業界の氣合に迂く、從つて其の教授上實地に迂遠なる事項時間的損失少なからざるのみならず、教授に自信を缺き必然の結果として、卒業生亦信念なき方法と理論に低迷す、漸く卒業後數年の實際的經驗によつて初めて社會の期待に合するの概況なりと思惟す。故に修業年限及學習時間を有効ならしめより以上社會の要求に近づけんと欲せば、先づ教員の智能を實際的ならしめざるべからず。

此の建議案を最も易く實施し得るは6大都市にして、各地方に於ては其の現業を練習すべき場所が大都市に多きを以て、遠隔にして多額の失費を要し、又學校との連絡も不充分に陷りやすき爲め、直ちに實現し難かるべきも、漸次之れを全國的に實施するを理想とす。

又別案としては、教員たらんとする者は必ず養成所を通過せしめ、養成所は其の卒業生を更に、3年乃至2年間文部相より生活費を補助して現業練習遂げしめ、而して後ち學校に就職せしむるも可なりと雖も、本案の如くなせば、一度教鞭を取りて自己の實地教授上に自信なきこと及之れに起因する教授上の缺陷を痛感せしめたる後ち、必要意識を以て現業の練習をなさしむるを効果的なりと思惟す斯くの如きは將に專門學校以上の教授にも必要にして、既に行はれつゝある如く文部省が多額の費を徒して外國に留學せしむる代りに、寧ろ內地に於て練習せしめたる方如何に實際的なるかに想到する時、益々中等工業教員に之れを實施するの有益なるを思ふものなり。

論者或は曰ん1ヶ年內外の短時日による實習によりて全般的の現業智識、氣分を得がたかるべしと如何にも理想を骨張せば其の通りなれども、一度現實を顧れば、現在の如き實狀に優ること數等なるは火を睹るが如し。

例を建築科に取らんか、見積、構造計算、現場監督、設計製圖、出願手續等其の一部門を各人別に

實習せしむれば其の部門に關しては明かに相當充分なる練習を遂げ得べく、又其れと共に全般的現業氣分を味ひ得ること何人も否定し難き所なり、練習を遂げし教師をして更に各自休暇を利用して日進月歩の現業界に留意見學を怠らざらしめば、將に工業教育上の効果を擧げ得ること期して待つべきなり。以上の案の實行上に於ける具體的方法としては、練習せしむべき教師の受持時數を毎週特定の1日乃至2日に集中せしむるか、乃至毎日第1時限に之れを教授せしめ、其の餘暇を利用して直ちに現業場所に至り就業せしむ、但し此の方法は現業界の引受先に於て苦情少なからざるべきか、兎に角練習生たる教師の校務一切を殘餘の教員にて分擔し、其の缺を補ふものとせば、各學校各科に1名宛現員を增加すれば充分なり、故に文部省より各地方廳に之れを奬勵慫慂せらるゝ事を切望するものなり。

答申 建 議 案 第三

昭和8年5月10日私稿

1、 工業教員たらんとする者の、養成期間中一定の寄宿舍に收容し、宗教武道其他の方面より日本精神の培養につとめしむる案。

從つて之れを監督する舍監に相當する者は、其の人格に於て素養に於て、青、壯年の心理を把握するに充分なると共に、國士的風格の士を起用すること。

右 理 由 及 說 明

初等教育に於ては、從來より夫々相當に研究を進め來り、訓育上の方策も形式的には整ひたる感あるも、中等教育に至つては甚だしく缺如せる點多く、特に工業教育に至つては各々專門學術の教授に精力を注ぐ事に急にして、社會人として將た國民道德的立場よりの常識及人格培養に遺憾なる點少からず。極論すれば唯物的乃至職人根性的偏見に流れ、形而下に沒頭して形而上を顧みず。從つて事の終始、物の本末を辨へず大局を達觀するの識見を缺き、往々にして固陋に陷るの弊少からず。

其の原因は各專門教師が專門學術の教授をのみ事とし、訓育上人格養成上に努力する事を忘れ易きに流るる爲めにして學科教授乃至實習指導に際し、其の理論乃至事象を捕ふれば訓育上の指導資料となるもの實に豊富なる事を知らず、寧ろ之れを輕んずるを以て專門家然たるを誇る傾なきか。

之れを以て工業教員養成上、其の人格涵養の施設を得ることは現下非常時に直面して何人も痛感する所なるべし。

斯の如きは啻に專門教員のみならず、普通學教員も亦同樣にして延いて普通學務局統轄下にある中等學校も亦同一の施設を必要とするものなり更に師範教育上昔を忘れんとする傾なきかを憂るものなり。

都市美の問題

葛野壯一郎

都市美と言つた問題に就て、靜かに考へて見度いと思ふ。

全體都市美とは何を指すのか。

否、其れより前に、先ず美とは何ぞやと考へて見なければならぬ。是れには隨分と理屈も多いと思ふが、美とは其物から受ける不思議の力、吾々の高尚な而して愉快な感情をそゝる魅力と言つたものかと、自分は解する。

此言解から本論を進める。

さて、都市美とは何で有らうか。

吾々職業的に建築に從事して居る者は、此問題に就て、兎角此んな事を考へ勝ちである其れは市街地區、街路、橋梁、公私建物の整備に外は無いと。各種の地區の指定をやつたり、上下水道、街路橋梁施設、市街地に於ける建築物を仕上の上に務めて美的に取扱ふ事勿論是等の事は、都市美を醸成する上に役立つ大きな要素で有るには違ひ無い。

併し、其れだけで都市が本當に美くしく成つたと言ふべきであらふか。吾人が近代都市に感する美的魅力とは、果して其れだけのもので有らふか。

私は疑はざるを得ない。

例を人間にとつて考へるのは面白い事と思ふ。

單に人が、帽子や靴や、身の廻り衣裳を整へただでけ眞に美くしく成り得るで有らふか成る程、一應其れで美くしく見えるかも知れない。衣裳が齎らす一種外容の美くしさは有るかも知れない。

併し其れは單なる人形美である。何等人間としての生命の躍動が無い。其れで以て、其人の持つ全人間としての美、即ち魅力は必ずしも發輝されたとは言へ無いので有る。

近代都市は近代文化の生んだすばらしい巨人で有る。

道路だ橋梁だ建築だと言つた物は、言はば其外容、衣裳に過ぎ無い物の樣に思はれる。土木技師とか建築士等と言ふ者は、此近代都市と言ふすばらしい巨人の外形を整へる衣裳附をする者に過ぎ無い。街路美、橋梁美、建築美等數へ上げれば其れ其れの美くしさが有り、又是れ等が綜合されて其處に一種の綜合的美觀を醸成する事實も間違は無いが、其れが眞の都市美の本體で有らうか。決して左樣では無いと信する。

其れは寧ろ吾々の美意識から、次第に影の淡くなりつゝ有る靜的な、美術的、骨董的なものに屬するのでは有るまいか。

人間の衣裳と言つても蓋し單純では無い。頭の端から足の先まで、色んな部分が互に照應して一つの綜合美を形成する。普通に吾々は是れを美くしいと觀る。

併し、其れは衣裳が美くしいので有つて人間が美くしいのでは無い。

吾々は人間の眞の美を探求する。

人間の眞の美くしさは、單なる外形や衣裳から來るものでは無い。其れが生命ある人間としてリズミカルな躍動をする所に、吾々は眞に美くしいものを感得するので有る。

よし如何に衣裳が美くしくとも、其れが明日をも知れぬ病人の様な者で有つて見給へ、感傷的な詩人の詩情をそゝる様な事は有るかも知れないが、吾々は其れから決して何の魅力も覺えないので有る。

丁度是れと同じ様に、爰に近代都市と言ふすばらしい巨人を思ふ時、其地區街路や建物が如何にも美くしく整備されたと言つても、其れだけでは眞に都市が美くしく成つたとは言へない事が考へられる。

其れは單なる街路美で有り建築美に過ぎ無い。

都市自體の眞の美くしさを發揮するには、もつと根本的で重要性を持つたものが有の筈で有る。

今一度人間美に例をとつて考へるのが、一番手取早いと思ふ。

近代人の美くしさの根本的なものは何であらうか。

私は何よりも其れが健康で有る事を思はざるを得ない。

近代人の特色とする明朗性も、愉快性も、活動性も凡べて皆此健康が生む所のものに外は無いと考へる。骨格の均整（是れは地區街路に相當する）、肉體の豊滿（是れは公私の建物に相當する）、而して顔智に輝く瞳、明朗にして愉快な表情、是等は凡て其肉體的精神的健康が生むところのものに他は無い。

何はさて置き人間は健康で有らねばならぬ。而して活動的で有り度い。近代人の美は靜的では無く動的で有る。じつと坐り込んで居るので無くて、其活躍するところに美が醸成される、健康なる者は活動的で有り、活動的なるが故に更らに健康で有るといふ結論に達する。

再び近代都市といふすばらしい巨人を思つてみる。

都市の健康とは何で有るか。

其れは都市自體の機能の完全なる發育で有る。

先ず第一に都市の根本生命とする、自治體としての市政が健全で有らねばならぬ。是れは都市の中心生命で有る。

續いて本當の意味に於ける都市計畫、其公共的社會的施設の完備、市民の教養、自制、秩序等々々、此んなものが數へ擧げられる。

いくら外形や衣裳ばかりが立派に整つても、都市根本の生命とする自治體としての健康其れに伴ふ都市計畫、公共的各種施設の完備を期す可きで有る。是れに因つて其機能が完

全に發揮せられる所に、吾人が感得する近代都市の有機的動的美が釀成せられるのでは有るまいかと思ふ。

近代人の美覺は靜的に非ずして動的で有る。

繪畵や彫刻よりも、より多く音樂や舞踊が愛好せられる。

機械が美くしいのでは無くて、其廻轉する躍動其物に美が感得せられる。走る汽車汽船や飛ぶ飛行機、凡べて活動する所に吾人は美を感じて居る。

靜的ではなく動的で有る。

建築の如きも只漠然と建つて居るだけが美くしいのでは無い。空屋では駄目だ。其處に人間が利用し活用して、其れが生命附けられ、日々に働らいて行く所に眞の建築美が發揮される。

單なる煉瓦やコンクリートの堆積で有つてはならない。人間の息吹きがかゝつて初めて建築にも亦生命が現はれ、其處に美くしい動的なリズミカルな近代美が表現せられると私は考へる。

吾々は過去千年或は千五百年と言ふ、頗る古い建築に美を發見する　併し其れには甚だ懷古的で有り、且つ靜的で有つて、單なる美術品、骨董品に過ぎない。

現代都市の建築は美術品や骨董品で有つてはならない。

生命ある建築、人間の活動其物で有らねばならぬと信ずる。

都市、少なくとも近代都市の名を以て呼ばる可きものが、是亦美術品や骨董品で有つてはならない。

現代人の息吹のかゝつた、一つの大きな活動體である。是れが健全に育ち、其骨肉を整へ、全機能を有機的に活躍せしむる所、都市が日夜盛んに動いて行く所に、吾々の近代的な動的美覺をそゝられる何物かゞ有るのでは無いか。

試に、廣やかな大きな街路を想像して見給へ。

立派な並樹、舖裝、照明に申分は無いとしても、其處に人つ子一人通る者も無く、一臺の走る車も見えないとすれば果して如何であらうか。交通する事に因つて道路に存在の意義があり、且つ生きるので有る。

人が左右に忙しさうに歩いて行く、車が眼まぐるしく右往左往する。然も其處に何等の混亂も無く、完全に秩序の保たれた交通狀態を見た時、初めて街路も並樹も舖裝も生々として、眞に生命有るものとしての街路の美くしさが感得せられるのでは無いか。

只單に、街路が美くしく造られ、何時も奇麗に掃除されて居る、其れだけならば美術的骨董的な美以外に何物も無い。吾人の要求するところの美は、其れが完全に活用せられて然も一指亂れず、秩序整然と動いて行く處に、リズミカルな、動的な、近代都市の大きな魅力を感ずるので有る。

建物にしても全然同樣で有る。

只美くしく立派に建てられたと言ふだけでは、單なる美術品、骨董品以上の價値はない官廳、會社、商店、公私用途の如何を問はず、それ其れの目的に應じて完全に活用せられ人間の出入、即ち建物に呼吸附けられる事其ことに因つて、初めて生々した活動の美が生み出される。

公私諸建築物施設の完備と其活動によつて、初めて吾人は近代都市を感覺し、新らしい美意識に眼覺めるので有る。

ちらほらより見物人の居ない、大きな劇場の客席に坐つた時の心持が、よく此邊の消息を說明する樣に思はれる。

斯う言ふ立前から考へると、兩三年前から唱導せられて居る都市の美觀地區指定問題の如きは、頗る姑息な末梢的の問題の樣に私には思はれてならない。美觀地區等と言ふ名稱からして如何かと考へられる。

大阪市に例をとつて見ても、郊外電鐵の終點や驛前、中の島の一部分位をちつとやそつと小ざつぱりして見た所で、全體其れが何になるので有らうか。一步橫町に踏み込めば混然雜然として、まるでゴミ箱を撒き散らした樣な始末では、都市美も何も有つたものでは無い。

丁度はしたな女性が、顏だけお化粧して白粉や、口紅や、引眉でごまかすのと、全く同樣な考へ方の樣に思はれる。

もつと徹底的に考察す可きで有る。

よし建物が如何に見苦しくとも、街路が不完全でも、近代都市の理想に活き、統制と秩序の下に活動して行く事が出來たとしたならば、此方が遙かに美くしい何物かを創造するに違ひないと信ずる。

美觀地區の如きは、其考へ方が頗る皮相的で、近代都市の行く可き道を眞に理解する者では斷じて無いと考へる。

重ねて言ふ、近代都市の美は靜的では無く、機械的動的で有る所に表現せられる。

換言すれば、繪畫的や彫刻的ではなく、より多く音樂的、舞踊的な所に釀成せられるので有る。

先ず第一に健康なる都市を育て上げる事で有る。

其れには都市精神の中樞とも言ふ可き市政の健實、其れから生み出される有機的都市計畫の遂行、公共建築物の大衆性、私的建物の機能主義、市民の敎養、自制、秩序等、々々。

斯うしたものから生れて來る都市の現代的躍動、其處に近代人によつてのみ味得せらるる都市美が釀成せられる筈で有る。

都市美は、單に末梢的、部分的な街路美や建築美では無い。

以上の見地から觀察すると、吾人の都市は前途遼遠である。近代都市に對する公私の眞の理解と努力が望ましい。(了)

都　市　と　防　空

小　倉　　尙

第1. 緒　言
第2. 都市防空は目下の急務なり速に完成を要す
第3. 空襲の威力
第4. 都市防空の着眼
第5. 防護室
第6. 結　言

第1・緒　　言

抑々都市と防空に關しては從來繁々論議せられ數年來各都市で防空演習まで實施せられて居るので今日では都市に防空の必要なことは一般國民常識となり、都市防空知識は相當普及されて居る。又歐米諸國を見るに多數の國が既に防空法を發布し、防空組織も完成し平時より防空諸施設を實行の上に現はして居る。獨逸は數年來防空學校まで多數設け官吏及國民を教育し、其數現在五百萬に達し有事の際所要の防空勤務者を十分充足し得防空戰備も約完成せられた樣に思はれる。勿論女まで訓練されて居るから實に徹底して居る。

我國では本年の議會に防空法が提出されることゝなり各官廳では各々其擔任範圍に於て防空關係事項が研究せられ、着々具體化に向ひつゝありと聞いて居る。又大都市は勿論小都市に至るまで防空演習は實施せられ國民防空訓練も逐年進歩して居ることは誠に悦ばしい次第である。然し防空に關する研究組織、施設、訓練、等は更に一層徹底しなければならぬと思ふ。

寫眞第1・獨逸南部ローテンブルグ町、城壁で圍まれてゐる。



茲に昭和十一年を迎へ本年も昨年と同樣多數の都市が防空演習を計畫して居る樣であるから左に一般の參考として都市と防空に關して述べるが、專門研究者の爲には紙數が少いので隔靴搔痒の感があるが豫め斷つて置く。

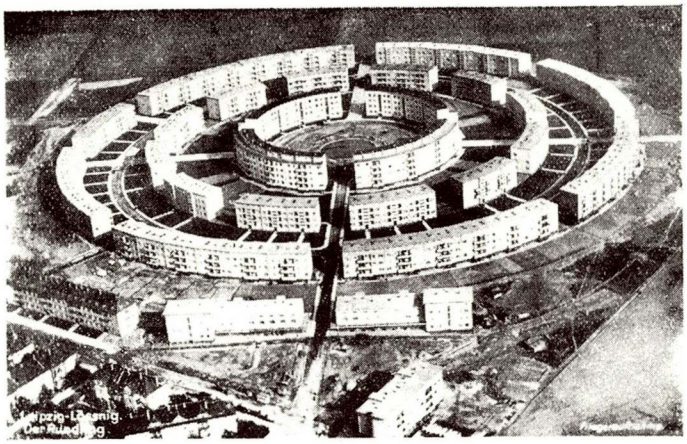
第２・都市防空は目下の急務なり速に完成を要す

歴史を繙いて見るに中古國家防禦は結局都市防禦のことであつて城壁を圍した首府の陷落により國家防禦は破れ、媾和は結ばれたものである故に、當時首府や重要都市は堅固な城壁を圍して防禦し住民は其城壁内の限られたる區域に住み、都市内の道路も廣場も建築も都市防禦の目的に合する様に作り、住民も其都市防禦要領を理解し軍民一致して防禦に任じた。現在歐巴に當時の都市がそのまゝの形で殘つてる例が澤山ある。獨逸の南部ヌルンベルグ市の近くにローテンブルグと云ふ小さい町があるが、之は全く當時のまゝで殘されて居る（寫眞第一）城壁も外壕も住宅も又舊式大砲を置いた所もそのまゝであつて、人口は目下九千であるが歴史的の町として見物に行く人が多い。

然し其後大砲は發達し彈丸が遠距離に飛ぶ様になり城壁による直接防禦では都市は守ることが出來なくなり、遂に都市を遠く圍んだ外周に堡壘が配置された。之も今日澤山實例が歐巴に殘つて居る。其後戰は都市攻略よりも野戰軍の撃滅により勝敗が決せられる様になり、戰は次第に都市以外の地に行はれ國家防禦の形式が變つて來た。國境要塞も嚴重に築かれた。何十萬と云ふ大野戰軍が大地域で戰つた。それでも飛行機がなかつたから地上戰即ち平面上の戰であつた。即ち此時代には都市防禦の感念は次第に薄らぎ直接都市防禦の重要性はなくなつた。從て一般國民は國家防禦戰を一に軍人に任した。

世界大戰は古今無比の大野戰軍の戰であつたが今日で考へれば誠に幼稚であつた。飛行機飛行船が空中から戰に參加し陣地の都市も空襲を行つた。茲に始めて戰は平面から立體に變つた。當時巴里や倫敦が空襲に對する備なくして爆撃された時の狼狽は想像以上である。當時巴里でも倫敦でも急に對空防禦法を講じ國民に防空教育訓練を施し避難室を作り其他の防空施設を設けて對抗した。此處に於て都市防禦の感念は中古に歸り平面防禦の代りに空に對する防禦即ち防空に努力することになつた。其後航空機の發達は實に目醒しく各國の首府及重要都市は爆撃機の到達距離に入り、國境の上空に要塞を作ることは出來ないし味方の飛行機も敵飛行機を全部射落すことが出來ないので現在各國は防空に大いに努力して居る。我國は未だ一度も空襲の慘事に遭遇して居ないので國民一般から十分空襲を理解して居ない様であるが、東京大震災の時の様に一時に多數の燒夷彈に見舞はれ火事は各所に起り加ふるに毒瓦斯は振撒かれると云ふ風に想像したらばもう一刻もグズグズして居られる時ではない。倫敦會議の解決を見ずに終つた平和的外交が如何に成功するとしても、備あつて憂なしであるから、吾人は更に更に防空に向つて進まなくてはならない。今日各國共其大都市の破壞は國家の中樞機關破壞と考へて居るから、都市防空の重要性は中古都市防禦の必要以上に大となつて來た。又野戰軍の撃滅以上に都市空襲を戰の目標にして居る様な現狀では防空は目下の急務であつて速に完成を要するものである。吾人は今日都市防空を軍備の重要なる一部と考へることが必要で軍備と切離してはならぬ。

然し防空を完成する爲には實に莫大な經費を必要とする。各國共に其の負擔に困つて居



寫眞第2・ライプチツヒ町の一住宅地、此型は最近捨てられつゝあり。

るが、決して之を等閑にすることは出來ない須く我國に適應する實施方法を考へ軍部、官民一體となり大なる努力を以て完成しなければならぬ。昨年三月頃から獨逸では徵兵義務と同樣に防空義務と云ふ言葉を用ひ、國民に各種の義務を要求し大いに之を鼓吹して實行の上に現して居る。防空完成にて此の獨逸の實施法が相當參考になると思ふので此の實例を挿入して說明をする。

第3・空襲の威力

都市の防空を研究するには先づ空襲の威力を知らねばならない。之は既に一般に知られて居るから簡略に說明する。勿論今日では都市の空襲は飛行機に依るものである。獨逸にはツエツペリンがあるがあの大きな體で空襲することはむづかしい。勇敢な飛行家に忽ち擊落されるだらう、飛行機の性能は現今大戰當時のものと全く比較が出來ぬ程發達して爆擊機も晝間用夜間用の二種となり、晝夜共に襲擊が出來る。晝夜何れが多いかと云ふに各國共に兩種類を持つてるから我々は晝夜共に空襲されると考へねばならぬ。爆擊機の大きいのになると2瓲の爆彈を積んで1500粁から2000粁まで飛行しで空襲が出來るが其爆擊は晝は多數楔型の編隊で空襲するが、夜は大體單機で時間距離を置いて空襲する。之は夜間は衝突の憂があるからで止むを得ず單機である。最近外國では夜間も編隊爆擊を練習してる處もある。

寫眞第3・獨逸最近の郊外住宅衞生及防空の見地より之を造る



落す爆彈は爆裂彈、瓦斯彈、燒夷彈の三種で爆裂彈は其破壞力により建物、工場、橋梁等地上にある各種の構築物を倒壞し、其の破片及風壓力により人畜の生命を奪ふもので、瓦斯彈は人畜及食糧を毒にし其作用は落ちた所に限らず瓦斯彈の破裂によつて自由になつた瓦斯毒物は四圍に擴撒し、遠距

離のものにも作用する。又毒物は飛行機から雨の様に降らされることもある燒夷彈は重量が他のものより輕いから多數一時に落され多數の火災が起る。獨逸でも此燒夷彈を非常に恐れてるが、日本は木造建築が大部であるから之を一層考へねばならぬ。爆裂彈は1瓲から2瓲まであるが各國で豫想してる大爆裂彈は500瓲であつて2瓲のものは海戰に、また都市でも特別の目標に向つてのみ使用する。瓦斯彈は各國共之を秘密にして居るので不明であるが、燒夷彈は1瓲位を普通とする。そこで都市の空襲は以上の三種の爆彈に依り何度も繰返して實施されるから其の威力たるや想像が出來る。日本の木造都市は爆裂彈で家が吹飛ばされ燒夷彈で火災は各所に起り、加ふるに毒瓦斯でやられたら大都市も慘また慘で、眼もあてられぬことになる。かう考へると寸時もヂツとして居ることは出來ない。實に何んとか早く防空を完成したくなる。



寫眞第4・ベルリン市內防空宣傳塔、機關雜誌を自働販賣す。

第4・都市防空の着眼

今日なぜ都市を空襲するかと云ふに之には大なる理由がある。戰には敵軍を破るにあるが、飛行機で昔考へても出來なかつたことをやる様になつたのである。即ち敵軍の中樞を破壞したり又敵軍の內地工場を襲ひ第一線に彈藥其他の補給を困難にし戰鬪力を失はしめまた內地の國民を殺戮したり都市の生活機關を破壞して國民の抵抗力或は戰爭する意氣を挫き、遂に媾和に導かんとするものである。扨都市防空の着眼は次の如くである。

一、軍部の防空即ち敵飛行機を都市上空に來る前に之を擊落す方法を完全にすること。

二、都市を新に計畫するならば可成建物を

寫眞第5・獨逸防護室の補強法、地下室を木材にて補強す。




寫眞第6・住民の地下室へ避難訓練。

分散し、工場地域、商業地域、住宅地域を適當に配置して被害を少くし、道路は廣くして兩側の建物が倒れてもまだ中央を自動車等が通過出來る様にする。可成公園、廣場を設けて被害を少くする。成し得れば毒瓦斯の被害を少くする爲谷地凹地を避け道路は恒風の地にする。火災に對しては建築を不燃質とし街路樹等により火災を局限し、又防火用水に十分なる池溝等を設ける等の處置が必要である。然し今日新に都市を建設すると云ふことも少いから次に舊都市を如何にするかを述べて見る。

三、舊都市では如何にしてるか、獨逸の着眼を記せば大體次の如くである。大都市は今日概ね工場地域を包含し其の脇には人口密集した勞働者街があるが、之を工場と離して郊外に畑の百坪位もある住宅地域を作つて交通を便にして移轉せしめ、非衛生の地域を除くと共に建物を分散してる。又工場を可成住宅地と離れた處に作らせる方針で進んで居る。工場そのものは防空の着眼で各種の施設を行つてる。都市生活上必要な水道、電力、瓦斯工場は破壞されぬ注意と、また一部がやられても都市の生存に憂なき様にして居る。軍需工場、食糧工場は特に注意して居る。鐵道其他の交通網も十分考へて要すれば貨物驛の如きは都市外に追出さんとして居る。各建物には地下防護室を作り、交通繁き處には其交通量に應じ集團防護室を作つてる。都市建物の屋根裏の物置を整理して、燃えやすきものを捨てさせ消防手の活動を便にしてる。全都市を警察轄區により分けて防空組織を編成し、國民官吏を防空學校で教育し各アパート毎に平時より防空勤務員を命じ此者は勿論教育して最早有事の備が出來たと思はれる

寫眞第7・婦人防空勤務者作業衣着て鐵兜マスクまで持つ。



此勤務員は戰時老人や婦人青年が擔任することになるので、是等の教育までも實行した様である。燈火管制も訓練して居る其他防空の爲には各種の組織を必要とするが、之を研究終了と認められる誠によく徹底して居ると思ふ。

右の着眼による細部を詳細に說明することは省略するが、獨逸では航空省があつて、之が軍部の防空も民間の防空もまた軍民飛行機關係も一切之を統へて居る。從つて此の航空省の研究委員の研究結果を實行に現はして居る。獨逸の防空法によると防空關係事項は航空大臣が總て責任を負つて指導監督して居る。航空省と云ふが之は陸軍海軍をまとめて國防省があり、陸海軍の飛行機關係を一切含んで航空省となつて居るので軍部の役所である之が都市防空の民間防空の何もかも關係して居る。民間防空の爲には防空協會があつて航空大臣に隷し、之が國民に防空の必要を宣傳し又防空施設を實施し或は國民を教育して居る協會は會員組織であつて、國民に防空義務ありとて入會を薦め會員よりは一年一マークの會費を集め、之に他の寄附と政府の援助とで會をたてゝ居る。目下會員は約六百萬で實に大なる仕事をして居る。

防空學校は伯林に教官教育機關として一個あり、之で官吏や地方防空學校の教官を養成して居る。地方には凡そ二千二百の學校があつて之が一週間位の課程で國民を教育して居る。こんなことをやつて居る國は目下獨逸一ケ國ではないかと思はれる。

第5・防　護　室

國民は夜間空襲の時飛行機に目標を與へない様に燈火管制の訓練が必要で之は本邦でも先づ一般に解つてる。然し防護室はまだ構築されたものを聞いて居ない。獨逸では最早や全國で一萬も出來てると云ふ。日本では避難所と云つて居るが防護室と名づける方が適當だらう。獨逸の防護室は次の考へで作つてる。爆彈は100瓲にせ200瓲にせ當つたらば三階も五階も打貫かれるし、之等に對して安全な爲にはコンクリートの厚さは2米3米を必要とする之は到底經費上出來た話ではない。だから當つたら百年目に考へ先づ上の建物が破壞して落ちて來ても地下室の天井がぬけない様に地下室內に木材で補强する。そして入口窓等の爆彈の破裂及瓦斯に對し安全な様に構造してる。入口は豫備と共に二個を設け瓦斯を防ぐ扉をつける。更に入口に前室を作つて瓦斯等でやられた者を消毒したり、着物を着換さす所として居る。室內は腰掛を置く飲料水、厠等も準備し空襲となれば此處に上から住民が逃込んで來て二三時間居ることになる。室の大さは一彈命中しても損害を少くする爲15人位から二十人位用とし最大限50人用までとし、一時間一人宛1立方米で三時間3立方米を計算の基準にして居る。逃込むときには自分の住居の電氣瓦斯を消し食料品も持込め、子供あればあきない様に玩具まで携行せよと教へて居る誠に行屆いたものである。

此の防護室を作る時には政府の最大限1000マークを補助して居る。之は各アパートの防護室であるが、交通の頻繁な銀座通の如き角には往來の人を收容する爲集團避難所即ち集

團防護室を作つて居る。何れも見學したが中々よく出來て居る。我國に概して木造都市であるから之等防護室設置もよく研究せねばならない。大建築を利用し一ケ所に何千人と收容するのは被服廠災難の二の舞であると思ふ。

第6・結　　言

紙數の關係で之で說明を終るが、まだまだ都市防空に就いては研究すべきことが多い。我々は細部に至るまで平時より研究計畫し戰時施設を少くして、平時より組織を完成し必要な施設を豫め完備し手落のない樣にせねばならぬと思ふ。燈火管制は防空の全部ではない。外に實に澤山のなすべきことがある。市民の訓練も獨逸では徹底して居る。之は防禦法を知れば決して狼狽しない恐怖しないと云ふ考へからで、防空學校の訓練も學科では突嗟の時に何も出來ぬからと云ふのでもう全部實習である。婦人が作業衣服で實習してるのを見ていろいろと考へさせることが多い。茲に本稿を終るに當り益々本邦防空の速なる發展と完成を祈るものである。（終り）

本號執筆者紹介

（五十音順）

大熊喜邦	工學博士・大藏省營繕管財局工務部長
小倉尙	工學士
葛野壯一郎	葛野建築事務所長
島田良馨	島田建築事務所長・本協會常務
澁谷五郎	大阪市立都島工業學校教諭（學監）
田邊平學	工學博士・東京工業大學教授
津田文平	都市計畫大阪地方委員會
モトノ・セイゴ	京都高等工藝學校教授
吉田信武	工學士・都市計畫大阪地方委員會

3月號

豐公聚樂第の大廣間

大熊喜邦

—(新たに發見した豐公の聚樂第大廣間圖の吟味)—

前書き

天正13年工を起し同15年9月13日に成就した東西四丁南北七丁の廣袤を有する豐公の京の聚樂第には、頗ぶる宏壯な宮室建築の造營され、それが後世から見れば所謂桃山時代の精華を誇るものであつた事は更めて言ふ迄も無い事である。或は聚樂城と記され又聚樂第ともあるのは、城郭の如くであり然かも宏壯華麗な宮室建築の多數を備へた豪華な邸第と言ふべきが爲ではあるまいか。文祿年間に毀たれ其遺構の現存するものゝ少いのは惜むべき極みであるが、猶は大德寺唐門。飛雲閣及び浴室。幷に聚樂北殿(臨春閣)と稱するもの等は遺構として由緒正しきものとされ、これに依つて當時の面影を想定する事が出來るのである。だが、聚樂第々の配置と共に以上の遺構が當初如何に排列されてゐたかは、淺學なる筆者としては推定に苦むものであり、且つ當時の武家の邸第として最も重要性を持つ代表的座敷である表大書院即ち大廣間の遺構の存せざるを惜むと共に、聚樂第に於ても亦伏見城遺構とする西本願寺大廣間の如き宏壯なる大書院の造營されたりしを信するものである。世に聚樂第圖とする屏風繪の如きはあるが畫工の染筆、何處まで信を置くべきか資料としては物足らぬものではある。

又今も世に傳はる匠家の傳書といふものがある。その多くは慶長から寬永の初に亘つて出來たもので、桃山時代江戸初期に跨つて當時の建築文化に活躍した匠家が、自己の見聞したるもの若くは關與擔當したる實例をその傳書の中に記して子孫に傳へてゐるものが尠くはない樣である。思ふにこれ等の匠家は天正の比から江戸初期にかけての時代の潮流に乘じて活動の領域を得たるもので、其の見聞體驗を子孫に傳へ子弟に教へんが爲めに傳書なるものを殘したものと思はねばなるまい。してこれが秘傳となり木割といふものゝ基ともなつたのである。かゝる性質の傳書でありながら其の中に聚樂第の大書院等に關しては記されたものが遂に見當らないのは如何にも物足らなく思つた。

またこれ等匠家の由緒書を見ても其事績としては御所の造營、神社佛閣に從事したるを擧げ他は德川將軍の用命に依る業績をのみ記してゐる。それは多くは德川家に差出した由緒書なるが爲め禁裏を初めとし社寺を擧げ豐公關係の業績を憚かつたのかも知れぬ。從つてこれ等の由緒書に依つても猶且つ聚樂第を知るの資料は無かつた。然るに最近發見した岸上家傳書に於て聚樂第大廣間の圖といふものを見る事を得た。依つて討檢猶ほ未だ不充

分であるとは思ひながら茲に筆を執る事としたのである。

岸上家傳來の大廣間の圖

岸上家傳書は和泉乙三氏…昔は岸上氏…宅に他の數種の傳書、多數の由緒書及古圖類と共に保存されてゐるもので、古圖類は其多數が既に廣毀逸散した様であるが、傳書と由緒書とは祖先よりの傳來である。然かも永年筐底にあつて人目に觸れなかつたものである。故あつてこれ等書類の一切を熟覽し且つ分類整理するの機會を得たが、この傳書の一冊に寛永5年3月岸上九右衛門署名の「御廣間の木碎」とするものがある。書中に京壽樂の大廣間の圖が記るされてゐる。茲に揭ぐるところの第1圖の平面圖がそれで原本からの寫眞を以て揭出したかつたのであるが、借覽するを得なかつたので引寫しの圖を以て滿足せねばならぬ。壽樂と記されてゐるが由緒中には聚樂とあり、他家の古書には聚洛の文字も見えてゐるから、當字の多い匠家の古書とて壽樂は聚樂の當字とするに差して不合理は無い様である。何れにしても淺學な筆者としては初見の圖なので一應吟味をして參考に資する必要があると思ふ。

岸上家祖先の由緒

先づ岸上家の由緒、特に其祖先に就て述べなければなるまい。同家の由緒書に依ると祖先は泉州和泉郡和泉住岸上五良右衛門源義忠で永正大永の比足利家に仕へた人である。番匠となつたのは其末子五男義信で、これが番匠岸上家の初代である。

初代	番匠。	甚五郎義信	永正元甲子年3月5日生 永祿12巳巳年66歳卒
二代目	義信長男。	甚九郎義職	大永3年產
三代目	義職長男。	番匠九右衛門義規	天文10年產
四代目	義職二男。	番匠忠兵衛宣純	天文17年產
五代目	宣純長男。	番匠小右衛門信政	永祿7年產
六代目	信政長男。	番匠小三郎義繁	天正4年產 和泉の苗字となる
七代目	義繁長男。	和泉五良助吉政	慶長2丁酉年產 寛永11甲戌年11月4日卒
八代目	吉政舍弟。	和泉忠兵衛義一	寛永13丙子正月11日卒
九代目	吉政男。	和泉小八郎政直 九右衛門ト改名	寛永10癸酉年10月3日早世
十代目	義一長男。	和泉長太夫吉勝	寛永17庚辰年5月28日早世

以上は初十代を由緒書及寺の過去帳に依つて記したのであるが、以下代々職を襲い後世に及んでゐて、日光、芝、上野及江戸城等の造營に關與して各代夫れぞれ彫刻を分擔してゐる。

岸上和泉家に九右衛門を通稱とする者が三名程ある。三代目義規と九代目政直とがそれで其他は後世の人であり、岸上氏時代の者は九右衛門義規のみである。

三代目九右衛門の歿年は詳でないが由緒書に依れば伏見城の番匠で伏見は勿論聚樂の造營にも彫物を勤めて居て

「伏見御城番匠相勤彫物等水花之彫物相勤申候聚樂御城建之水晶其外玉を入御好之通彫入彫刻出來」

と記され寛永5年に傳書と書いたとすれば年齡87才の時に相當する。

九代目九右衛門は生年不詳であるが過去帳には寛永10年10月早世とあり、父七代目吉政は寛永1年38歲で死歿してゐることになる。然かも舍弟が一時八代目を相續してゐるから九右衛門政直は弱年で世を去つたと思はねばならぬ　してこの時は既に和泉氏である。

從つて寛永5年九右衛門署名の「御廣間の木砕」傳書の大部分は三代目九右衛門の書き傳へたるものと推定さるゝのである。然かも同人は聚樂伏見の造營に勤めて居た經歷を有する者　聚樂大廣間の圖も亦根據無きものとは斷ぜられぬのである。

聚樂大廣間の吟味

次に聚樂大廣間の圖に就て吟味して見なければならぬ。顧みれば桃山江戸初期の武家の大殿館の表向たる重要な書院は、主殿から發展した大書院造即ち大廣間となつたものとされてゐる。平內家傳書殿屋集（慶長13年のもの）にも

一、天正ノ比關白秀吉公聚洛ノ城ヲ立給フ時主殿ヲ大キニ廣作リタルヲ廣間ト俗ノ云ナラシタルヲ于今廣間ト云フ。

とあつて聚樂第の大書院が廣大なるもので廣間の濫觴をなしたものである事は、伏見城大廣間の遺構に徵しても想像に難くない。然かも成就の翌年甚も時の主上の行幸を忝ふし五日に亘り御臨幸あらせられた史實に見ても、亦平安通志の記るすところ

其境域は東は大宮、西は淨福寺、北は一條、南は下長者町の北を限り、繞らすに深池を以てし築くに高堞を以てし、巨樓鐵門其壯麗を極め內には二重の郭ありて、樓閣殿宇其間に滿ち金銀を鏤ばめ五彩を繪き、華麗善美至らざる所なし、其四面に諸將の邸館を建てしめ、一族功臣及諸將士をして之れに居らしむ、3年の星霜をへて同15年落成せり號して聚樂邸と曰ふ、之を邸第と稱するも、其實は居然たる城郭なり、其9月18日、大阪城より移りて此に住す。

とあるに考へても宏壯な大廣間の如き造營ありしは明らかであり、平面圖の如き規模を有するものであつたとしても妥當ではある。して伏見城の大廣間は更に一步を進めたものであるとしても順當なことであらう。

依つて茲に暫らく當時の他の大廣間なるものと比較吟味をして見やう。匠家の傳書には申合せた樣に大廣間の記載がある。それは建築工藝の勃興した盛時に遭遇して、主殿造廣

間構成から宏壯な大書院構成に進展した一大飛躍を體驗してはこれを記錄せずには置かれなかつたからとも考へることも出來る。坂上勘兵衛傳來武家目錄（慶長比の傳書と推定のもの）に載する當世廣間とするものは第2圖として揭出するもので、昔廣間と稱する主殿造廣間に比べると、南に在つた上々段は北に移り、廣間の正面にあつた床棚も上々段と共に位置を替へ、東側に大間數個を加へ簡素な主殿より見ると規模は宏大なるものとなつてゐる。甲良家傳書である武家雛形は坂上傳來と全く同一系で圖も亦同一である。平內家傳書殿屋集に當代廣間とされてゐるものは第3圖の如きもので、京壽樂圖と其平面構成は頗る類似してゐるが、第2圖を更に宏大にしたものと見る事が出來るものである。

飜つて伏見城遺構とする西本願寺大廣間の平面構成（第4圖）を熟視すると、京壽樂圖の大廣間に更に大々的の上段と宏壯な廣間とを附加したもので、豐公の企圖として伏見に於て一段と雄大さを發揚したと考へても、そこに些の無理は無いと思ふものである。

次に比較して見たいものは第5圖の仙臺城本丸大廣間の平面構成である。造營に關しては、

慶長15年此年仙臺城大廣間御造營成就す、縱十七間半、橫十三間半、北に長三間、廣二間半、南に長七間半、廣六間の曲屋あり、是より前大工棟梁梅村彥左衛門家次を紀州に差登され、天下無雙の大匠刑部左衛門國次と云者を雇ひ來て、大廣間の指圖を致さしむ御作事奉行渡邊近內諱不知、油井善助景成なり云々

とあつて、棟梁は恐らく紀州根來の大匠鶴刑部左衛門の一家と推定さるゝ者であるが、平面の構成は小異あるのみで、眞に京壽樂とするものと符節を合すが如き觀がある。壽樂圖では中門が所謂折中門となつて、平內傳書の折中門に同じであるが、立面的に比較すると壽樂圖は仙臺城大廣間の立面にも亦平內傳書の大廣間の立面にも極めて近いものと考へられるのである。然かもこの折中門の形式構成が其着想に於て同じく政宗の造營に係る瑞巖寺本堂玄關に殘されてゐることは面白い事實であらねばならない。

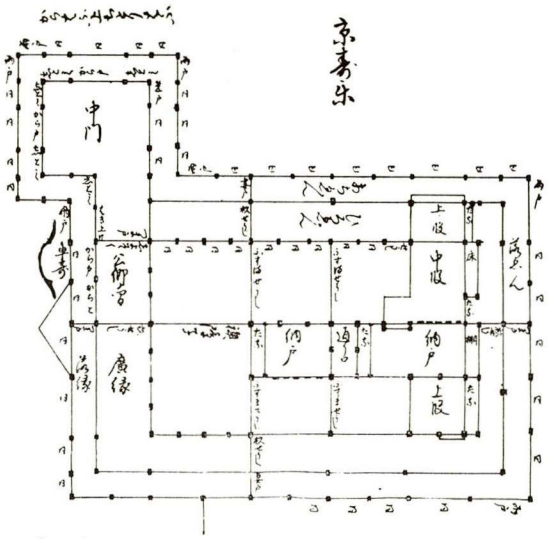
比較吟味の結果

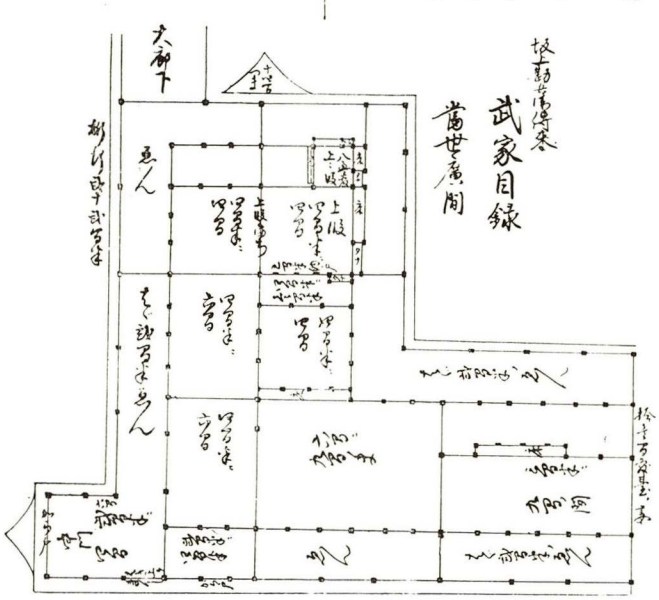
以上の通り比較吟味して見ると、京壽樂とする大廣間は、主殿造りの系統を猶ほ一部に傳へて宏大な廣間を構成し、併せて中門をも宏壯にしたもので、仙臺城の大廣間はこれに範を採つたものと見ることが出來る。聚樂に次で起された伏見城の大廣間は更に豪壯雄太な構成を見たものである。殿屋集の大廣間は聚樂の系統で宏大廣間であるが、更に後の大廣間に移らんとする形が現はれて居り、坂上傳來の大廣間は殿屋集大廣間の大書院の系統を傳へて規模稍小さく江戶城大廣間の前驅とも見らるゝもので、岸上家傳中の尾張大納言樣御廣間の實例と全く同一である。

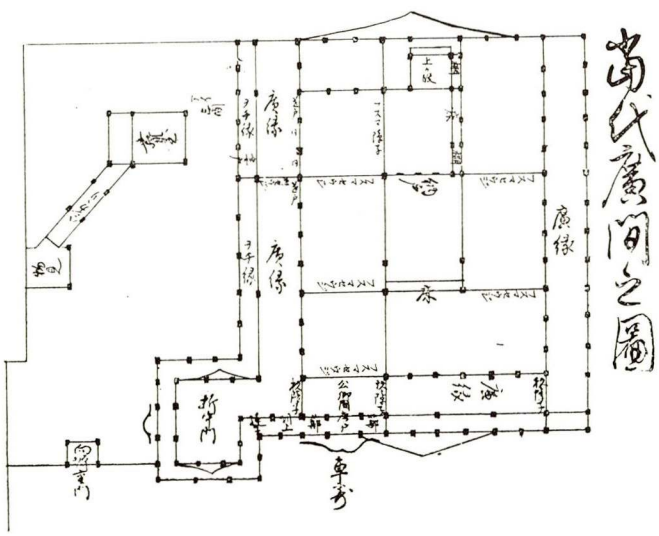
こう吟味して見ると豐公聚樂第に當然造營されてあつたと見らるゝ大廣間は、第1圖の如きもの即ち岸上九右衛門の傳書に殘された樣な大廣間であつたとされても、豐公の豪華

聚樂第の宏壯を傳ふるに充分であり、平面的構成の推移からしても亦信ぜらるべき過程にあるものと考へられるものである。而して伏見城に於ては更に一段の豪壯雄大さが表現されたものと見らるゝのである。また圖に據つて立面的形態も復原圖を以てこれを示す事が出來得るものと思はるゝのであるが、今はそこまで立入らない。たゞ仙臺城本丸大廣間の圖とするものに極めて近いものとなることを一言して置きたい。

本稿に筆を收むるに際して、和泉家の厚意と內山正居君の多大なる助力を得たる事を記し以て謝意を表すると共に讀者諸賢の御示教を冀ふものである。(完)

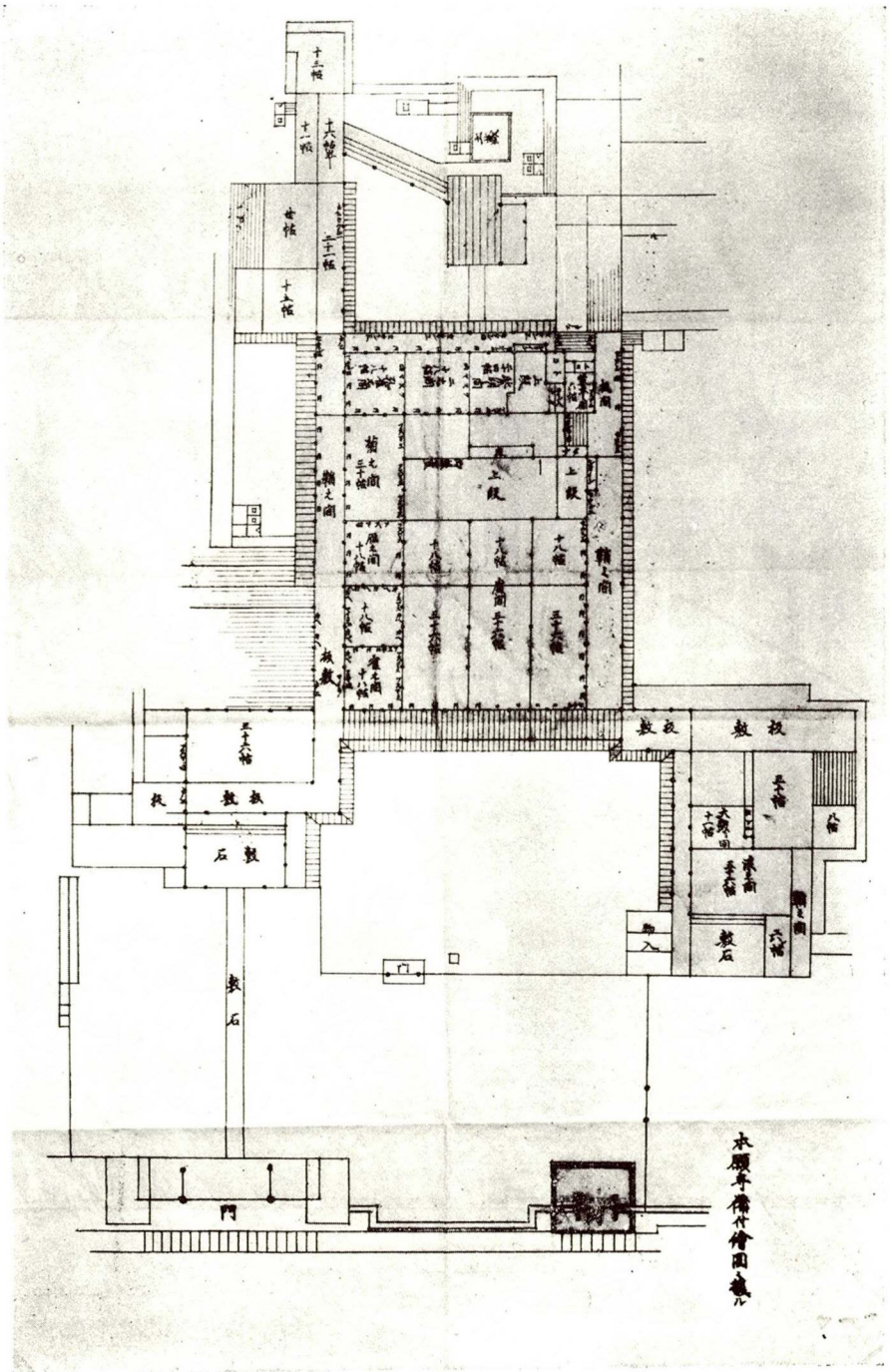




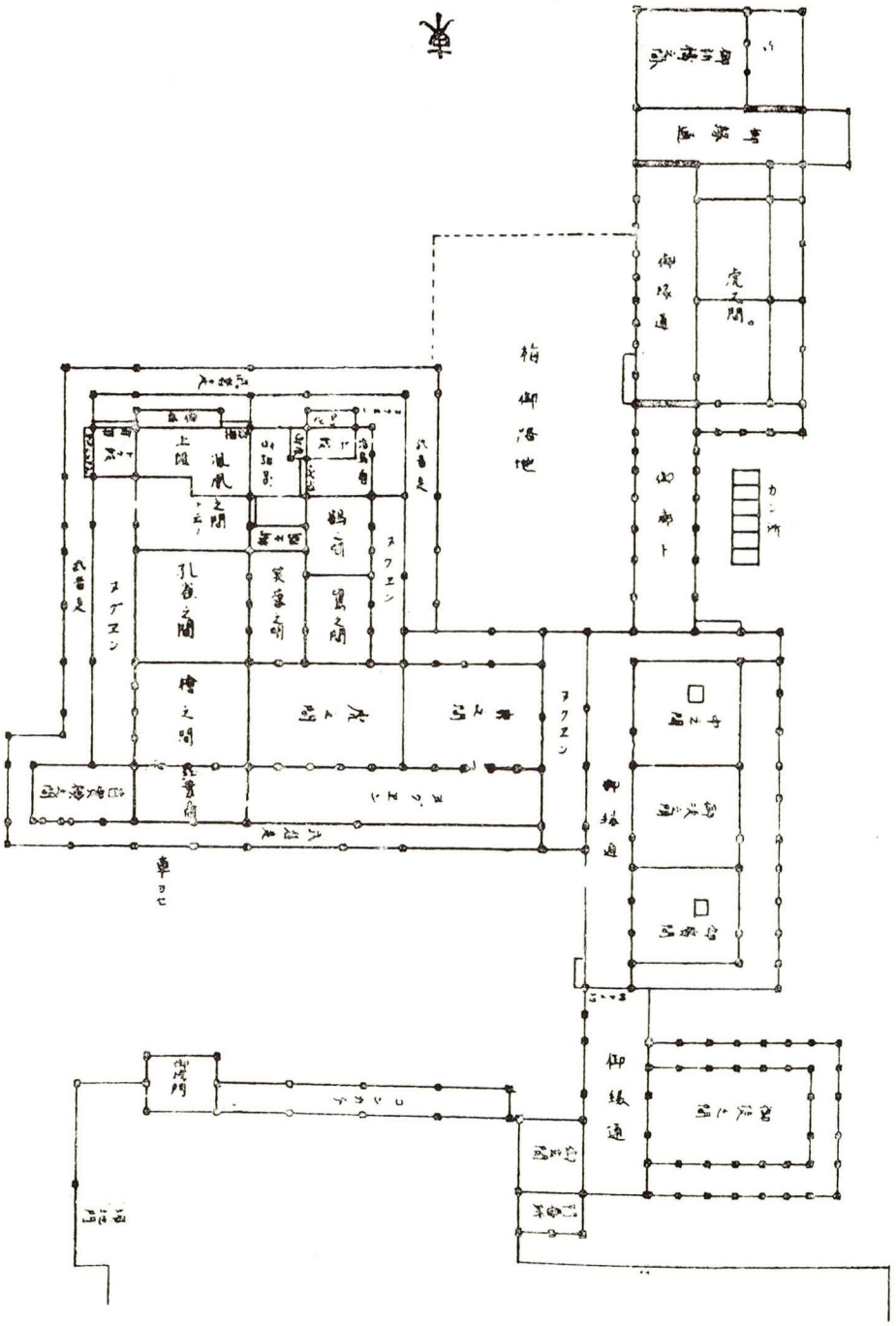


當代廣間之圖

第 4 圖 · 京都西本願寺大廣間



第 5 圖 · 仙台城本丸大廣間圖



第 6 圖 · 仙台城本丸大廣間圖 （第二師團藏本）



乾構造小住居試作

モトノ・セイゴ

茲に御紹介する小住居は長男の結婚した機會に私方の庭の一隅に道路面に接して二人の差當りの住居に充てる爲めに作つたのであります。然し同時に之れを現時の日本に於ける小住居の單位として、社會に活動を始める新婚家庭の容器として考へて見たのであります最初に根本方針を掲げて見ます。それから細部の記述をして諸賢の御批判を仰ぎ度いと思ひます。

根本方針——(1)子供一人位迄の若きサラリーマンを目標として、それに充分の普遍性を保たせ家で小規模であれば工作製圖繪書等の仕事にも從事出來る一般普遍性のある住居を目標とする。

(2) 生活を單純簡易に運轉し得る爲めと建設費を低減する爲めとに容積を出來る丈小さくする事。

(3) 構成材料の問題——出來る丈乾構造を用ひて將來の材料に關する問題に一つの研究資料として役立たせる事。從つて材料を出來る丈手近に得られる普通市場品を用ふる事

(4) 共通原則として必要と充分の原理に基づく事。必要と充分とには勿論絶對標準を立てる事が出來ないのであります。然し乍ら先づ大體の見當から防寒暑防音生活機能等に就而充分に堪え得る事を限度としたのであります。辛うじて堪え得る程度を最低限度とし充分以上に行ふ事を最高として考へる場合に其の中間を採つたのであります。全體の構成から材料構造に至る迄皆この中間度を目標としたのであります。

(5) 內部設備は臺所と食卓以外には壁に取り付けた戸棚類は少量にして隨意に適當の家具類を持ち込んで相當色々の色調の生活內容を實現する事に可能性を與へたのであります」其の爲めに單なる壁面を相當の量に作る事。

以上の様な事柄を大體の根本方針として計畫を進めたのであります。以下計畫の細部に就て少しく記して見ます。

各部の面積

		尺		尺		坪
階下	居室客室食卓を兼ねた一室	9.0	×	18.0	——	4.5
	玄關	3.0	×	6.0	——	0.5
	臺所	6.0	×	6.0	——	1.0
	便所	3.0	×	3.0	——	0.25
	物入	3.0	×	3.0	——	0.25

階上	寢室に當る部分（一部階段）	9.0	× 15.0	——	3.75
	化粧室に當る部分	6.0	× 9.0	——	1.5
	階段の爲めの面積（一部階段）	3.0	× 6.0	——	0.50
	洗面所及び廊下	3.0	× 6.0	——	0.50
					12.75

此の外小さき物入等加へて大體13坪0 の使用面積でありまして居室客室上部2.5坪程の空間は階下と階上の各部から有効空間として二重三重に作用する譯であります。此の空間は床として使用出來ない一見無駄の空間の樣でありますが小さき面積の家に比較的廣い空間感覺を與へるに充分役立つものであります。其の上この空間に依而家全體が一室の樣に構成されますから暖房は中心に一つ据えれば家全體に作らる事になり、暑さに對する通風の點からも氣流の方向は三次に擴がる事が出來るのであります。採光の點に於ても階上の窓から這入つた光線が階下の床に直接に落らる等各階でハツキリ仕切られた普通の家と異なる色々の點があります。

照明は空間中央に天井から50尺程下つた所に主要な一個を置きまして、他は食卓の上臺所等必要の各部に一つ宛ありますが、大體は中央の一個で家中の大體の用は足りる譯であります。

暖房照明は最も單純なものを持に用ひまして、パネル、ヒーチングとか溫水暖房とか間接照明とか特殊なものを全く用ひない事にして、設備の原價を低減するのと、最も平易普遍性の生活容器としての考案とを兼ねたのであります。

構造の概要——柱は3. 5寸角を骨子とし主要な部分は普通に組まして後は 3.0 尺角に間柱橫貫を入れ內部は 1.5 尺角に釘下地を造つて行つて、外面にはラバロイドを張つて上に目地にパテを塗り乍ら 3.0 尺角2分厚の石綿板を眞鍮釘で留めて行つたのです。內部は1 5 尺角4分厚のデツクスを張つて其の間に防腐劑を浸ましたモミガラを入れて行つたのであります。

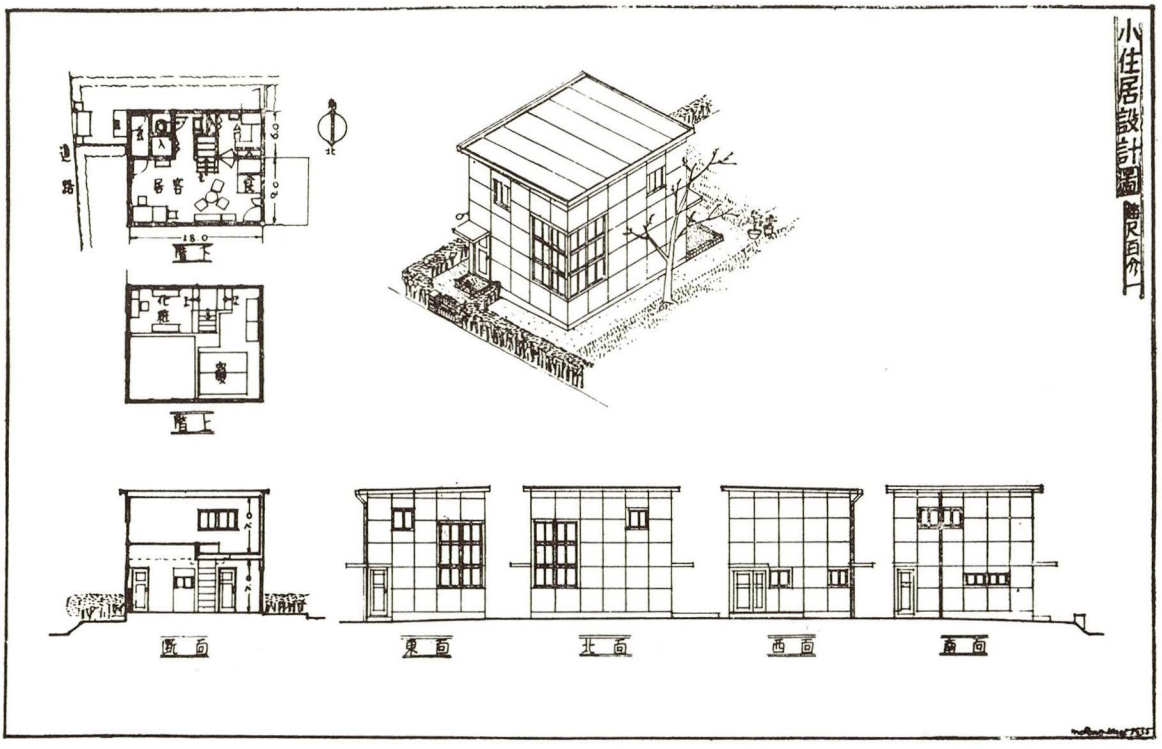
屋蓋は板の上に直接アスフアルトにてラバロイドを張り其の上にアスロングを塗り乍らコツトン（荒い木綿にアスフアルトを浸したもの）を張つて行つて、其の上にモウ一回アスロング塗りにして夫れ丈で留めて置いたのです。アスロングは何か纖維を入れたアスフアルトの樣な防水劑で今迄に出來たこの種の材料の中で一番好さそうだと云ふ事を聞ましたから試驗的に用ひて見たのであります。この種の材料で宣傳に乘つて使用して一年も經ない中にボロボロになつて水が漏つて大失敗をやつた事もあります。この材料は一年後は少なくとも經過して見ないと分りませんが塗り乍ら適當に凝固して行つて非常に强に粘着性を生ずるので施工に從事して居た屋根職も之れは好さ相だと云つて居ました。且冷施工でありますから施工が極樂に進行出來ます。若しそれが耐久性があればアスフアルトの持つ缺點を充分に補なふものであります。

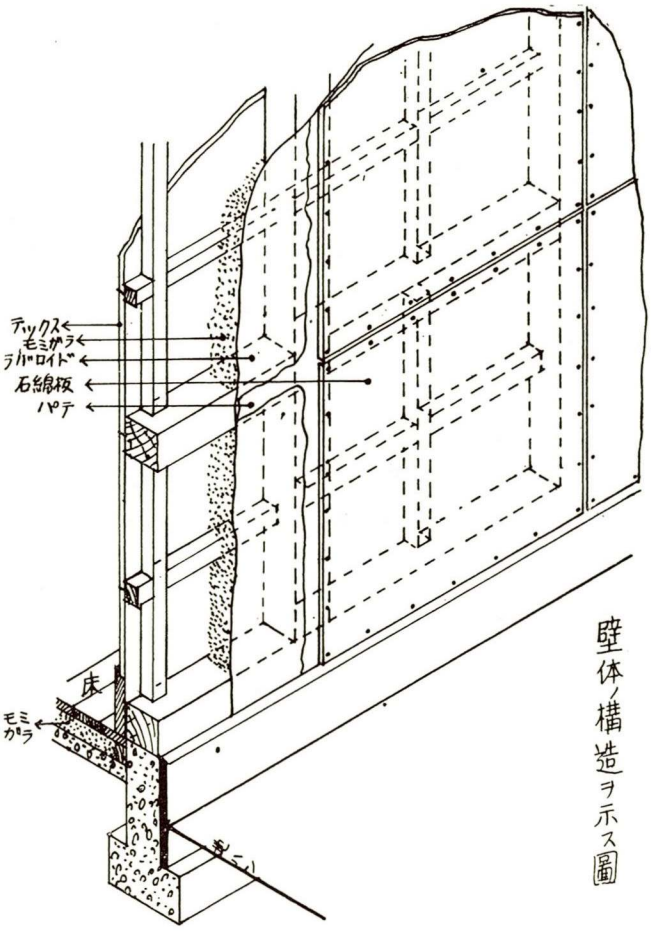
細部の問題――窓は全部引違ひとし且障子二枚立の一單位を 3.0 尺角の柱組に中に收まる様にして全部この大さの窓を特別の場合でない限り用ひたのであります。扉は 3.0×6.0 尺の柱組の中に收まる事を標準としまして從つて規準の大さが大體 2.35尺×5.7 尺になるので普通出入口の寸法として最少限度であります。

臺所は之れも極單純な設備にしましてガスコンロ一個乃至二個を置ける事を限度として簡單な炊事作業が出來る丈けに留めてあります。

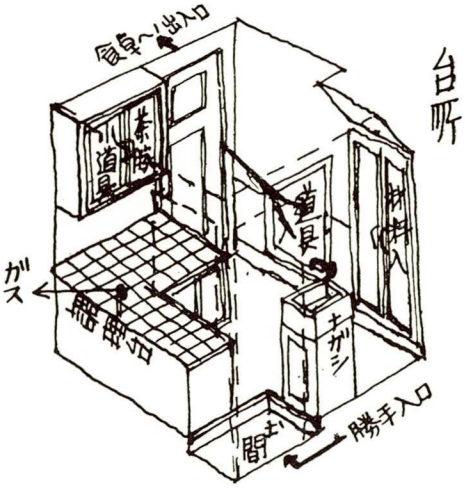
建築の色調――外壁は 3.0 尺石綿板を 3 分の目地に白パテをつめて張つて行つたので、之れが全體の基調になつて居ます。窓枠出入口扉障子框等一切暗黃色にしまして石綿板の灰色の間に調子を取りまして外部の色調は之れ丈で、餘は露臺玄關外廻り等の暗褐色の煉瓦が灰色のモルタルの間に調子を付けて居ります。

內部は全體壁面はクリーム色で木材部の下部扉等は淡鼠色ペンキ塗で僅かに巾木木摺の笠木階段等がニス塗りであります。このラワン材ニス塗の部分が內部に強い線のタツチを與へる事になつて居ます。

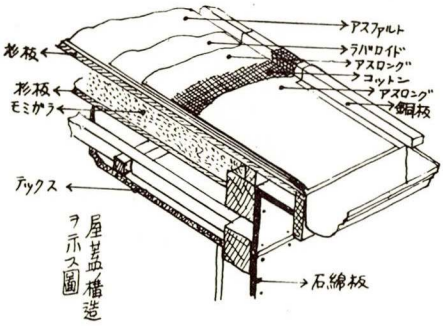

小住居設計圖 縮尺百分一
道路
居室
食
台所
北
1:80
1:80
1:80



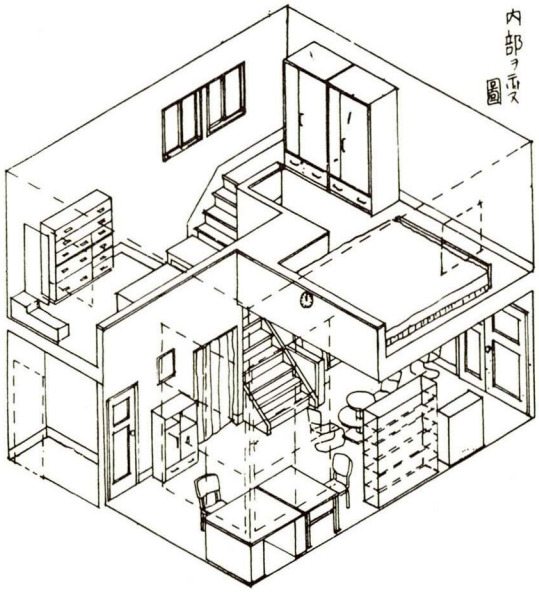
壁体ノ構造ヲ示ス圖



台所



屋蓋構造ヲ示ス圖

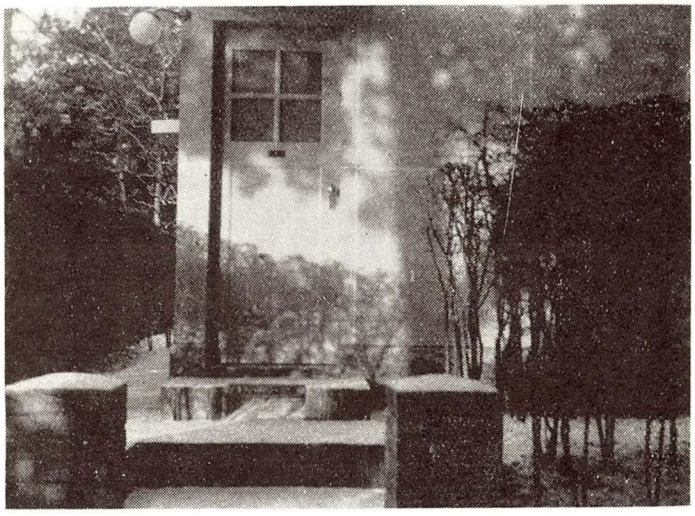


内部ヲ示ス圖

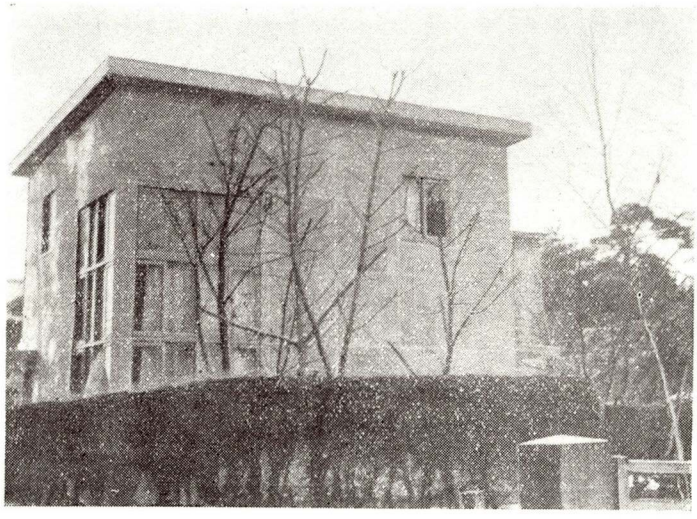
外壁施工



入口



東北道路上
よりの展望



第十四回住宅問題及都市計畫國際聯合會議概要

吉田信武
津田文平

はしがき

昨昭和10年（西暦1935年）7月16日より同20日に至る間、ロンドンに於て、第十四回住宅問題及び都市計畫國際聯合會議が開催せられ、世界各國の代表專門家が相集り、世界各國の計畫的田園發展・積極的計畫並に住宅改良問題に對する意見の交換が行はれ、斯界の發展に一新機軸を作つた。

本文は、其の會議の經過報告を纏めて一冊子とせる "XIV International Housing and Town Planning Congress. London, 1935" の中、其の概要報告を抄譯したるもので、

I	Planned Rural Development	by E. P. Everest
II	Positive Planning	by Patrick Abercrombie
III	Rehousing	by Ir. H. van der Kaa

の三篇を骨子とせるものである。都市計畫に關し、讀者諸氏の參考の一助ともなれば幸甚である。

尙、本原著は昨秋、都市計畫大阪地方委員會宛に寄贈せられたるものであり、其の抄譯の大部分は貴重なる執務時間中の餘暇を利用してなれるものなるが故に、都市計畫大阪地方委員會並に其の職員諸氏の御厚意を厚く感謝する次第である。

I 田園發展計畫

科學的田園地方計畫は未だ頗る幼稚なる域を脫して居らない。即ち、斯かる計畫の既に試みられつつある各國の報告書によつても、其の一般印象は田園を都會化より保護し救濟することは目下の急務である、と云ふことである。又、何れも將來必ずこの田園發展に對して計畫する所がなければならぬことが認識せられつゝあり、現在まではこの田園計畫は頗る消極的であつたが、將來は必ず積極的に實施さるべきものであり、この必要を認識すれば、都市計畫の技術は凡ゆる點に於て積極的田園計畫に適應せざる感あり、各國報告書によれば、田園地方は地方人の利用と同時に都會人の慰樂運動場として役立つ合理的地域

を設くるやう企畫すべしとの希望が擡頭しつつあることを報告してゐる。農業生産地を住宅其の他の建築物を以て淫りに蔽ふことは、土地の發展にあらずして單に不生産化を意味するものである。從つて、田園計畫は農業の刷新及び田園の自然的開發を專ら其の目的とすべきである。

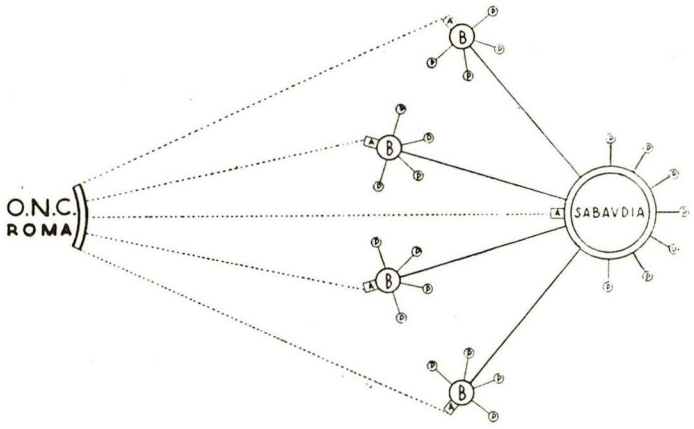
少數の例外を除いては、各國の報告書は中央計畫若しくは大地方計畫は廣範圍の一般事情を基調とし、細部計畫は各地方の狀況に應じてこれを實施し、兩者共に地方の特殊狀況と自然住民及び勞働者の精神的狀態に關聯して計畫を遂行すべしとの意見に一致してゐる。

1・田園計畫と用途地域制

田園は其の各用途により地域制を設定すべきであり、其の土地が最も經濟的に最も生産的効果を擧ぐるやう制限を附すべきである。

アメリカ合衆國　ウイルソン博士は、或程度の土地使用並に土地開發に對する統制が望ましく、これにより區域内の荒廢せる森林地を復活させ、又耕作不適地の現出を見るが如き不手際な土地開發を行ふが如き悲慘事の減少を企畫すべきである、との結論に到達してゐる。

イタリー　ピツキナト教授は、特殊地方に於ける土地所有分散狀態の農業統制の地方組織及び地方田園生活の組織化等を計畫者は常に心掛けねばならぬ、と考慮してゐる。



第1圖　イタリー Sabaudia 於ける都市及び農業行政圖
B …… Borghi（郡區）
A …… Azienda agraria（農業行政局）
P …… Poderi（農園）
O. N. C. …… Opera Nazionale Combattenti
各群區には100乃至200の農園を有す。

ドイツ　コステル氏は、現行の計畫法の一部を改正し土地所有狀態及び發展統制に關する國家の特權を强力化すべし、と述べてゐる。

フランス　デウ・スウザ氏は、土地經濟的利用の再計畫の必要があり、自然を尊敬し敬愛する心は吾人をして耕作に對する教養心を發達せしめ、恒心の維持を可能ならしめるであらう、との意見を有してゐる。

チエコ・スロバキア　ライハ・シユナイデルオヴア・マドルマイエル三氏は、出來得る限りの綠地の平衡を保つべきであるとし、濫伐盛なる州は保有地の再集團並に再統合を行ふべきである、となしてゐる。

ロツテルダム　ベルハーゲン氏は、綠地保存の主張を强調し、一般景觀構築より支持し得る農業形態をも包含すべし、と要求してゐる。

イギリス　フイルモア卿は、科學的農業の再計畫が要求されてゐる、と考へてゐる。

2・村落發展

各種構築計畫中有機的村落發展計畫は最も重要なる特色であらねばならぬ。この種の計畫は所謂都市計畫より廣汎なる性質を有し、村落の經濟的問題並に社會的問題をも包含するであらうとの意見に一致し、其の報告提示事項の主なるものは次の如し。

1）村落居住者の教養生活・政治生活・經濟生活及び慰樂生活等は、これを都會に求めずして村落內に求め得べきこと。

2）農具其の他の器物の協同使用の方策を强調せしむべきこと。

3）村落の周圍に建築物を配置すべきこと。都會建築の形式を其の儘村落へ移入することは防止さるべきこと。

4）工場の分散の必要ある所は先づ其の配置計畫の豫定を立案し、これと田園生活との調和を圖るべきこと。

5）鐵道及び道路の敷設は造園家の手により設計さるべきこと。

3・社會施設

田園地方の社會施設の顯著なる發展を計畫の一部として考へなければならぬことは既に周知の事實であるが、各國よりの報告委員の指適する所によれば次の事項は其の重要なるものである。

1）農業及び田園工業の電氣化

2）農業用小道路の敷設

3）給水施設の完備

4）下水系統の完備

4・行政

各國に於ける興味ある問題は、田園計畫及び地域制の行政問題に關し、中央政府或は地方官廳の何れによりて計畫を實施されるのが最も效果的なりや、と云ふ點である。

イタリー　この國に於ては既に地方計畫が實施せられてゐるのであるが、この計畫は最後に地方が異るに從ひ惹起する利害衝突問題に逢着するもの、又行政は漸次に分散的となると豫想されてゐる。地方計畫は國家計畫の基礎でなければならぬが、又各地方は其の獨自の富源開發に當つてはこれを自由に實施せねばならぬ。

アメリカ合衆國　田園計畫のこの國に開始されて以來、地域制は郡によつて實施され而して小地方單位計畫の地域制設定が指導的效果を有することを大いに力說されてゐる。

イギリス　この國の報告委員は、計畫權は政府各省の支配をうくることなく、地方官廳に自由に附與されねばならぬと力說されてゐる。この國に於ては、田園區域內計畫監督官

廳は田園地方參事會であるが保健大臣の直接細部的指揮をうけねばならぬ。大區域の市邑參事會が單獨或は地方參事會と連絡して計畫官廳となり同一中央統制に從屬せんとして居り數州を包含する大地方單位をなす權力がある。斯く、大計畫區城を實施せんとする趨勢の主要原因は、現行英國法規によれば計畫實施が過重なる財政負擔となり、各州參事會は地方參事會に比し大なる歲入を有してゐるためである。

チエコ・スロバキア　先づ最初に地方計畫を豫定し、然る後田園地方計畫を樹立し、斯くして一般狀況に適合すべきであるとなしてゐる。

ドイツ　凡ゆる計畫は中央政府の統轄をうけねばならぬ。併し、地方計畫委員會に計畫の準備並に實施に對する廣汎なる權限を附與するにあらざれば、田園の發展並に其の保存は期して望むことが出來ないと謂はれてゐる。

5・公　　園

田園居住者は都會に於けるが加き正式公園を必要とせず、單なる運動競技場の施設提唱が各國共通の聲である。或る委員は郊外に於ける建築物統制を實施せる所は公園の必要なしと述べ、**デンマーク**委員は海岸、湖沼、河川或は森林への自由接近を行はんとする強き主張をなし、又他の一つの委員は大公園を最小の費用にて大都市に近接して設置すべしと說いてゐる。

國立公園又は保留地の面積及び範圍の研究は頗る至難の問題である。各國委員の發表によれば、農業利用の可能なる場合保留地は田園發展を妨げざる性質のものたらざるべからず、との見解を有してゐる。國立保留地が農業發展と連繫するの可能性は更に詳細なる考究に値する。

6・討議事項要點

各國報告中にはこの他尙幾多の興味ある問題が含まれてゐるが、これ等全體を要約すれば次の如し。

1)　田園計畫と用途地域制

田園發展に積極的計畫を奬勵せんがためには何をなすべきや？

計畫中の都市第一主義的概念を田園計畫より排除せんには如何なる方法が適當なりや？

形而下的計畫中に經濟的計畫・政治的計畫及び社會的計畫をも附加すべきや？

土地所有及び農業經營に於ける障害を是正する方法ありや？

2)　村　落　發　展

（1）　村落特徵を保持するために採るべき階梯如何？　特に建築の行はるる場合に於ては如何？

（イ）　新工業の創設せらるべき場所如何？

（ロ）　新建築の一般に增加する場所如何？

（2）　商業中心を村落內に發展せしむべきや？　然りとすれば如何なる方法によりこ

れを完成すべきや？

（３） 村落の工業による經濟的復興方法可能なりや？ 然りとすれば計畫者はこの復興援助を如何なる方法によりてなすべきや？

3）社會施設

（１） 村落農場に對する電力供給の急送方法如何？

（２） 農業用小道路敷設の必要ありや？ 然りとすれば其の敷設方法如何？ 農場に連絡する自動車交通を禁止すべき要ありや？

（３） 如何なる種類の給水を設備すべきや？ 農場及び建築物にこれを設備する要ありや？ 分散的農場に配水する場合其の設備費の出所如何？

（４） 下水處分に對する設備如何？ 肥料の適當なる配分ありや？ 然らずとすれば其の効果的利用を確實ならしむる方策如何？

4）行政問題

（１） 田園計畫を樹立するには・中央政府・大地方官廳・小地方官廳の何れによりてなすべきや？

（２） 大地方計畫の中央政府にて、細部計畫を地方官廳にて樹立するを適當となすや？ 然りとすれば大地方計畫は小地方計畫に先立ちてこれを樹立すべきや？

（３） 斯かる計畫の實施さるる場合、中央政府の監督を受くべきや？ 小地方官廳の監督を受くべきや？

5）公園

（１） 田園區域内に於て公園の設置を必要となすや？

（２） 如何なる程度まで田園計畫中に於て戸外慰樂場を都市居住者のため設備すべきや？

（３） 如何なる種類の運動場設備を村落は必要となすや？

（４） 國立公園又は保留地はこれを必要となすや？ 然りとすれば農業上の利益は如何にしてこれを保持すべきや？

（５） 公衆が自由空地・森林等に接近するの自由權ありや？

II 積極的計畫

積極的計畫なる文字の意義に關する一致せる意見は、これは單なる修正的計畫と謂はずして指導的計畫を表はすものとしてゐることである。計畫の指導を是とする最も明瞭なる意見の發表が**イギリス**合同報告書の冒頭に掲載されてゐる。即ち、「總ての發展に對して、消極的制限的統制を加ふるのみの都市計畫或は田園計畫の組織は頗る不完全である。總ての發展に對しては、創作的勢力を加ふるための積極的指導を與ふるための積極的計畫により補充が行はれなければならぬ」。と。 これと同樣の意見が**オランダ**報告書に揭げられて

ゐる。即ち「計畫は絕えず行はれなければならぬ。而して人類のため人類の手によりて實施される限りは常に繼續的にこれを實施すべきである」。と。

併し乍ら、**ニユージーランド**の報告者は、これを充分なる豫定のもとに行はず、ために便宜或は政策其の他により指導されし結果、積極的計畫を過多ならしむるが如き狀態に到つて居る。と述べてゐる。

積極的計畫に多少反對の意見が**アメリカ合衆國**報告書に見えてゐる。即ち、「我國都市計畫及び地域制は私的近親的計畫の强き阻害力に阻まれて殆ど成功を見ない狀態で、1933年の春より1935年の春までの二ケ年に於ては、それ以前の十年間に比し計畫の進展急速なりきと云ふも決して過言ではない」。と。

ドイツ報告書によれば、ルール地方計畫は積極的計畫の好例として指摘してゐるが、この計畫に於ても既存の不統制發展に因り生じたる損害を除去し得ず。としてゐる。

ロンドン報告によれば、大ロンドンを構築せる所の各官廳の徹底せる自由放任政策と私有財產による優秀なる事業が過去に於て實施されてゐる故、ロンドン大都市區域內に於ては大規模の積極的計畫は未だ曾て實施されしことなし。と。都市外廓區域の主要道路計畫に就いては報告書に揭載されてはゐないが、大都市に對する均合のとれた大規模の積極的計畫の唯一のものであり、又地域制と關聯なく計畫されてゐる。L. C. C. (The London County Council) 約120平方哩の全面積に一計畫の準備が認められ、廣範圍に亘るロンドン交通區域を作成せんとするものであるから、郡參事會は大ロンドン地方計畫委員會を通じて共通顧問協議を得ることになつてゐる。事實上委員會の發議により積極的計畫即ち綠地計畫の提案の實施されたものである。

バーミンガム市は1909年都市計畫施行權附與以來、都市計畫繼續政策を遂行せる都市としてイギリス各都市中より撰擇しうる都市である。其の事業は不規則的な法制上の權利の發展により必然的に地方に制限されたもので、即ち、最初の都市計畫は郊外に關するものであり、これに次いで廣範圍の地方計畫が起り、最後に中央再計畫が貧民街撤去に關聯して準備されしものである。この大綜合計畫の積極的特色は、道路網組織の他に天然排水及び人工排水の兩土地排水綜合計畫であつて、主要下水系統と共に道路の敷設、公園系統及び工業並に住宅建築物の敷地計畫に大なる影響を與へてゐる。世界に稀な理路整然たる計畫である。

1・豫備研究

各國報告書中豫備測量の必要を說くものが多い。**オーストリヤ**報告には、「計畫を積極的ならしむるためには、都市の將來の發展にして適確なる豫想を把持せねばならない」。と。斯かる必要の自覺は或國に於ては比較的最近に至つて始めて路つたので、**オランダ**報告には、「十年以前には、都市の基礎と科學的研究が都市計畫の基礎なることを未だ自覺するに至らなかつた」。と述べてゐる。又、**アムステルダム**市最近報告書によれば、「完全なる科

學的研究により其の地域制提案を正當なるものとする」。と。**チエコスロバキア**報告書によれば、「何人と雖も將來の條件を正確に豫言することは出來ない。併し立論の材料の正確を期すれば計畫遂行の動向を或る程度迄覗知することが出來る」。と記述してゐる。

2・大規模計畫か細部計畫か

デシマーク報告によれば、「積極的計畫は細部計畫の詳細に亘り過ぎることを避けねばならぬ。何故ならばこの種の計畫は時の經過に從ひ再三再四修正を反覆されねばならぬから」、との意見に一致し、**イタリー**都市計畫執行者は都市計畫過程を(1)一般計畫の準備(2)各區域に對する細部計畫の準備、の二に分割すべきことを提示してゐる。尙、**ドイツ**報告は過去に於ける計畫は正確嚴正に過ぎ伸縮性を缺いたものだつたと述べ、**フランス**報告書は過去に於ける計畫は一定期間內にそれを實現化するために準備さるべきで既存人口に數十倍する人口のため用意さるべきでないと述べ、**オランダ**報告は細部計畫は五乃至十年間を目標として樹立されなければならぬと述べてゐる。即ち、オランダに於ては尠くとも十年毎に都市計畫は修正されねばならぬことを要求してゐる。

初期の**バーミンガム**計畫に細部計畫に過ぎたるため、後來の計畫は待望される發達の主要點を計畫し、細部はこれを發達の實施されたる際に決定すべきこととし、地域制の「自由選擇區域」主義が紹介され、それ等の用途を決定するための共同手段は準備局により細部計畫を獲得され、時時發達希望の土地所有者に討論されてゐる。

3・國家計畫か地方計畫か

各國の報告書は概ね都市計畫の國家的系統の缺除を嘆じてゐる。即ち、**デンマーク**報告によれば、「デンマークには都市計畫に對する綜合的計畫がない。即ち人口及び工業の分散に關する計畫がない」。と。**イギリス**報告によれば、「イギリスに於ては部分的國家計畫は鐵道・電力供給・給水・排水・造林等に關し幾分存在せるも、未だ綜合的協調が適當に實施されてゐない」。と。

地方計畫は圖面上又は紙上に於ては可なり一般的に實施されてゐるが、其の實現を實行してゐるものとは限らない。依つて、**フランス**報告は、「今日の都市計畫はオスマン時代に比して大規模なるも、これ等の多數は死文に近いものである」。との悲觀說を述べてゐる。**イギリス**報告書に於ては、先づ土地計畫局の設立を提案し、この局に於て都市及び國家の綜合的土地計畫に對する準備をなし、工業地域及び住居地域の分散に特別の考慮を拂ひ、大計畫に應じての地方計畫の一般的指導並に協調を圖る計畫の樹立を提議してゐる。

又、**チエコスロバキア**報告には、「田園發達の統制は本來政府の主要事業である。即ち、政府はこれを統制指導するの實權を有する唯一の官廳である」。とあり、**ベルギー**報告には、「國家計畫によつて大綱を決定し、これにより地方官廳の仕事を組織立つべきである」。とある。尙、**ドイツ**に於ては、勞働者住宅建設・運輸交通及び土地の用途に基準を置き全般的經濟生活を組織化せんとする法令の通過を見る豫定であり、都市計畫・地方計畫・國

家計畫に關するドイツの協會が主務官廳に法令草案を提出して準備事業の一部を擔當せんとし、**アメリカ合衆國**に於ては、1934年7月大統領の政命令により國立資源局が創立され一恒久的國家計畫支部がこの局によつて推薦されてゐる。この支部は既に1933年に創始されたる事業をフレデリツク・エーデラ氏部長となり國家計畫局により事業遂行の筈である。

4・衛星的發展か集中主義か

積極的計畫の廣義の目的は、平衡を得たる經濟的社會教養ある現在及び將來の必要に適する都市及び田園の科學的建設を目論むことであらねばならぬ。多くの報告書は1924年のアムステルダム國際都市會議の議題たる現存都市の圓滑なる發展は農耕地によるか衛星都市による人口分散を最良の方策とすると述べてゐる。

オランダ報告は、人口の增加の停滯が廣範圍の衛星的發展に及ぼす影響に注意を拂ひ、アムステルダムに於ても一定限度までの繼續集中發展を許容し、現存の都市に頗る接近し而も綠地の中に存することなき三の新衛星都市の發展を伴ふことゝしてゐる。ヒルベルサムに準備されつゝある計畫は、有機的發展を準備せるものに比して、限定計畫のローマン概念又は文藝復興精神に復歸の特徵を表はしてゐるが、どの報告にも現在及び將來の都市發達の撰擇的量には言及してゐない。

イタリーは過去十年間衛星的都市發展主義による計畫實施に努力を重ねたのであるが、極論なる集中防止策に關する問題は未解決であり、「我々は田園都市竝に衛星都市設立の途を講ずると同時に大都市の發展を助長せしめてゐる」。と其の報告書に述べ、又**コペンハーゲン**報告書は、「若し衛星都市が大都市の再建設の一部となるならば、それ等は母市の區域内になければならず、又其の都市の經濟上の必要部とならねばならぬ」。と述べてゐるが、これはワイゼンシヨウ計畫に於てマンチエスター市により踏襲されてゐる政策である。

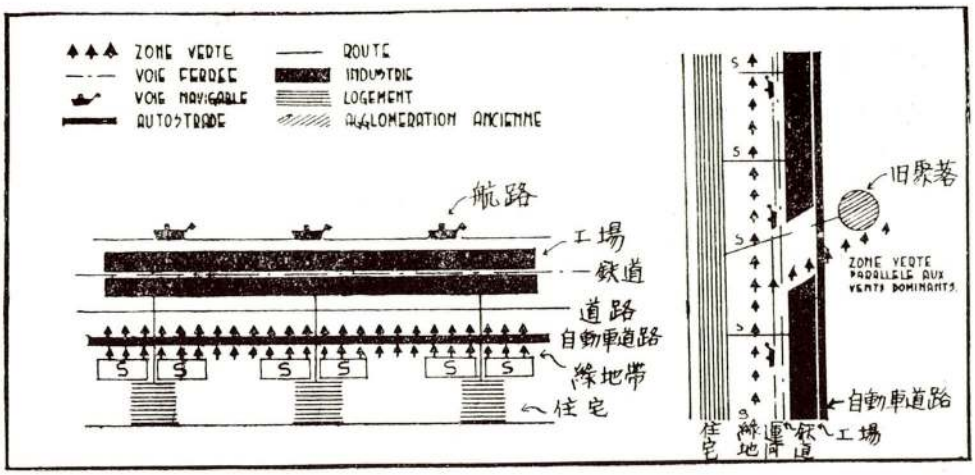
5・連續綠地か散在綠地か

ロンドン報告書は、連續綠地帶を獲得せんとする諸種の企畫、及びロンドン市邑參事會より大ロンドンを形成する郡參事會竝に人口五萬以上の郡に對し二百萬磅の提供を最近に行ひ、未だ確定的綠地の決定を見ないが大ロンドン地方計畫委員の大なる努力が拂はれつつあることを報じてゐる。**イタリー**報告は、連續綠地及び散在綠地の得失を論じ、「連續綠地は小區域の人口稠密都市に適合し、散在綠地は大區域の都市に自然であり設定容易である」。と結論してゐる。

二都市間の介在農耕地の統制と中心衛星は數枚の報告書中に論述され、分散的發展又は連續發展を阻止するとの意見が多い。新**パリ**地方計畫は農業建築物の建築のみを許可する區域の特設を規定し、これが實施に際しての大なる經濟的財政的困難を詳細に論じてゐるこの見地よりの農業地域は衛星都市の消極的部門であるが、又同時に農業計畫の積極的見解も行はれてゐる。

6・工業の指導

イギリス合同報告書に於ては、比較的新意見の工業地域設定の統制に對し特に注意を拂ひ、「斯かる指導は新工業企業の適地選定時代に先づ必要であり、現在企業の移轉と將來



第 2 圖　フランス　工業地方計畫例

必要を痛感するに至るであらう所の特定地域設立の指導は强制よりも寧ろ說得により巧妙自在に進められねばならぬ」。と述べ、これを實施するに要する多種多樣の手段を、(1)用地の留保(2)運輸の施設(3)住宅の設備(4)低廉なる使用料(5)低利資金の貸付、の五項目に要約してゐる。

7・不良住宅區域の撤去

イギリス合同報告は、貧民街撤去の社會運動により生じたる積極的計畫に對する原動力及び不良住宅區域問題に一層急進的態度を以て臨むの必要に對して特に注意を拂つてゐる

8・航空港

フランス報告書は、航空事業と一般都市計畫との關係に關して特に紙面を割き、就中道路の敷設と航空港周圍の建築物の高度竝に其の地役權の効果に就いて詳述し、**チエコスロバキア**報告書は、航空港は出來得る限り都市の中央部に設くべきであると述べてゐる。

9・田園計畫及び田園保存と國立公園

有効なる農業方法を目的とする田園積極的計畫の價値は隨所に於て論じられ、適當に境界を定め或る特定の場所に集中せらるべき建築物の田園への侵入を不當とする意見、無計畫に踏綜的發達をなしつゝある集團を阻止せんとする意見が最も一般的である。

ニユージーランド報告は、歷代政府により田園開拓に對して行はれたる奬勵法竝に景觀美の保持を强張し、國立公園はこれを全國一般保健計畫の中に加ふべきことを主張し、又**オランダ**報告によれば、「人口稠密にして面積小なる國に於ては、人口を一方に集中せしめ田園を出來得る限り保存し、以て國民の保健增進への唯一の方策とする」。と結んでゐる。

10・財　　政

都市計畫及び國家計畫の財政に對する各部門に就いての廣範なる論旨が、殆ど總ての報告書に於て、何等かの形式を以て其の基礎的意見が暗示されてゐる。

イギリスに於ける補償法竝に受益者負擔法は、積極的計畫の廣範圍の目的を實施するために最も適切なるものと考へられてゐるが、地方官廳の管轄區域問題・各地の獨自的重要性竝に課稅增加を圖らんとする傾向は依然都市計畫全般的福利と相入れぬ憾がある。**ポーランド**報告書には、自由使用統制權竝に土地讓渡に對する監督官廳の權能を論じてゐるが大部分の國に於ては、排水、給水及び通路等の施設が既存するか或は簡單に施設し得られる狀態にあるにあらざれば、集團的發展を承認し得ないとしてゐる。大都市或は州に於ては、新に發展せんとする都市の財政・個人企業或は公益事業等を國家的見地より更に論究を進める必要がある。

III・住宅改良問題

世界大戰直後の住宅缺乏は各國に於て等しく大いに改良され、改良樣式の新住宅が多く建設されたゝめ、其の時代に比して優良なる住宅に多數の人が居住することゝなつた。併し尙、居住人口の可能なる數及び現存住宅豫備數に關する統計の正確なるものはどの報告書にも記載されてゐないが、一般報告によれば、或國に於ては住居問題に對する考慮は未だ望ましきものにあらずと見られる。この事情は大戰後成立された新國家に於て特に顯著で、これ等新國家には完全なる國家經濟の確立なく、又必要ある場合には命者の大群を引き受けなければならぬ情勢にあるのである。**ポーランド**に於ける1918年頃の狀況は何れの國よりも不良で、人口は減少し國土の大部分は荒廢に近く、從つて住居改良計畫も遲々として進まなかつたのである。

チエコスロバキヤ報告書の特に指摘する所によれば、新住宅に居住せんとすれば收入額の小なる國民が、其の25乃至35%を家屋料として支拂はねばならぬ故、今尙原始的住居建築助長の止むなきに至つて居り、**ハンガリー**に於ては、前王國時代の他地方よりの大集團的移住を行へる住民に對し住宅不足の大問題を起してゐる。

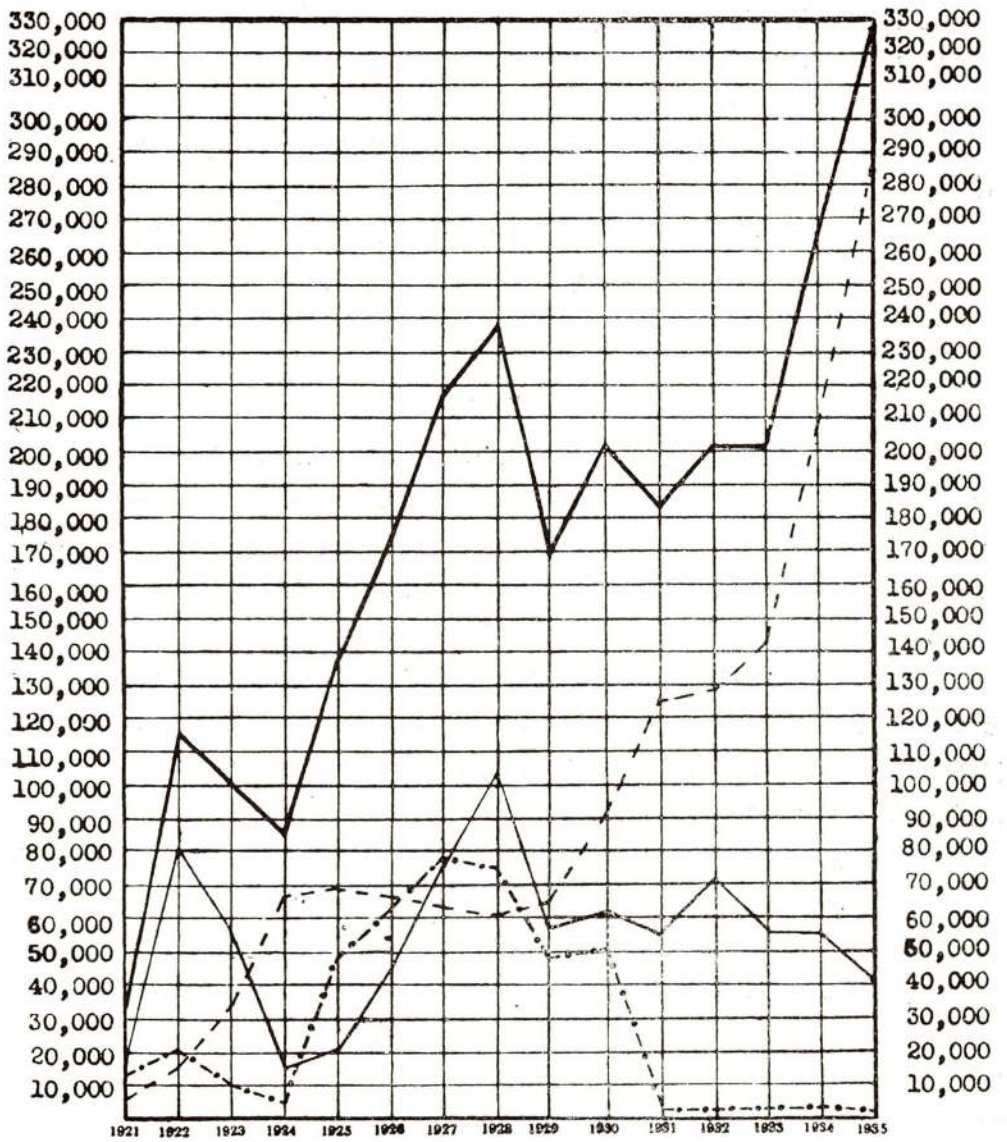
これ等各國に於ける特殊の困難なる事情の他、各國に共通な點がある。大都市に特有の貧民街及び人口過剩即ちこれである。將來速にこれ等が撤去の實施に邁進しなければならない。

1・住　宅　改　良

住宅改良問題は單に貧民街の撤去竝に新住宅の建設に關するのみならず、凡ゆる視野よりこれを檢討しなければならぬ。

フランスのグレーベ教授の發表せる重要なる意見を引用すれば次の如し。「住宅問題は單に優良なる住宅を建設せんとするのみの問題ではなく、財政の許す限り各階級に於ける完

HOUSES PROVIDED IN ENGLAND AND WALES, YEARS ENDING MARCH 31st, 1921–1935.

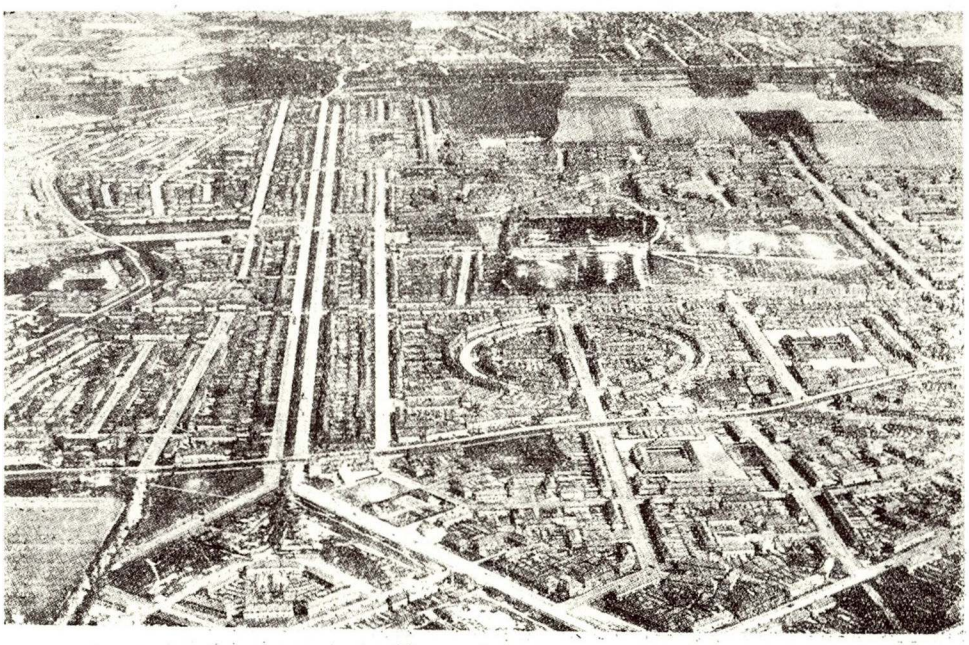


第 3 圖　イギリス　1921 乃至 1935 年度建設住宅数（保健省調査）

全なる夫々の計畫を必要とし、不良住宅の弊害は根本的に剪除されねばならぬ。住宅改良計畫の立案に先立つて實施すべき研究事項は、人口密度・財政・男女別・職業・罹患率・現在住居狀態・住居改良敷地の適應性・水道瓦斯其の他の社會施設・地價・運輸狀況・地方的職業の可能性等であり、假令當面せる問題が單に地方的事情のみと雖も、この研究は一般都市計畫の人口集中分散（集團的に分散せしむること）に大なる價値あるものである。適切なる敷地、各種形式の住宅數竝に要求されたる各種の地代に關する知識が豫備研究となり、更に精密なる人口學的研究により計畫は最適條件に於て完成され得るのである。從つて、建築技術師が住宅改良計畫に携はるべき最初の人ではなく、都市計畫技師がこれに先立つて指導せなければならぬのであるが、一面若し理財家の新期豫算要求に對する提案が通らねば無役なのである」。

グレーベ教授の主張と同樣、**イギリス**のグツドスミス氏は、住宅局は適當なる統計知識なくして尨大なる豫算額を要求してはならぬことを指摘し、「住宅問題は非常なる緊要時にして各種の人士及び團體の一致活動により始めて解決し得るのである。この事實は明に住宅問題及び都市計畫問題の双方に關聯ぜる問題で、單に住宅改良問題のみではないのである。住民の居住地及び其處に居住する理由・住宅の適不適・密集度の如何・居住狀態改良の必要の有無・他の區域に移轉する希望の有無及び其の理由・收入狀態等に關する正確なる知識なくして斯かる改良計畫を樹立することが出來ない」。と論じてゐる。

貧民街撤去に關しては、イギリス・オランダ・スエーデン・ドイツ・ハンガリー・アメリカ合衆國の各報告に見られ、其の他の國に於ても、廉價住宅建設は住宅缺乏竝に人口稠

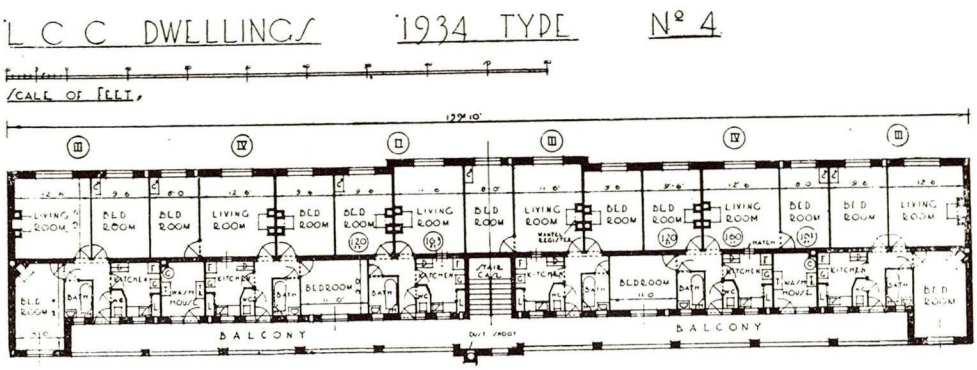


第 4 圖　イギリス Becontree 鳥瞰圖

密を緩和し得ることを指摘してゐる。

2・家　　賃

世界各國に於て、新住宅の家賃は凡ゆる支出に比して大に過ぎると謂はれてゐる。普通



第5圖　イギリス London County Council の 1934 年型第4號住宅規準階平面圖

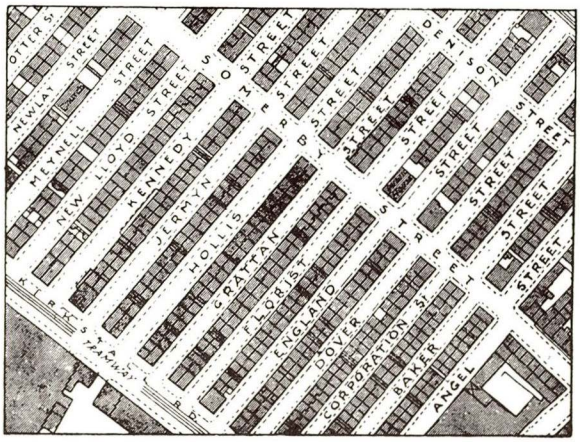
F …… 燃料置場　D …… 料　理　臺　G …… 瓦斯臺　L …… 食料室
S …… 流　　し　H …… 瓦斯湯沸器　CD …… 食器戸棚　T …… 卓　子
C …… 瓦斯炊事釜　T_R …… 水　槽

の住宅設備を必要とする人達は通常貧困にして相當な家賃を支拂ふことが出來ない故、其の支拂能力まで家賃を引き下げるため特別の方策を講じてゐる。

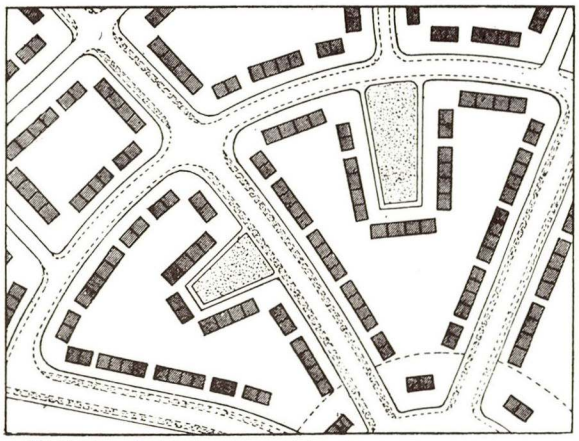
ロンドン市邑參事會報告によれば、大戰前の一般家賃に家賃制限法令の規定する割增を加へてなれる統制家賃標準に現在家賃の基礎を置き、尙最近參事會は普通の貧民街居住者の一般賃金水準を普通の宿泊希望人の賃金に比較して考慮するとあり、グツドスミス氏の報告によれば、イギリス各官廳とも勞働者階級に對する住宅改良問題は1週10シリングの家賃にて相當なる住宅に住み得ることを以て解決の鍵としてゐるが、別に科學的調査に根據を置ける話ではない。地方稅共で1週間10シリングと云ふのが大部分の勞働者の支拂ひ得る限度である。イギリスに於ける新都市人口過剩對策案は、貧民街及び人口過剩區域の立退料より生ずる不足額に對する多額の補助金交付事項に關する規定を有してゐる。中流階級者用多家族住宅（flat）區域に對する交付補助額はこれをその地價に應じて增減せしめ、以て各地方官廳を通じて家賃の平衡を圖らしむるため、住宅臨時稅及び收益の統一化を規定し、又一定の條件により各當局が住宅を總て自由に統轄し得るやう計畫してゐる。

リーズ報告書は、過去に於ける住宅補助金はこれを必要とせざる人達にも恩惠を與へたる故茲に特定家賃の制定を見るに至つたのである、と述べてゐるがこの基準は當該管轄官廳市町村の一般經費を償ふために案出されたもので、凡ゆる借家人にして支出し得るものは必ず全家賃を支拂はねばならず、又補助金は借家人の必要に應じて其の必要の續く限り救濟のために使用されるのである。而して、これが基礎として生計標準が採用せられ、この標準を超過したる收入額を以て案分的に家賃を決定せんとするのである。

デンマークに於ける家賃は一般に頗る高い。首府コペンハーゲンに於ける勞働者は普通其の收入の20乃至30%を家賃として支出してゐるが、殊に稍々完全なる配給煖房裝置及び上下水道衛生設備のある2室よりなるアパートメント等は收入の良い熟練工又は官吏ならではこれを借ることは困難である。1922年以來直接補助金の交付なく勞働者の大多數は新設住宅の家賃を支拂ひ得ない有樣である。

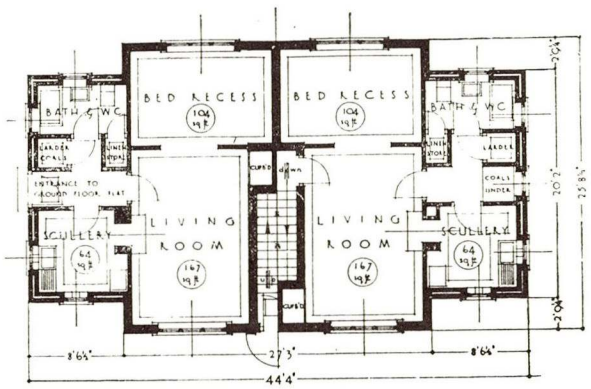


第6圖　イギリス　リーズ過去の狀況



第7圖　イギリス　リーズ將來の狀況

イタリーに於ては、市町村及び公益事業團體が國家又は地方當局より低利資金の融通をうけこれに準據して家賃の制定が行はれてゐるにも拘らず、勞働者の大部分は其の住宅家賃の支拂が不能の狀態である。茲に於て數市はこれ等家賃支拂不能者を救濟せんがため最小面積ながら衛生設備の良好なる數多の住宅を建設し、人格優秀なれども收入僅少なる人々に貸してゐる。



第8圖　イギリス　リーズ老人用ユテツヂ平面圖

オランダに於ける家賃は他の歐洲各國に於けるものに比し安價であるが、貧民街より進出したる人達にとつては尙高價であるため、國家及び市町村は、(アムステルダムに於ける新住宅の普通家賃1週間5.50ギルダーに對し) 最高1週間1ギルダーの補助金を交付しつゝあり、且最低家賃を1週間3.50ギルダーに

迄遞下せしめんと圖つてゐる。

スエーデンに於ては、貧困者救濟法により其の家賃を支拂はしめるための補助金が最近交付されるに至つた。尙、輓近3人以上の子供を有する貧困家族に對し住宅の建設を容易ならしめんがため、簡單住宅の設立に對し毎年奬勵金の下附を行ふべき公債の募集案が樹立せられ、又、家賃の支拂に關し、3人の子供を有する場合には其の30%以下を4人の場合には40%以下を、5人以上の場合には50%以下を差し引いてこれを行ひ得るやう提案されてゐる。

チエコスロバキアに於ては、勞働者階級の家賃は其の收入の25乃至35%の高率に上つてゐるにも拘らず、未だ斯かる家賃の是正を目的とする新住宅に對する補助金交付が行はれてゐない。借家人の選定は家賃支拂能力の如何によつて自然に決定されてゐる狀態である從つて、貧困者は自力で大都市の郊外に一群の簡易住宅を建設し其處に居住するの已むを得ざるに至つたが、從來使ひ古された不健康地區の棟割長屋の地下の一室に住ひ　時には唯一個の寢室或は一室の一隅を法外な値段で借りてゐた人達には絶好の避難所となつたのである。

ドイツに於ては、最低賃銀勞働者の收入を以てしては新住宅の家賃を支拂ふに充分ではないにも拘らず、國庫の補助金交付は未だ行はれてゐない。低利資金が大都市郊外の一團地の住宅計畫に對して融通されてゐるのみである。

要するに、各國の報告は何れも、家賃問題が住宅改良に最も大なる影響と困難とを投ずるものであることを强く指摘してゐる。

3・人口過剰

人口過剰の問題も家賃の問題に深い關聯がある。多くの場合滿員で住居に充分な間取の家が利用出來ないと云ふ理由のみではなく、寧ろ借家人が相應しい住宅の家賃支拂能力に缺けてゐると云ふ理由によつて、偏則的な人口過剰現象が起るのである。加之新住宅の家賃支拂能力はあつても、高價な家賃の支拂を好まざる人が多いのである。人口過剰の決定的數字を示してゐる國（例へばオランダに於いては寢室が明に不足である）に於てさへ、未住居家屋に關する數字は、人口過剰は單なる家屋の不足の結果にあらずして、借家人が相應なる家賃を支拂ひ得ざるため、借家狀態が不良となつてゐることによるものであると教へてゐる。

人口過剰緩和に對する法制上の規定は多くの國に於て未だこれを缺いでゐるし、幸其の規定の既に存してゐる國に於ても實際上殆どこれを實施し得ない現狀である。**イギリス**議會提出中の住宅法案は主として人口過剰問題の根絶を期して立案せられたものである。

4・設　備

各國に於ける最近の學術的或は衞生的設備に對する住宅への經驗は未だ不充分であり、同時に借家人の支拂能力の不充分なるため斯かる設備を新住宅に擴張し得ざる傾向がある

從つて、例へばデンマークに於ても、近代諸設備のない新中流階級用多家族住宅の建設を以て貧困者用に供すべしとの聲が起つてゐるが、斯くては再び人口稠密其の他種々なる缺陷を曝露する處がある。

5・建設者

一般に個人企業による貧困者住宅建設は經濟上不可能なるにも拘らず、今尚個人企業にてなれるもの多き故、種々なる不合理を生んでゐる。

人口調査・都市計畫・道路敷設・公園設置・建築敷地の造成等の準備は先づ地方當局のなすべき義務なるは勿論であるが、地方當局はこれ等の事業に着手すると同時に進んで一定の支拂能力内に於て其の最高要求に應じ得らるゝ住宅の建設に注意を拂はねばならぬ地方當局及び公益事業團體は貧困者並に中流階級用の家屋建設に重要な地位を占むべきである。

6・結　　論

結論の要點は、如何なる方法により貧民住宅が薄幸の人達に占められてゐると確實にすることである。この點は、家屋樣式の選擇・住宅設備竝に財政問題に深き關係を有し、必要なる總ての事項は最も詳細にして最も完全なる調査によつて生れる。凡ゆる事情の調査が完了し、家賃に關する總ての要素が明瞭にならねば、補助金交付額を決定することは出來ない。

この點に關し先づ重要なる事項は寢室の必要數の調査で、アムステルダムに於ては3寢室の家屋50%、2 寢室の家屋35%、1 或は4寢室の家屋15%と規定され、リーズに於ては1 寢室の家屋（老人用）30%、2 寢室の家屋12½%、3 寢室の家屋47½%、4 乃至5寢室の家屋夫々5%宛と見做されてゐる。

住宅樣式に就いて一言するに、各國に於てはコテツヂ（一家族中流住宅）よりもテネメント(多家族中流住宅)が多く用ひられて居り、古くよりコテツヂ全勢の國イギリスに於てさへ、住宅改良にはフラツト(多家族中流居室)の建設が最も有効であると謂はれてゐる。併し、マンチエスターの郊外に於てはコテツヂが最も好まれ、家族生活は愉快な環境の中に設けられた獨立家屋に夫々の家族が別々に居住する時始めてこれを味ふことが出來るものであるとされてゐる。オランダに於てもこの觀念が旺盛である。而して、過去の經驗上事實フラツトはコテツヂに比して其の家賃が必ずしも安價でない。

貧困者住宅の建設によりて生じたる費用の負擔方法を決定するため確固たる法律を制定することは甚だ困難で、各國に採用されてゐる現在の方法は、課說の減額、低利住宅公債の發行　國庫の直接補助金交付等種々に別れてゐるが、何れも長短相容れない。建築費の輕減を計る手段の盡きた場合、住宅改良による人民の福利を增進するため、多少の財政的犧牲は蓋し已むを得ないことであらう。

大阪驛前土地區劃整理區域内に於ける建築物の高の最低限度

☆

大阪驛前區域は大阪市の大玄關として、交通上經濟上は勿論都市の美觀上からも最も樞要な地點なることは茲に更めて云ふ迄もない。

從つて、曩に鐵道省に於て大阪驛改築の議が決定せられて間もなく、驛前整理のため幹線街路事業と驛前約六千三百坪の建築敷地造成事業とを、昭和三年より六ケ年の繼續事業として大阪市長執行のことに決定せられたのであるが、土地買收・建築物の補償等に多額の費用を要すること、收用土地の整理後の賣却が困難なること、土地所有者が整理後前所有の土地を收得することの不確實なること等によつて遂に該事業の實施を見るに至らなかつたのであるが、これに代るべき方法として、昭和九年三月、都市計畫法に基く土地區劃整理により驛前區域を整理區域として決定されたのである。爾來滿一ケ年間地主に於て自發的區劃整理の施行を見なかつたゝめ、昭和十年四月都市計畫法に基いて大阪市に都市計畫事業として三ケ年間に工事を完成すべきことを條件として代執行をなすことゝなり今日に至つたのである。

而して、今般更に該區域の土地の經濟的利用と美觀の增進とを圖らんがため、既に指定せられたる防火地區並に美觀地區と相俟ち、市街地建築物法施行令第十一條の規定による區域に指定し各適當なる建築物の高の最低限度を定め、高層建築物の建築に適應する敷地造成としての効果を全うからしむることゝなつたのである。

☆

大阪府令第五號

都市計畫大阪地方委員會ノ議ヲ經テ市街地建築物法施行令第十一條ノ規定ニ依ル區域並ニ其ノ區域内ニ於ケル建築物ノ高ノ最低限度ニ關スル件左ノ通定ム其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備へ置キ縱覽ニ供ス

昭和十一年一月十三日

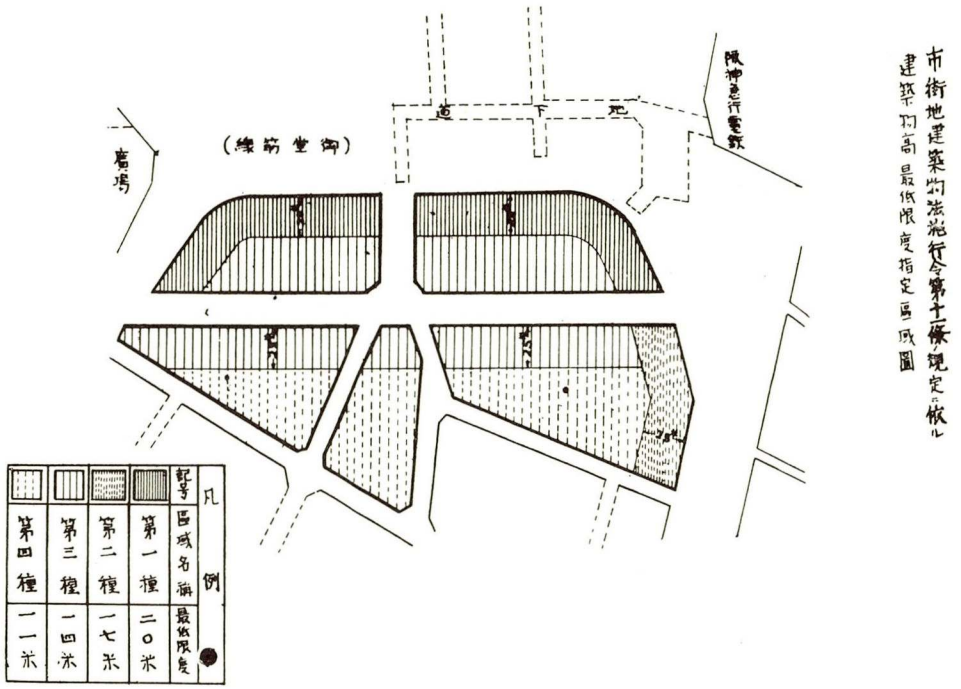
大阪府知事　安井英二

市街地建築物法施行令第十一條ノ規定ニ依ル區域並ニ其ノ區域内ニ於ケル建築物ノ高ノ最低限度ニ關スル件

第一條　市街地建築物法施行令第十一條ノ規定ニ依ル建築物ノ高ノ最低限度ノ區域ヲ左記圖面表示ノ通指定ス

第二條　前條ノ區域内ニ於ケル建物ノ高ハ第一種區域ニ在リテハ二十メートル、第二種區域ニ在リテハ十七メートル、第三種區域ニ在リテハ十四メートル、第四種區域ニ在リテハ十一メートル以上ト爲スベシ但シ玄關出入口ノ類及直接道路又ハ廣場ニ面セザル建物若ハ其ノ部分ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　本令ニ於テ建物ノ高トハ建物ノ敷地ガ道路ニ接スル部分ニ於ケル道路面ヨリ建物ノ外壁上端迄ノ高ヲ謂フ但シ外壁上端ニ扶壁又ハ軒蛇腹アルトキハ外壁上端ヨリ一・五メートル以内ハ高ニ之ヲ算入スルコトヲ妨ゲズ前項ノ道路面ニ高低ノ差アルトキハ低キニ依ル



市街地建築物法施行令第十條規定ニ依ル建築物高最低限度指定區域圖

第四條　假設建築物ニシテ特別ノ事由アリト認ムルモノニ對シテハ第三條ノ規定ニ拘ラズ存續期限ヲ付シ特ニ建築ヲ許可スルコトアルベシ

☆

尙、以上の如き建築物の高の最低限度として決定したる數字は、各階の平均階高を三米（實際調査によれば高層建築物の階高は平均三・五米内外又はそれ以上となつてゐるが、茲には最低限度を抑へんとするものなる故、極めて稀な殆ど例外的と見做し得るものを除き、最も取り扱ひ易い簡單な數字を選んだのである）とし、又第一階床は路面より高く且第二階以上よりも階高の大なることを一般とする故、或は屋上パラペツトの類一・五米を建築物の高として算入するを得せしめたる故、この平均階高に二米を加へてなれるもので

ある。即ち、三階であれば3米×3＋2米＝11米、四階であれば3米×4＋2米＝14米、五階であれば3米×5＋2米＝17米、六階であれば3米×6＋2米＝20米を以て最低限度と考へられたのである。

☆

因に、參考までに、「大阪都市計畫事業大阪驛前土地區劃整理地區設計畫」及び同「施行規程」を下に揭げる。

設　計　書

第一、整理施行地ノ現況

本地區ハ未ダ市域編入前舊曾根崎村當時國有鐵道梅田驛ノ開設ニ依リ從來ノ農耕地ガ急速ニ宅地化シ何等統一アル計畫モナク不規則ナル區劃ノ儘現在ノ市街地トナリタル所ニシテ其ノ間市ノ街路改良トシテ中央部ニ幅員六間ノ道路改修ヲ見タルモ道路ハ狹隘、家屋ハ概ネ木造ニシテ既ニ長年月ヲ經テ改築ヲ要スルモノ勘ナカラザル狀態ナリ

本地區ノ區域ハ北區曾根崎中二丁目及東梅田町ノ各一部ヲ包含スル地域ニシテ別紙現形圖表示ノ通リ東西ノ最長約三百五十米南北約二百米此ノ地積約壹萬四千六百六拾六坪ナリ

而シテ現在地盤標高 O.P 上二米半乃至三米ナリ

次ニ地區內ニ於ケル都市計畫竝同事業ニ關シ決定セル事項左ノ如シ

一、都市計畫街路

（イ）第一次都市計畫事業トシテ決定セルモノ

一等大路第三類第三十八號線（東梅田町線）	幅員	二十米

（ロ）第二次都市計畫事業追加トシテ決定セルモノ

一等大路第三類第三十九號線（梅田驛前線）	幅員	二十二米
二等大路第二類第八十四號線（梅田驛前西筋線）ノ一部	同	十一米
同　第八十五號線（梅田驛前東筋線）ノ一部	同	十一米
同　第八十六號線（曾根崎中二丁目　東西線）	同	十一米
同　第八十七號線（北消防署橫通線）ノ一部	同	十一米

二、防火地區（大正十二年十月一日施行）

廣路第一號線（御堂筋線）ノ建築線ヨリ六間後退セル區間ハ甲種防火地區一等大路第二類第一號線（梅田九條線）ノ建築線ヨリ六間後退セル區間ハ乙種防火地區

三、地　域　制（大正十四年五月一日施行）

整理施行地區內ハ全部商業地域

四、美觀地區（昭和九年十二月七日內閣認可）

御堂筋線、梅田九條線、東梅田町線南側ニ接スル建築敷地及東梅田町線以北ノ建築敷地

第二、工事其ノ他ノ事業ノ計畫說明

地區內ノ街路ハ曩キニ都市計畫事業トシテ決定セラレタルモノニシテ之レガ工事ハ都市計畫街路事業トシテ市長之ヲ執行スルヲ以テ本事業トシテハ右街路用地ノ開設ト新ニ高層建築敷地造

成ノ目的ヲ以テ地區内ニ於ケル土地ノ權利ニ付整理ヲ行ヒ且ツ地上物件ハ特種ノモノヲ除クノ外ハ全部之ヲ地區外ニ移轉セシメ又ハ除却、破毀ヲ爲シ土地ノ交換分合等ヲ行ヒ尙現況ニ應ジ地上物件撤去後ノ整理不陸ノ掻均シ等ヲ行フモノトス

第三、工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及地積ノ地目別

合計ノ豫定

地目	筆數	地積	摘要
宅地	31	10,659.89坪	
耕地整理法第十一條第二項ノ土地(道路)		4,006.72	
計	31	14,666.61	

第四、整理施行地及之ニ隣接スル土地ノ現形圖

別紙添付圖ノ通リ

第五、整理豫定圖

別紙添付圖ノ通リ

第六、工事着手及完了ノ豫定時期

着手　設計書認可後　三ケ月以内

完了　施行命令後　三ケ年以内

第七、工事費其ノ他ノ費用豫算

一金貳百六拾參萬圓也

内譯

金參萬圓　工事費

金貳百五拾壹萬五千圓　補償費

金四萬五千圓　事務費

金四萬圓　豫備費

施工規程

第一條　内務大臣ノ命令ニ依リ都市計畫事業トシテ本市ガ施行スル大阪驛前土地區劃整理事業ニ關シ都市計畫法施行令第十七條ノ規定ニ依ル費用負擔方法及耕地整理法ニ基ク規約ニ代ルベキ必要事項ハ本規程ノ定ムルニ所依ル

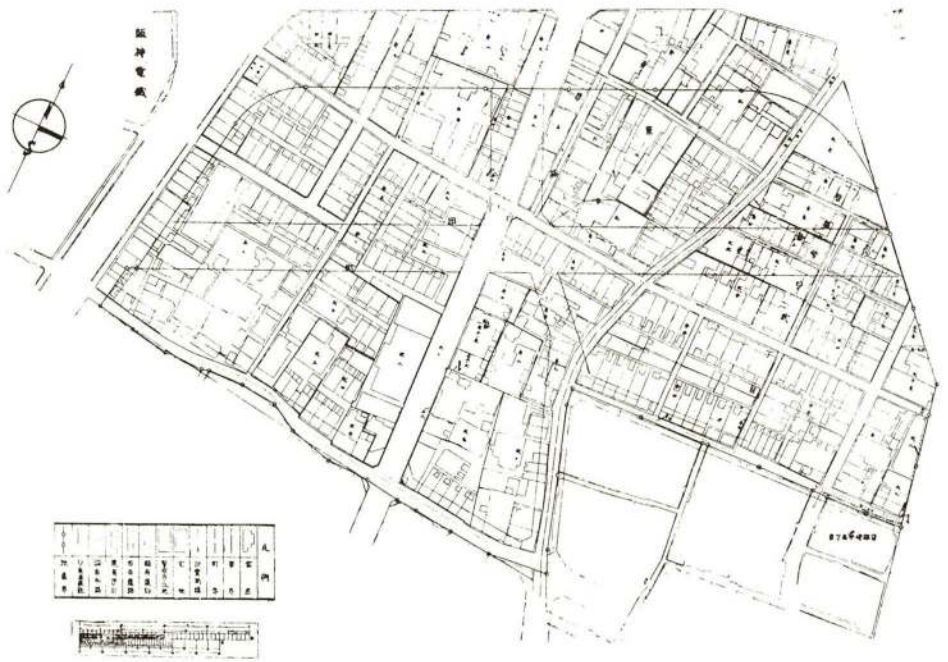
第二條　本地區ハ大阪都市計畫事業大阪驛前土地區劃整理地區ト稱ス

第三條　從前ノ土地各筆ノ地積ハ隣地所有者ノ立會ニ依リ境界ヲ定メ市長ニ於テ實測シタルモノニ依ル

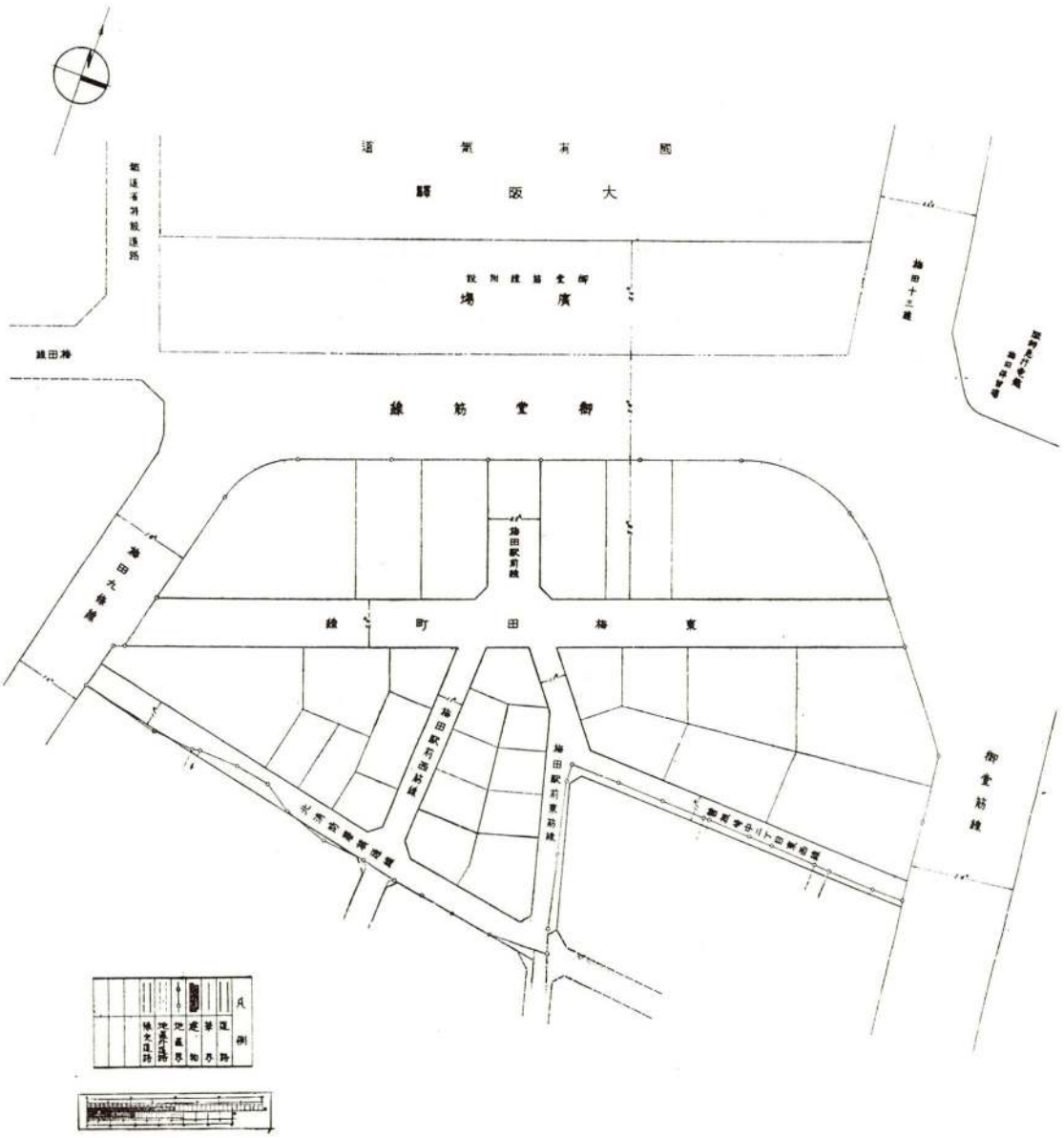
前項ノ場合ニ於テ隣地所有者立會ハザルトキ、立會ノモ意見異ルトキ又ハ境界判明シ難キトキハ市長ノ認定スル所ニ依ル

同一人又ハ其ノ家族ノ所有スル土地ガ連續スル場合ハ其ノ區域ヲ一團トシテ實測シ其ノ總地積ヲ土地臺帳地積ニ比例シテ之ヲ定ムルコトヲ得

大阪驛前土地區劃整理施行地及之ニ隣接スル土地ノ現形圖



大阪驛前土地區劃整理地理整豫定圖



第四條　前條ノ地積ハ市長之ヲ各土地所有者ニ通知ス

土地所有者前項ノ地積ニ異議アルトキハ通知ノ日ヨリ十日以内ニ再測ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ再測費トシテ土地臺帳地積百坪迄ハ金三十圓百坪ヲ超過スルモノハ超過地積一坪又ハ其ノ端數毎ニ金三十錢ヲ加ヘタル額ヲ前納セシム

再測ノ結果誤差が第一項ノ地積ノ千五百分ノ一ヲ超ユルトキハ之ヲ修正シ前項ノ再測費ヲ還付ス

第五條　從前ノ土地及整理後ノ土地各筆ノ評定價格ハ其ノ位置、形狀、地積、收益ヲ斟酌シテ市長之ヲ定ム但シ本市所有ノ從前ノ道路敷及溝渠敷ニハ評定價格ヲ附セズ

第六條　換地處分認可告示前必要アリト認ムルトキハ市長ハ土地ノ使用區域ヲ指定シ又ハ使用ヲ禁止スルコトヲ得

換地處分認可ノ告示前建築物ヲ建築セムトスル者ハ豫メ市長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第七條　本事業ノ施行ニ要スル費用ノ負擔ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一　工作物木石等ノ移轉除却又ハ破毀ノ爲ニ要スル費用ハ從前ノ土地ノ評定價格ニ其ノ土地內ノ工作物木石等ノ移轉除却又ハ破毀ノ爲ニ要スル費用ヲ加算シタル額ニ比例シテ土地所有者ヨリ之ヲ徵收ス

二　地上權、賃借權其ノ他土地ニ關スル權利ヲ消滅セシムル爲ニ要スル費用ハ其ノ土地ノ所有者ヨリ之ヲ徵收ス

三　前各號以外ノ費用ハ從前ノ土地ノ評定價格ニ比例シテ土地所有者ヨリ之ヲ徵收ス

前項ノ費用ハ概算額ニ依リ市長之ヲ徵收スルコトヲ得但シ精算額ニ依リ算出シタルモノニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徵ス

市長ハ第一項ノ費用ニ充當スル爲メ整理後ノ土地ヲ處分スルコトヲ得

第八條　耕地整理法第十八條第二項又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ依ル損害補償金額ハ其ノ土地ノ所有者又ハ賃貸人ニ對シ之ヲ求償ス

第九條　第七條第一項ノ費用及耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル徵收金ヲ定期內ニ納付セザル者アルトキハ納付期限ノ翌日ヨリ徵收金納付又ハ滯納處分ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ日步四錢ノ割合ヲ以テ延滯利息ヲ徵收ス

督促ヲ爲シタルトキハ督促一回毎ニ金二十錢ノ手數料ヲ徵收ス

第十條　換地處分ハ市長ノ適當ト認ムル時期ニ於テ之ヲ行フ

第十一條　換地ハ從前ノ土地ノ評定價格總額ヲ以テ換地ノ評定價格總額ヲ除シタル商ヲ從前ノ土地ノ評定價格ニ乘シタル額ヲ權利價格トシ之ヲ標準トシテ交付ス但シ地積僅少ニシテ市長高層建築物ノ敷地ト爲スニ不適當ト認ムルトキハ換地ヲ交付セザルコトヲ得

第七條第三項ノ規定ニ依リ土地ル處分スルトキハ從前ノ土地ノ評定價格總額ヲ以テ換地ノ評定價格總額ト土地ヲ以テ支辨スル費用總額トノ和ヲ除シタル商ヲ從前ノ土地ノ評定價格ニ乘ジタル額ヨリ土地ヲ以テ支辨スル費用負擔額ヲ減ジタル額ヲ前項ノ權利價格トス

第一項ノ權利價格ト換地ノ評定價格トノ差額及第一項但書ノ場合ハ金錢ヲ以テ淸算ス

本市所有ノ道路敷及溝渠敷ニ對シテハ換地ヲ交付セズ且淸算ヲ行ハズ

第十二條　本事業ノ會計年度ハ本市ノ例ニ依ル

第十三條　本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

第十四條　本規程ハ都市計畫法施行令第十七條ノ規定ニ依ル大阪府知事ノ認可アリタル日ヨリ之ヲ施行ス

交通幹線は計畫樹立次第書中最も重要なる部分の一であり、土地の幸福は其の住民が一點より他點へと容易に交通し得ることにある。自動車の異狀なる發達と共に今やこの問題は昔日に比して數倍の考慮を要することとなつた。凡ゆる交通の中には局部的の場合も尠くないが、最も混雜を招くのは長距離交通によつて惹起される交錯運動である。

實際上、都市にとつて自動車交通問題は頗る重大で、これがため絕えず局部的街路の擴大化竝に直線化の必要に迫まられてゐるが、斯かる方法のみを以てしては追々と其の解決が困難となつて來た。通過交通を市中にて取り扱ふに要する施設は高價であり、且凡ゆる交通が必ずしも通過するを必要としない場所を通過しなければならぬ點に不滿があり、加之この無役な混亂によつて往往貴重なる人命を損傷する虞ある等は特に甚深の注意を拂はねばならぬ諸點である。從つて、通常斯くの如くであつたからと云ふのではなく、斯くあらねばならぬ、斯くして合理的になし得ると云ふ論據を基礎として、この問題を研究し其の解決に近付かんとすることが最も肝要である。

昨年、State Department of motor Vehicles of Connecticut 管轄の下に行はれた Greenwich の Boston Post Road の交通調査によれば、約 20% のみが局部的交通であり、60% 以上が他州の登記車となつて居り、Milford, Conn. の Boston Post Road に於ては、約8% のみが局部的であり、35% 以上が他州の登記を受けてゐる。他州に於ても恐らくこの程度の比率となつてゐるだらう。

殆ど總ての局部的交通調査は、混雜の大部分が通過交通によつて惹起することを指摘してゐる。從つて、通過交通によつて局部的價値の損傷せられないやう、局部的交通に對する必要以上に從來の道路を擴張するよりも、其の都市に接近して而も貫通してゐない交通路線を敷設することによつて、局部的と通過交通を全く分離するのが理論的である。現在の交通系統はこれを其の儘に殘し置き、局部的短距離交通の役に供せしむればよい。

斯かる分離は多數の利點を有する。即ち、

（1） 村落個有の魅力が保存される。

（2） 頻繁なる自動車交通による村落の破壞が救はれる。

（3） 地方住民が下町に行き容易に駐車し得るため地方的商業が振興する。

（4） 局部的交通路線の維持費が節約し得られる。

過通道路の設計

通過道路の必要性と要求性との研究に鑑み、其の設計は先づ交通の快速と連續とを許容し得るやうこれを樹立しなければならぬ。斯かる道路は長距離交通用に充てることを目的とせる故信號燈による頻繁な停止或は不規則な交叉點等は努めてこれを除去しなければならぬ。從つて、次の如き方針を貫徹しなければならぬ。

（1） 中央線地帶による異方向交通の分離

（2） 交叉點の立體分離或は循環分離

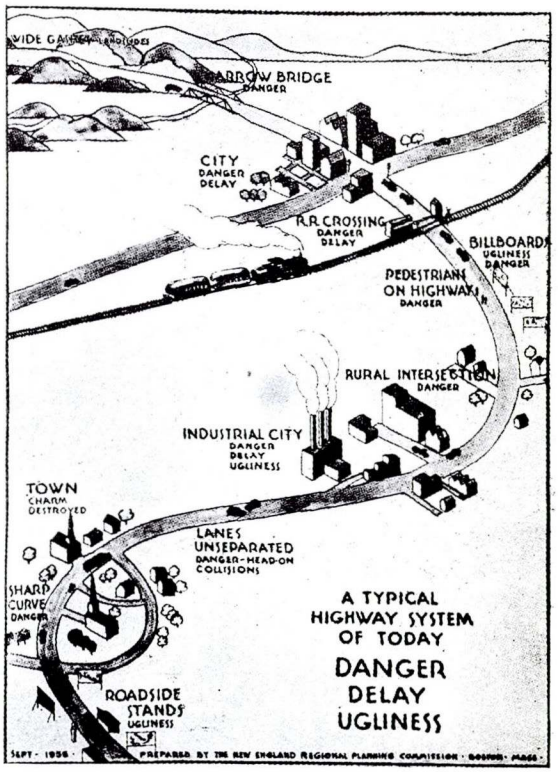
（3） 駐車場或は特に計畫されたる出入口の他、道路の兩側に駐車することを State Highway Department による禁止

（4） 道路に沿つて步道の敷設竝に所々に步行架橋の設置

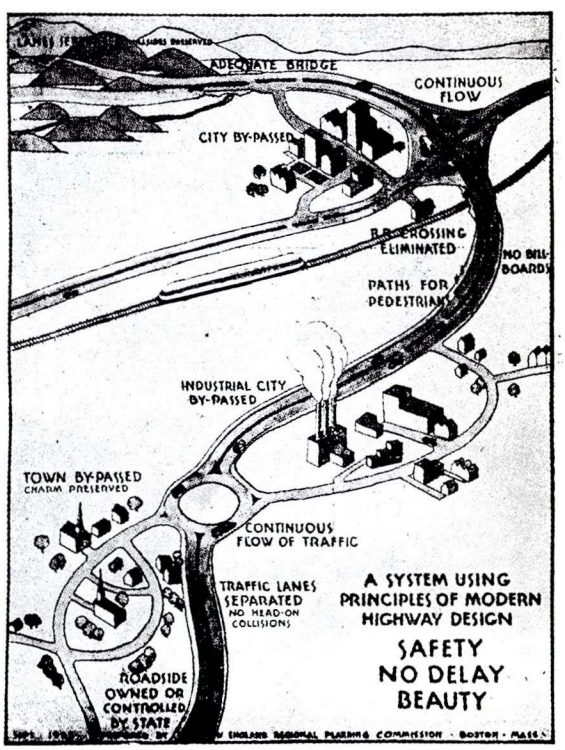
（5） 速行運動に適する曲線・築堤及び見透計畫

（American City, Jan. 1936 吉田信武）

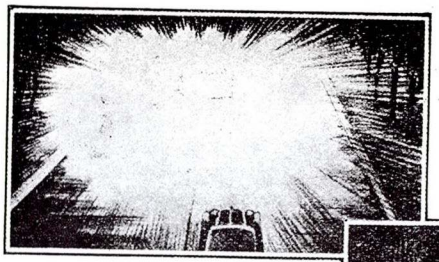
不良

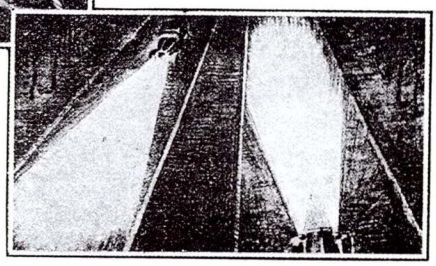


良

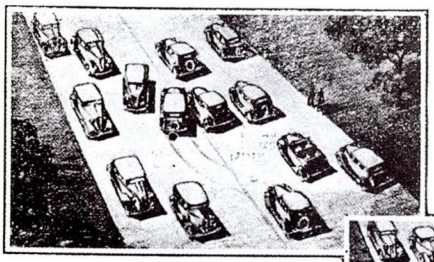


不 良

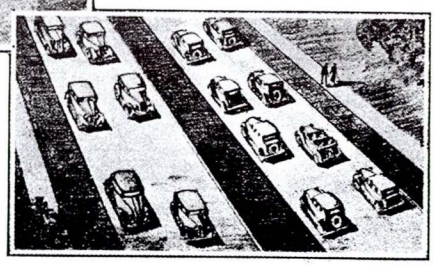




良

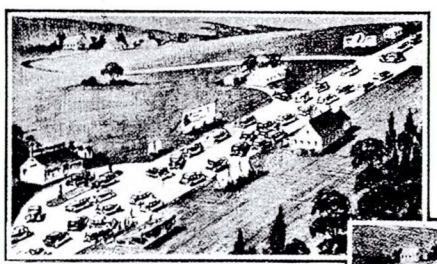


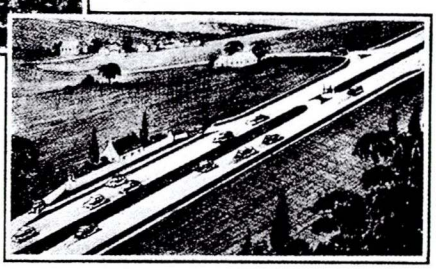
不 良



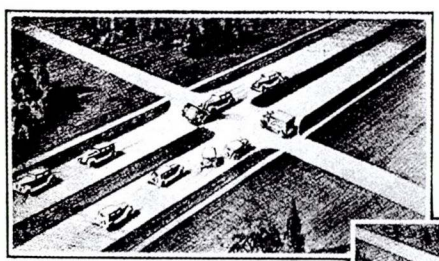
良

不 良

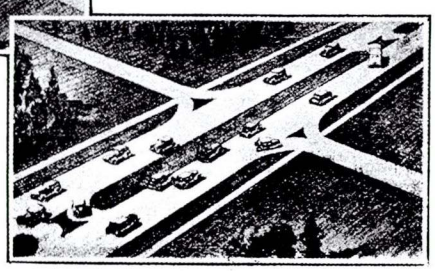




良

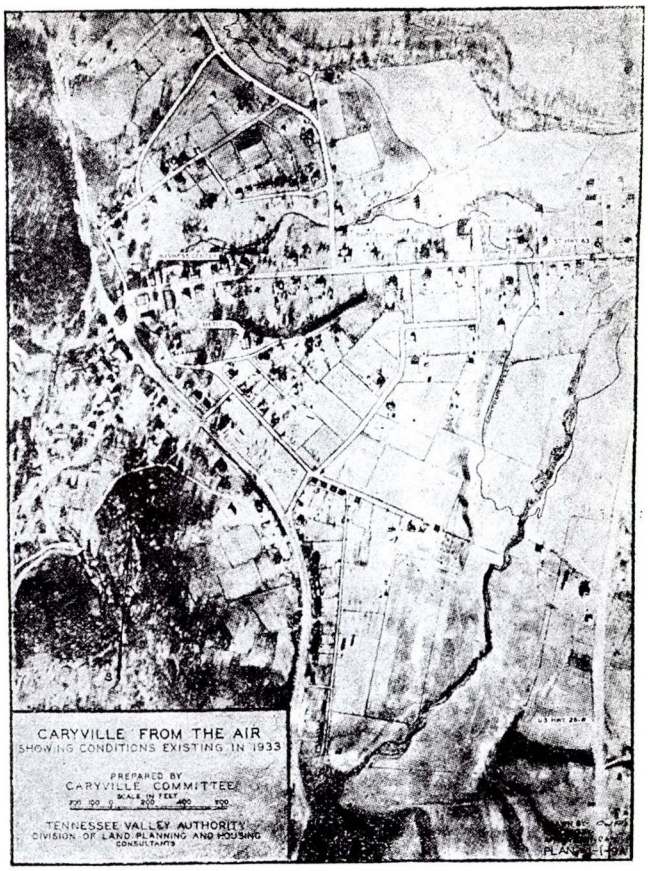


不 良



良

第72（アメリカ）通過交通道路計畫案



飛行機上より撮影せるキヤリヴイルの現在の狀態（1933）

Norris Dam の完成に隨つて其處に大なる湖又は貯水池が出現することになつたので、キヤリヴイルの町は改造の止むなきに到つた。

A. 貯水池の廣さ

1 總面積約 214.96平方粁（83平方哩）

2 不規則なる湖沿岸の總延長 約 1,126.5粁（700哩）

B. キヤリヴイル町の概要

1 人口 約 1,100人

2 戸數 267戸

イ 住家 239戸

ロ 商店 28戸

以上町面積の内の約.81粁（200エカー）の土地が貯水池への面積である。その結果50戸の住家、3戸商店が漲水區域の中に含まれ、23の住家と9室を有する煉瓦造の學校とが移轉せねばならなかつた。

C. 適應策

1 最初の對策としてキヤリヴイルの町を全然徹去して他の適當な土地に再建することに就て研究が進められたが、町民の要求で現在のまゝで改造計畫を樹立することになつた。

2 此の町は石炭の採掘によつて町民が生活を立てゝ居るので、炭鑛に藏されて居る石炭の量を大略見積る必要があつた。その結果現在の割合を持つて採掘が持續されるとするならば、町民の100年間の勞働に耐えるに充分だけ石炭の藏されてある事が解つた。

3 此の町の改造計畫を實施する經費として約1500,000弗の經費が見積られて居つた。

4 TVA の一般的對策として次の事が決められた。

イ 貯水池沿岸幅員402米（1/4哩）の地帶は保護地域として豫定しておく事

ロ 改造計畫にあたつて勝手に不動性の規定を決定するより必要に應じて摘用し得る方策を取る事

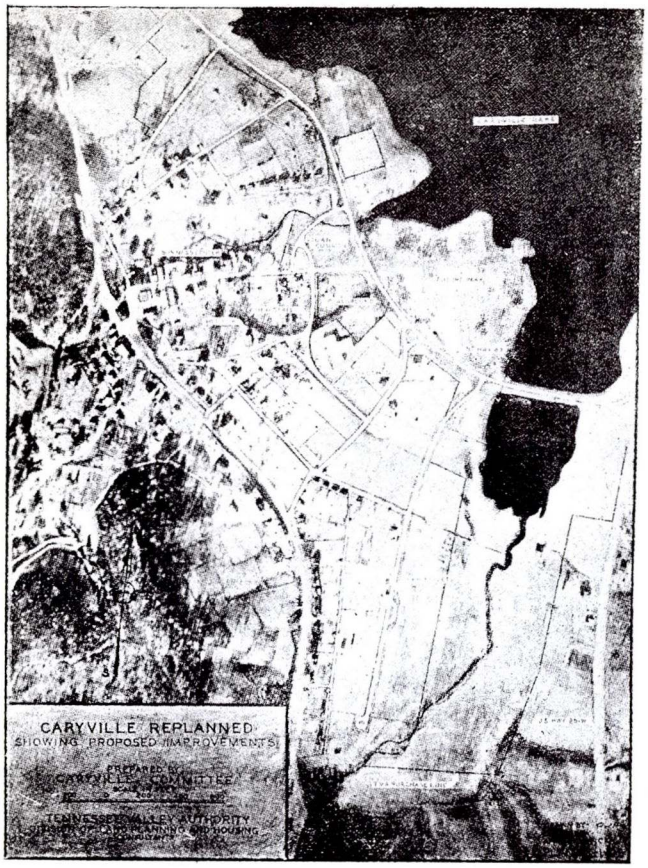
ハ 漲水區域に含まれる幹線道路は變更して町への善いアプローチとなす事

D. 湖又は貯水池

改造計畫によつて損害の可能性あると想像し得るものを、町の最も貴重な財産にまで變化し得る事が發見された。

イ 出現した貯水池が、風致のよい景觀と價値ある慰樂休養地として約0.4平方粁（100エーカー）以上面積を魅力の豊富な湖のある健康地として再現する事。

註



キヤリヴイルの改造計畫案

ロ　此の貯水池に關して最もよくない事は一年の 2½ 月より 5 月頃まで水準高が著しく下る事で、場所によつては8米(25呎)も低下する事があるので、此の水準高を常に普通高に保持さす爲めにコンクリートのダムの溢れ口の改造を必要とした事。

E. 街路、共有地、學校及公園

イ　幹線道路を除いて、キヤリヴイルに現存する道路網は殆んど變更しない事を目的として計畫を進めたが結局集會所を通路に沿はしむる爲め、或は新築建物に接續して宅地造成を行ふ爲め、全然新路線を數本追加せねばならなかつた事

ロ　共有地

町の運動場用地として、幹線道路の一方の端に TVA の土地を豫定しておく必要があつた。そして此の共有地は古雅な沿岸樹 (beech trees) によつて立派な町の "玄關" として非常に魅力のある風致を構成して居るのである。

ハ　學　校

適當な土地がないと云ふので相當困難な問題を提供して居つたが、結局、名ばかりの借地は運動場として使用し得る權限が與へられるので當局の附屬地の好適の場所を學校敷地としたのである。

ニ　公　園

共有地、運動場或は數多い相當面積の亂突して居る半島等は町の公園として立派に適して居るのである。同時是等の土地は貯水池の爲めに TVA の一種の保護地帶を形成して居るのである。

F. 効果ある協力

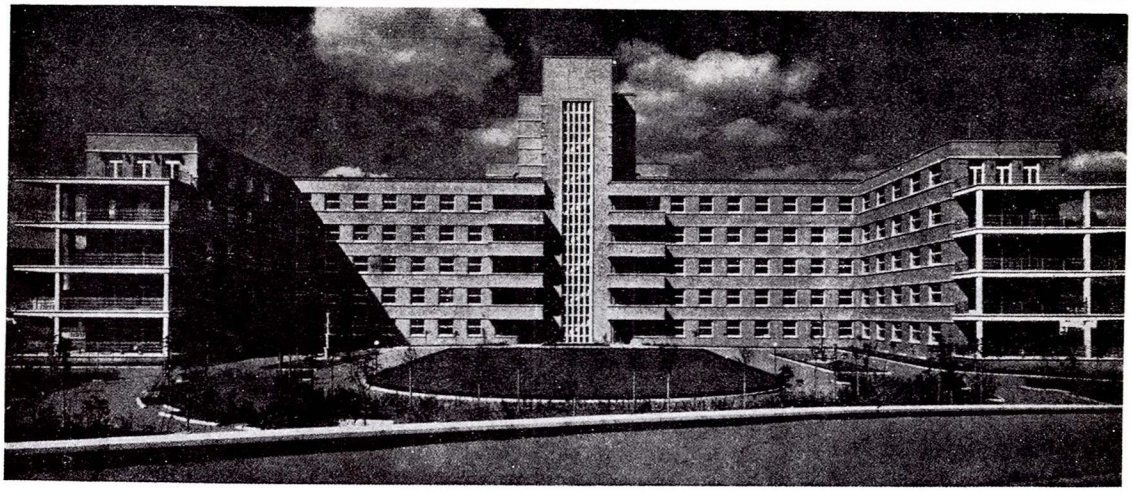
キヤリヴイルの改造計畫は、工事だけに就て考究するならば、それは只單にキヤリヴイル都市計畫委員の活動的にして且つ良心的な仕事のみが、或は又 TVA 計畫者の技術的權能のみが、樣々に縺れ合つて居る利害に對して一般的滿足を與へると云ふのではない。即ちそれ等が單獨でなく緊密に結ばれて初めて、づぬけた効果をもたらすものである。

此の改造計畫の最初は、地方計畫家 Tracy B. Augur 及 Raymond F. Leonard の兩氏の監督の下にあつたが、此の地方的な必然性の決定が終了した後には、此の計畫の詳細及委員會への諮問等の準備は、土地及住宅計畫局の都市計畫課長 Carroll A. Towne 氏によつて進められたのである。

(From American City , Jan. 1936, 龜井幸次郎)

註　TVA は Tennessee Valley Authority の略

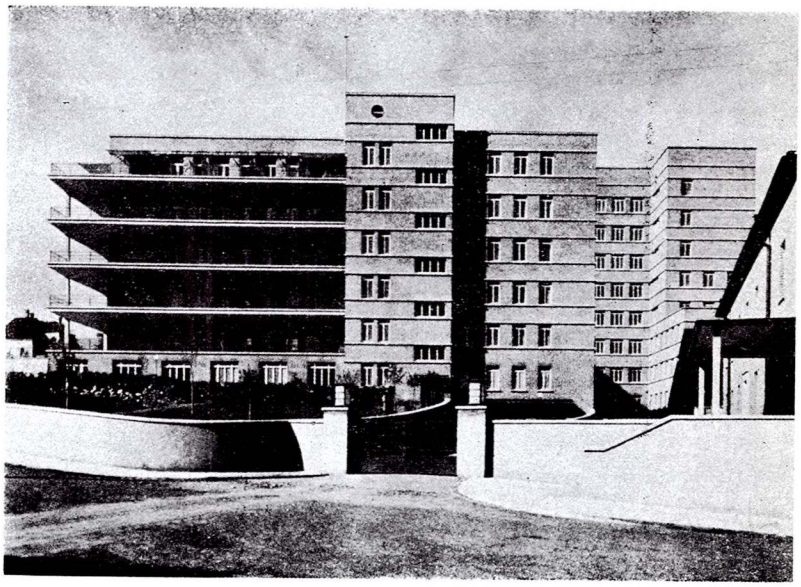
III 74 (アメリカ) TVA に依る町の改造計畫案



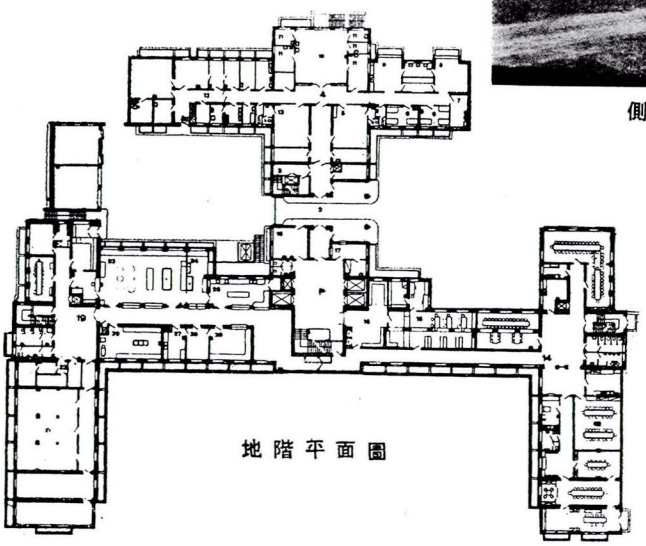
正面外觀

廣き庭園に向つて南面せる部分は全部病室で、向つて右が男、左が婦人、小兒の病室、である。治療、手術、診斷、講義等の諸室は北方に配され、四臺のエレベーターを持つ中央大階段室に依つて、病室と最短距離に於いて、巧みに連絡されて居る。地階には暖房換氣機關室、第一階には待合室、診察室、醫師看護婦食堂、調理場等二階には、溫冷水浴、電氣治療室、三等病室、三階には、レントゲン關係諸室並三等病室、四階には院長教授室會議室、標本室、並三等病室、等、五階には大臨床講義室並小教室、準備室並三等病室、六階には教室、書庫、學生關係室、並一等二等病室等を配し居る。

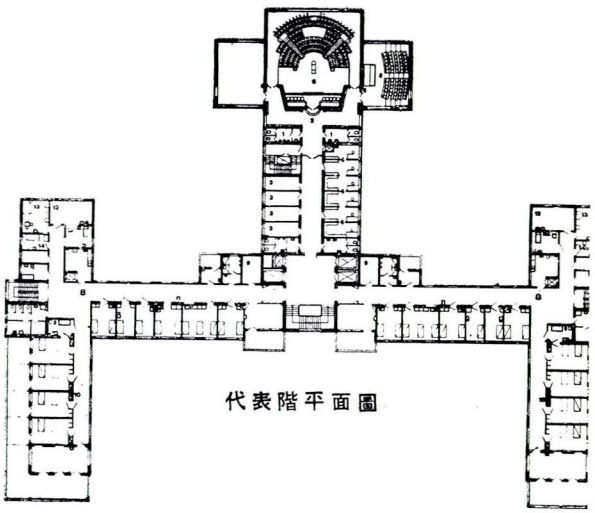
(Moderne Bauformen, Jan. 1936 より和田登)



側面外觀



地階平面圖

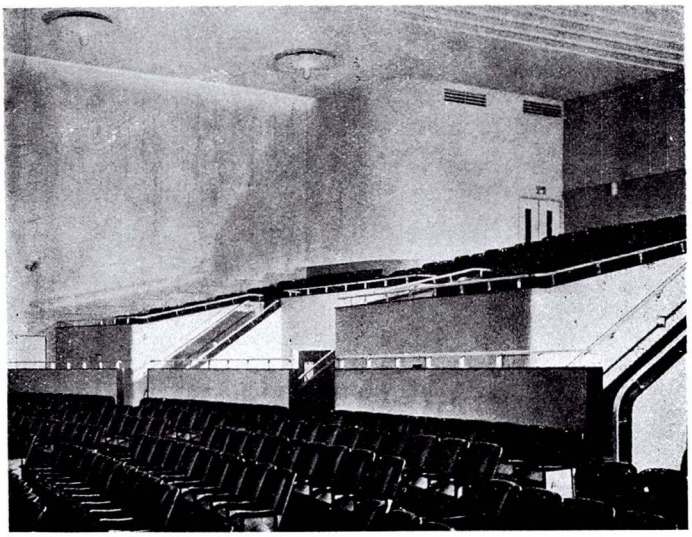


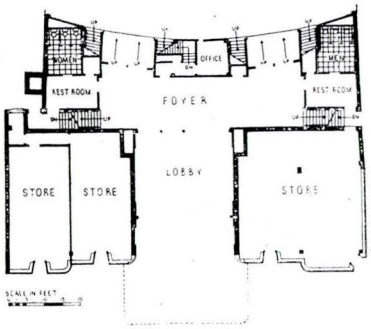
代表階平面圖



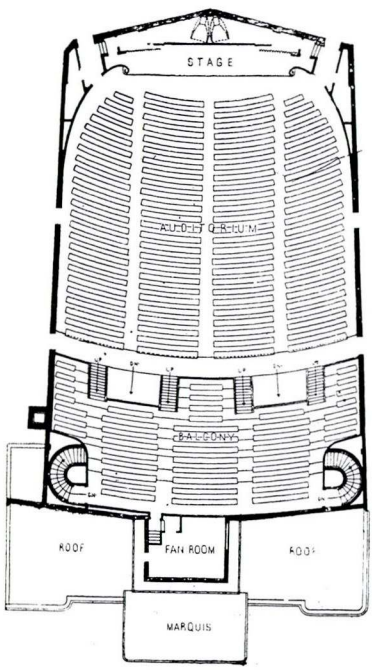
外觀

觀覽室內部





1階平面圖



2階平面圖

シカゴの第95番街とアシュランド通との交叉點に建てられた小映畫館。敷地は95番街側100呎、アシュランド通側187呎、東側162呎の扇形の不規則な地面である。

1階中央部入口の兩側道路に面する部分は商店で、中央入口を入ると26呎角の玄關廣間、その奥に14呎×57呎の大さのフオーヤーがある。この程度の映畫館として平面が極めて簡明であるのと、フオーヤーから螺旋階段に依るほかに、1階觀覽席から直接2階觀覽席へ通じ得る様に計畫せられ、その爲に2階觀覽席の有効面積が非常に增大されて居る點などにこの平面計畫の特徵がある。平面計畫と同樣に外觀も內部も全て簡明直截な近代的取扱ひに依つて居る。

外部仕上次の如し。

商店腰、黑御影本磨き、パラペツト、チヨコレート色、マコツタ仕上、ステンレススチール笠石附。

陳列窓、使用金屬は全てアルミライテド・アルミニユーム。

劇場庇、廣告の部分以外は全てアルミライテド・アルミニユーム仕上、入口廻、朱色マコツタ。

床、灰色テラゾーに朱色のゴムマツトを敷く。

其他・金屬部分は全てアルミライテド・アルミニユーム。

其他の外壁、淡灰色のスラグ・ブリツクに白色のカスト・ストーン笠石附。

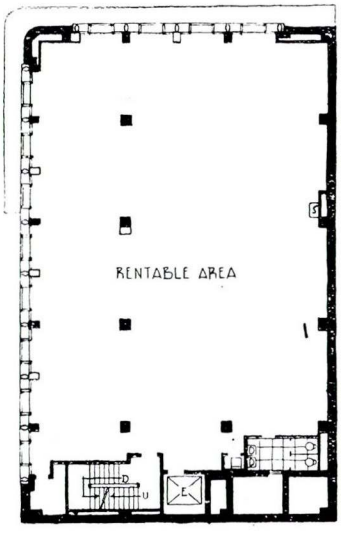
(Architectural Forum, Jan. 1936 より新名種夫)

III 76 (アメリカ) シカゴの Beverly Theatre

建築家 R. F. Peny



外　觀



2・3階平面圖

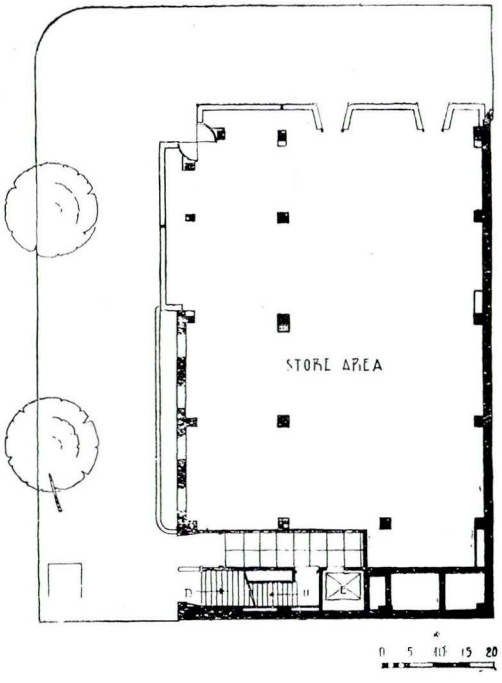
この建物の1階が商店であることは陳列窓から見ても明かであるが、2階3階も亦事務所ではなく商店であることを外觀に表現することが、この建物の施主の注文であつた。

2階3階は階段及エレベーターに依つて直接街路に通じ、廣いスペイスは幾つかに分たれて貸商店として用ひられる。

外部の金屬部分は陳列窓及上部窓廻り共全てブロンヅを使用。

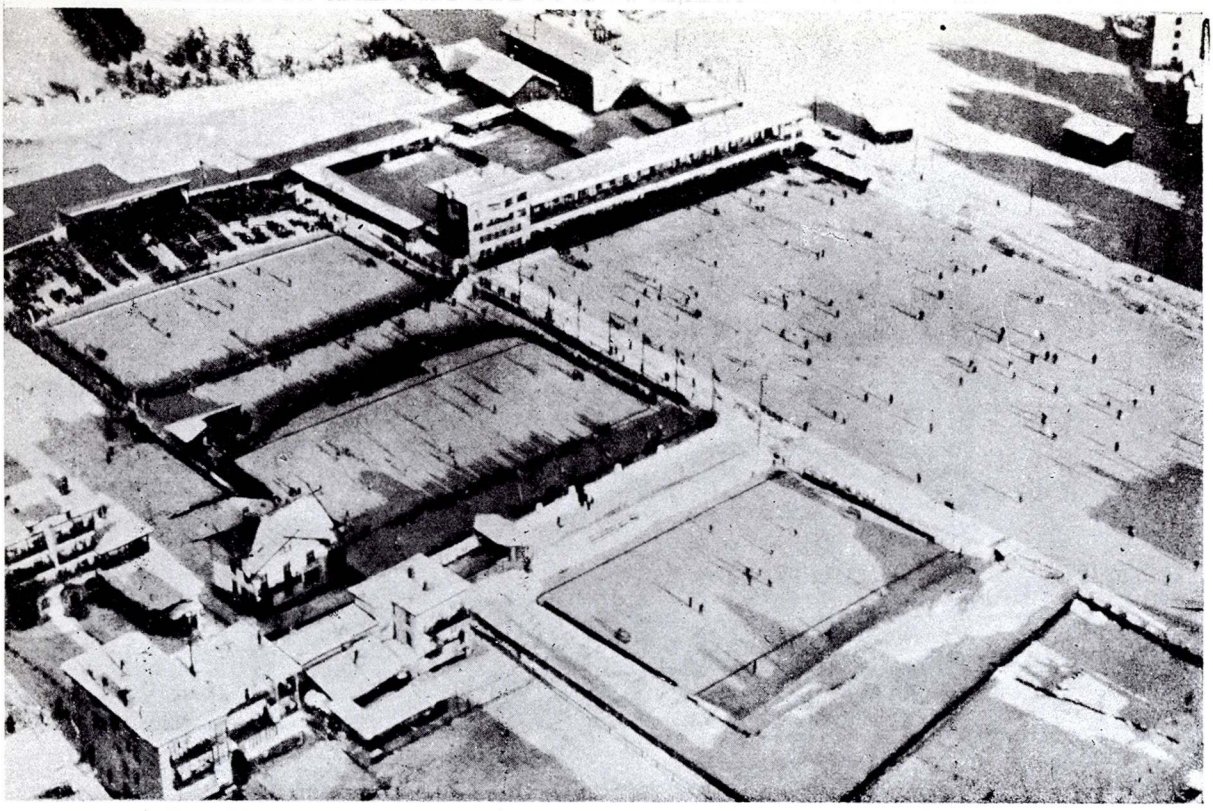
2・3階の窓と窓との間には夜間照明の爲にフラツドライトが仕込まれて居る。

(Architectural Forum, Jan. 1936 より 新名種夫)

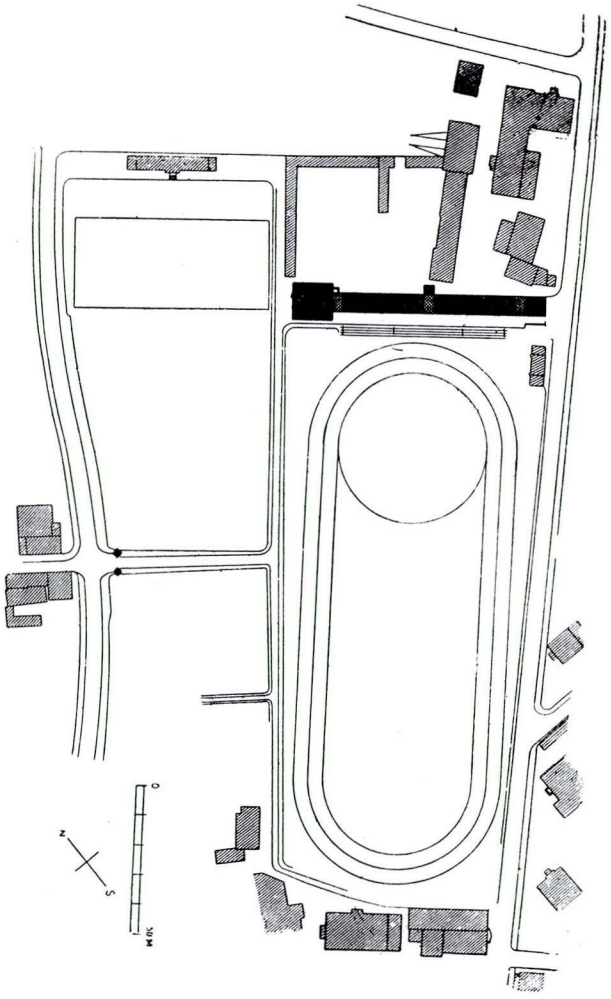


1階平面圖

(アメリカ) ワシントン、Reminton Rand Building



全　景

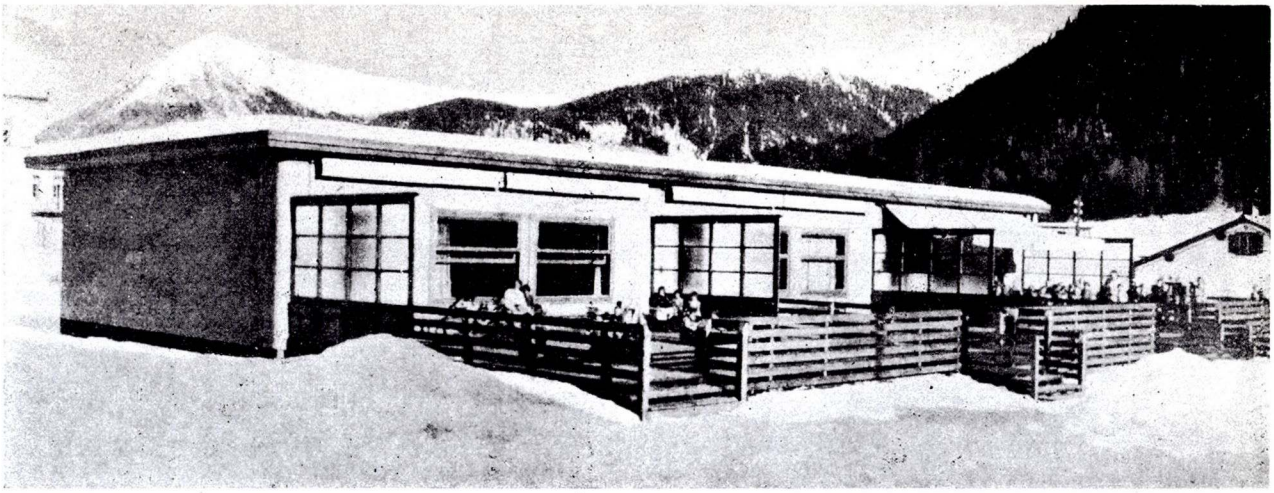


配　置　圖

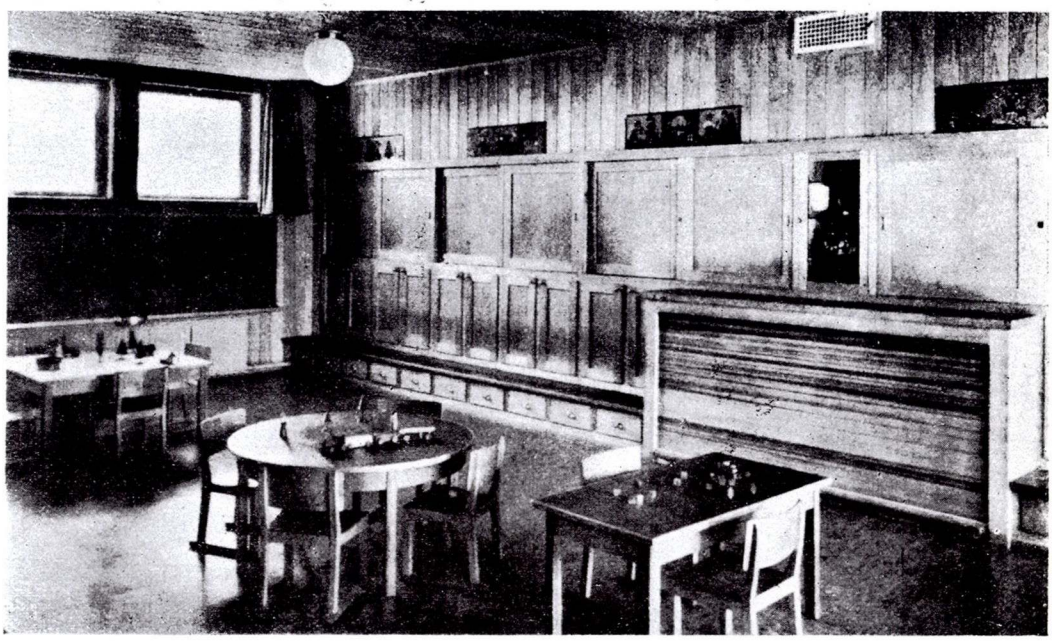
上は Davos にある
氷上競技場の鳥瞰寫眞で右上の
方にある細長い建物は1934年に
建つたクラブハウスである。
下は　その配置圖である。
（Das Werk, Jan. 1936 より
岡田孝男）

III 78（スイス）Davos のスケート・リング

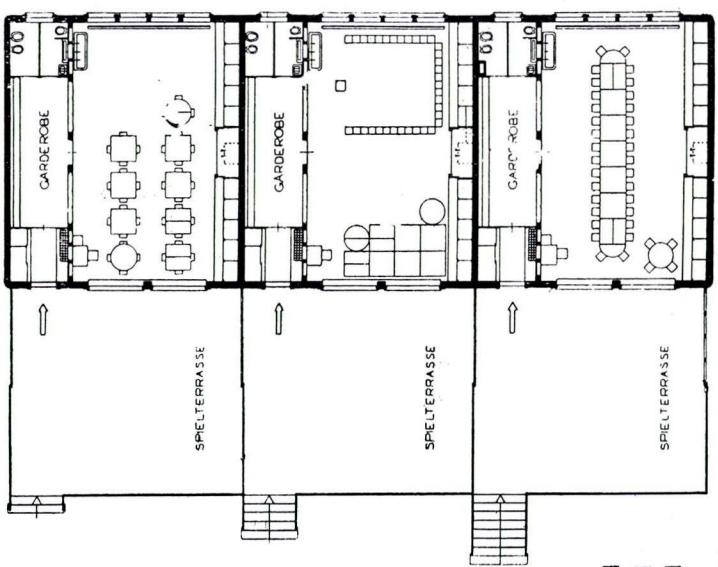
建築家　Rudolf Gaberel



全景



室内



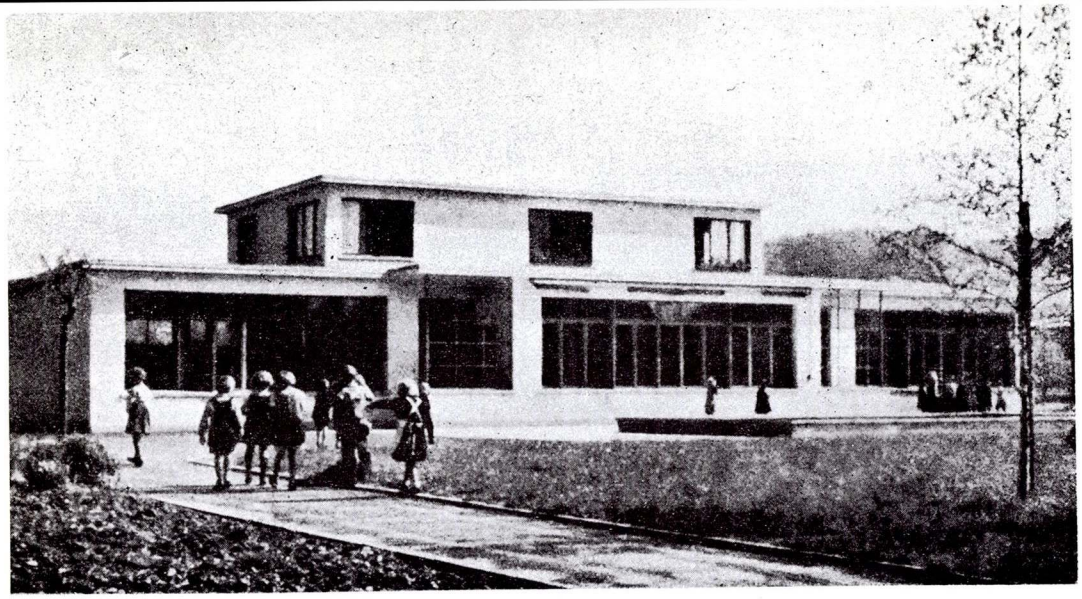
平面圖

Grundrisse Keller und Erdgeschoss 1:300

定員35人のクラス室が三つ並んで各々廣いテレスに面して居る。
室内の寢具は規格化して居るので平面圖の各々に見られる通り三種以上の配置が出來る。
構造は木造、
建築費は
建物が 106,340 フラン
家具 6,014 フラン
附帶工事其他 5,275 フラン
合計 117,629 フラン
立方米當り 55 フランである。
(Das Werk, Jan. 1936 より
岡田孝男)

(スイス) Davos の幼稚園

建築家 R. Gaberel



全　景

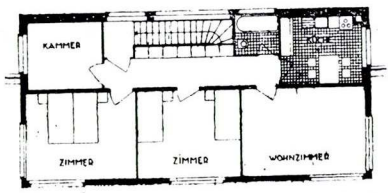
36～40 の定員を收容する 7m × 7m のクラス室が二つと、共同遊戯室が一つ。

廊下は更衣室を兼ねる。

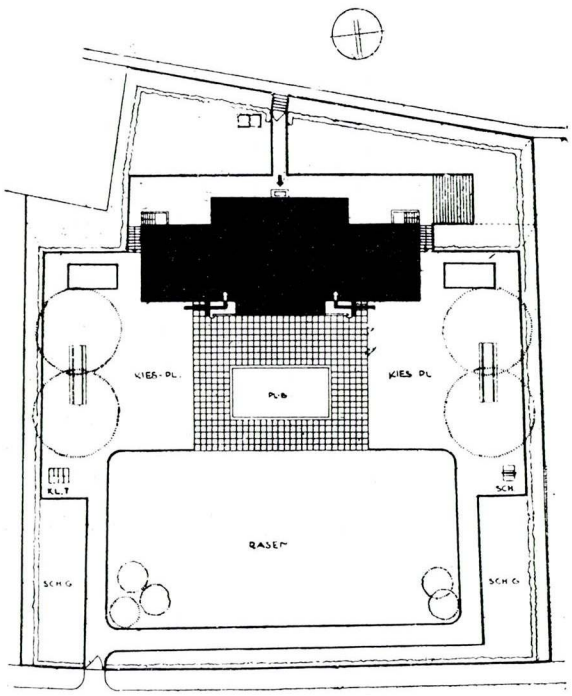
建物の南庭にプールをとる。標準的の園である。

工費は土地15,000フラン建築100,300フラン附帯工事及庭園 25,300フラン家具 3,400フラン、合計 144,000フランで立方米につき55フランである。

（Das Werk Jan. 1936より岡田孝男）



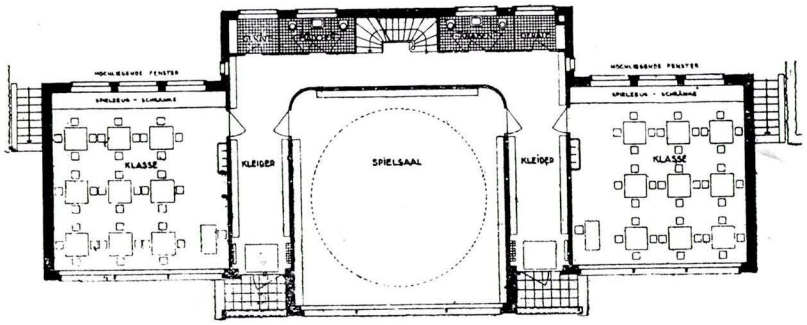
2 階 平 面 圖



Situation 1:750

配 置 圖

Detailschnitte 1:10, unten Grundrisse Erdgeschoss und Obergeschoss 1:300



1 階 平 面 圖

III 80 （スイス） Winterthen-Seen の幼稚園

建築家 Reinhart, Ninck 及 Laudolf.

建築隨想

未來の大阪

島田良馨

浦鹽から航空船で出發したが、間も無く氣が付くと大阪港口の燈臺の地下街の堀土を以て港外に埋立られた、國際「オリンピック」大會々場となる大運動場街の綠に蔽れた二重防波兼用の大新島をはじめ、埋立てに依る新島が數島見へた。次に糸の様なる長い防波堤は大阪を中心として神戸より和歌山迄連接し、海岸から突出た無數の棧橋上には百足の様に列車が着いて、大グレーンに依つて船に貨物を吸上る様に運んで居る。海岸附近の工場街はありし日の大阪、の如く「タンク」煙突などはなく、從つて煙、塵埃等の發生は無い。化學工場の配送塔などがあつて、統一された形と配置とに依り工場も亦美しさを表現して居る。紀州から山陰地方に通ずる大道路と、神戸から京都、築港から奈良及名古屋方面への立派な二階付き高速路面の交叉が常綠樹の植付けに依つて、冬でも綠の大動脈となつて特に目立つて居る。空に聳ゆるスカイラインの揃つた建物の中に氣持良くタワーが其單調を破つて居る。西區、船場、島の内の向ふには大阪城の天主閣を正面とし南と北とに對立した市政廳の政務と產業の兩大會議堂が廣々とした公園の傍に毅然として浮上つて居る。全市は商工都市の綜合的美觀を呈し豪華の極みである。大阪市は東は生駒山脈、北は箕面寶塚迄延び、建築物は總て耐震、耐火であることは勿論、美觀地區と非美觀地區、主要部と非主要部等との急激なる區別は無く、極めて自然的な變化を持ち、世界に誇るべき美觀都市であり又不燃燒都市でもある。各河川の兩岸は公園の綠地帶であり、樹木が水に映じて是れ又非常に美しい。大阪驛及各電車終點驛舍屋上は空中乘降場となつて居り、繫留船を以て連絡されて居る。

大阪市の上空を一周して居る内に日は沒して、誇りの都市も端れば夜の幕に閉されたが、市中に返つて目立つのは廣告協議會の指導の下にネオンサイン其他照明の波が夜の慰めの様にまばたき、東は枚方西は北港、南は吾彦、北は寶塚の各歡樂街の照明亦これと競ふが如く空に映え渡り、河岸はこれを水に反映して美しいパノラマ鄉を現出して居る。

暫く大阪を離れて昨年久し振りに下關で上陸し汽車で來た折には、明朗な照明地下街の自動車道を通つて動物園、水族館、博物館など地下の設備を見て驚いた。地上には必要が無くつて出なかつたが、今回地上を見下して二度目の驚異である。此驚歎すべき大都市は人生の様に實用年限を定めて竣工後三十年を停年期として新たなる計畫に基き一齊に是れを改廢して一變し、理想の新都市に躍進すると聞くと、尙更驚の外はない。

次の刷新都市の計畫中には(1)新淀川を日本海と伊勢灣迄で通じ又(2)瀨戸内海の兩入口には大閘門を造り大「ポンプ」を備へて津波、高潮を難無く防ぎ、閉塞中でも五十萬噸級の艦、船、は悠々と通行する様に計畫する。(3)新埋立の諸島や四國への海底大連絡路等が含まれて居ると言ふ。遠き將來に對する高遠なる理想の下に部分的都市計畫を全國的都市計畫に變革しつゝある此大豫算を以て技術家に一任されたとの事である。

會　報



會員故須藤隼人氏

會員須藤隼人氏、昭和11年1月25日病を以て逝去せらる洵に哀悼に堪へず茲に照肖と略歷を掲げ謹みて弔意を表す須藤隼人氏は

1、明治22年7月秋田縣に生る
1、夙に縣立秋田工業學校を卒業後秋田縣內務部土木課及馬政局に職を奉じ、更に轉じて
1、大正3年5月清水組へ入店內山工事長の下に在りて本店に於ける數多工事を監督完成せり
　大正11年工事主任に任ぜらる
　大正14年全社大阪支店へ轉勤し昭和4年6月次長を命ぜらる
1、昭和2年5月10日本協會々員に入會
1、同4年12月16日通常總會にて評議員に當選
1、同6年12月評議員任期滿了
1、爾來引續き勤務中の處昭和9年6月偶々病を得て專心療養に努めたるも癒ゆるに至らず、昭和11年1月25日腦溢血にて歿す享年47歲



終身賛助員故作山義弼氏

終身賛助員作山義弼氏昭和10年12月31日病を以て長逝せらる洵に哀悼に禁へず茲に照肖と略歷を掲げ謹みて弔意を表す

作山義弼氏は明治24年11月27日鳥取市に生れ鳥取一中、京都三高をへて京都帝大工科機械科を卒業す。

間もなく養父經營の作山鐵工所に入り其後都合にて東亞鐵工所に變り約三年の後株式會社横河橋梁製作所大場工場に入社、昭和8年1月同東京工場に轉勤して同時に取締役となり今日に至る昭和10年12月31日病の爲に歿す享年45歲。

常　務　會　（第3回）

時　2月7日午後6時30分—9時
所　協會倶樂部室
出席者　理事　片岡會長　設樂副會長
　監事　津田監事
　常務　北垣主記　阪口主記
　中西主記　內藤主記
　加田主計　作間主記

清水主計　　新名編輯
島田編輯　　本多編輯

議　事

1、2月例會に關する件
2、更正豫算に關する件
3、會費滯納者處置に關する件
4、評議員會及臨時總會開會日取等の件
5、日本建築士會關西支部より事務室使用料減額方請願の件
6、映畫披露に關する經費支出の件
7、舊建築倶樂部より備品其他引繼に關する件
8、4建築會第3回聯合大會を建築學會創立50周年記念の際之を開催するの件
9、4 建築會聯合に關し本部を當協會に設置するの件
10、職員1名辭職及增俸並採用等に關する件
11、會員詮衡

報　告

1、昭和10年度決算會計檢査報告

評　議　員　會

1、昭和11年2月12日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す
1、出席者次の通評議員22名監事1名

小川　陽吉	片岡　　安	加田　安彦	
北垣熊之介	黒田　　茂	阪口芳三郎	
作間日出生	清水　榮二	鈴木金太郎	
谷　　民藏	鳥井　　信	鳥井　捨藏	
中澤誠一郎	中村　義雄	内藤　亮一	
本多　正道	堀口　甚吉	三浦　　茂	
安井　武雄	山口久五郎	山田　　誠	
吉本政次郎	監事　松本　禹象		

1、午後6時30分一同着席片岡議長より只今評議員の出席者22名即ち法定數に滿ちたるを以て評議員會成立に付之れより開會する旨を告げ尙議事に入る前に諸君に申上げたきは本會の常務評議員三浦尙史氏及終身賛助員中川辰藏氏は昨日逝去せられたるに付茲に1分間の默禱をせられたき旨を述べ一同默禱
1、次で愈々議事に入り
議案第1號　昭和11年度更正豫算の件
各員に配付の原案に付清水主計より詳細說明あり異議者なく可決
議案第2號　會費滯納者整理に關する件
清水主計より說明し滯納者の氏名は此處に回覽としますから勸誘見込のあるものは印を入れ回付ありたしとて回覽をなし到底望なきものは除名處分に附することを承認ありたり
議案第3號　昭和10年度剩餘金處分の件
清水主計より說明あり別紙原案の通可決したり
議案第4號　細則一部變更の件
中澤主記より說明
細則第4條の次に下記の條を追加すること
第四條ノ二　本會ハ有益ナル事業ヲ行フ爲幹事會ヲ設置スルコトヲ得
幹事ハ常務會ノ詮衡ヲ經テ會長之ヲ指名シ幹事長ハ幹事中ヨリ之ヲ互選ス幹事長ハ幹事會ヲ整理ス
右異議者なく可決
議案第5號　臨時總會開會の件
以上議案中
昭和11年度更正豫算の件
細則一部變更の件
は總會に附議する要あるを以て臨時總會開會に付定款第二十二條第三項に依り之を諮り異議者なく可決
1、次いで緊急動議として常務（編輯）評議員三浦尙史氏昨朝逝去に付補缺に付定款第十九條に依り提議し協議の結果
1、常務は至急補選を要するに付本評議員會に於て互選することに決し下の通り決定したり
常　務（編輯）　評議員　堀口　甚吉氏
2、評議員の補選は之を行はず第十九條但書に依り缺員の儘と決定す
（賛否を擧手により採決十三名の多數決に依る）
1、上記にて議事を了り報告に入り次の件報告承認を得たり
1、委員會規程改正の件　　中澤主記報告
2、昭和10年度決算報告　　清水主計報告
3、元建築倶樂部物品其他引繼に關する件　　同
1、次に議長より本評議員會議事錄の代表署名者に次の二氏を指名し承諾を得たり
加田　安彦氏　　黒田　　茂氏

常　務　會　（第4回）

時　2月20日午後6時10分—7時10分
所　協會俱樂部室
出席者　理事　片岡會長　設樂副會長
常務　阪口主記　中澤主記
中西主記　内藤主記
加田主計　作間主計
清水主計　新名編輯
島田編輯　堀口編輯

議事
1、3月例會に關する件
2、敎化委員會委員1名補充要求の件
3、災害强度委員會委員2名增員要求の件
4、建築年鑑編輯委員依囑の件
5、編輯幹事會組織に關する件
6、處務細則一部變更の件
7、陳列場擴張の爲事務室位置變更の件
8、映畫版權に關する件
9、映畫借用に關する件
10、會員詮衡

報告
1、1月分會計報告

會員動靜

入會者

會員

石通　太郎君　住吉區濱口町126（株式會社大林組）
川勝　健二君　住吉區湯里町547（大阪府建築課）
倉岡　重雄君　此花區島屋町7（長谷部竹腰建築事務所）
高橋　鶴治君　西宮市津門西之口918ノ3（兵庫縣營繕課）
寺西　武吉君　住吉區天王寺町3020小島佐藏方（株式會社大林組）
能宗　一男君　神戸市兵庫區水木通6丁目20ノ14（兵庫縣營繕課）
橋本　秀齊君　此花區大野町2ノ15（株式會社大林組）
山中　彰君　神戸市林田區片山町1丁目160ノ5（兵庫縣營繕課）
會津　松藏君　普通賛助員ヨリ變格
井端　義明君　堺市櫛屋町6（堺市役所工營課）
石川　領一君　京都市左京區下鴨松ノ木町5（合資會社清水組）
石原　達偉君　住吉區住吉町1708（村野建築事務所）
伊藤　朔君　神戸市兵庫區大開通10丁目1ノ9（大阪鐵道局神戸保線區）
今西　太一君　西成區粉濱中之町2ノ28（橋本勉建築事務所）
上田　修壯君　住吉區田邊東ノ町5ノ29（中山太陽堂裝飾係）
榎　利夫君　神戸市須磨區天神町1ノ19（株式會社大林組）
小田島兵吉君　府下北河内郡蹉跎村中振（株式會社大林組）
大石　忠夫君　兵庫縣武庫郡甲子園7番町41號（西野田職工學校）
小島　初三君　西淀川區大仁東1ノ48（大阪市電氣局高速鐵道建設課）
佐溝　武雄君　港區八幡屋寶町2ノ215（津田建築事務所）
杉浦　巴君　住吉區阿倍野筋2ノ12（村野建築事務所）
雙田　萬次君　旭區友淵町123鐘紡社宅（鐘淵紡績株式會社淀川支店）
武田　雅男君　府下泉北郡高石町北603ノ4（橋本勉建築事務所）
傳谷一四二君　神戸市須磨區權現町3ノ113（大阪鐵道局大阪保線區）
遠山　勇吉君　普通賛助員ヨリ變格
西山　夏江君　神戸市林田區二葉町5ノ106（鐵道省改良事務所）
野坂　和儀君　神戸市楠公前東明ビル神戸市役所營繕課（神戸市營繕課）
野村　敬一君　府下中河内郡龍華町植松（大阪保線事務所）
平林　美彦君　府下泉南郡尾崎村千代秀吉方（内海紡績株式會社建築部）
福田　勇雄君　兵庫縣武庫郡濱甲子園（株式會社大林組）
伏見　孝悌君　兵庫縣川邊郡小田村神崎驛南口前（池田實建築事務所）
保園　源三君　北區中之島7ノ2（田島應用化學工業所）
松本　宇市君　神戸市灘區宮山町2ノ38（大阪市

電氣局高速鐵道建設課）

山崎萬壽夫君　住吉區帝塚山中４ノ48（池田實建築事務所）

矢野　藤一君　此花區島屋町汽車製造株式會社設計課（汽車製造株式會社）

呼子　正君　西區靱北通１ノ８（自營）

伊藤　太郎君　京都市左京區下鴨北園町86ノ２（津田敏雄建築事務所）

石井　利雄君　京都市上京區出町桝形通西入上ル相生町（京都帝大營繕課）

岡村市太郎君　府下吹田町1358（大阪市役所土木部）

岡本　田鳥君　京都市左京區田中野神町17（京都帝大營繕課）

小河吉之助君　天王寺區勝山通１ノ185（岡田建築事務所）

大嶋太一郎君　西淀川區傳法町北１ノ56中西鐵工所内（伊藤工務店）

小泉　昇君　東淀川區下新庄町586ノ１（津田敏雄建築事務所）

左谷米三郎君　天王寺區大道５ノ46（大阪鐵道局）

竹本　節三君　北區東野田町７ノ26アパート阪雅莊（營繕管財局造幣局工事場）

寺岡　眞君　兵庫縣川邊郡小田村長洲石ノ戸11（大阪府都市計畫課）

中澤　吉郎君　府下守口町土居423田中方（大阪府建築課）

中田　猛君　尼崎市南竹谷町１ノ51櫻莊（津田敏雄建築事務所）

内藤　資忠君　京都市左京區田中高原町81（京都帝大營繕課）

二宮　太平君　京都市吉田本町５藤田健次方（京都帝大營繕課）

眞繼　昇君　西淀川區海老江上２ノ154（津田敏雄建築事務所）

宮崎　鐵二君　大正區鶴濱通１丁目１ノ２（大阪市電氣局高速鐵道建設課）

安田　健三君　京都市左京區田中樋ノ口町63（京都帝大營繕課）

横瀨　慶二君　京都市上京區大將軍鷹司町25ノ２（京都府土木部營繕係）

吉田　忠夫君　京都市左京區下鴨松原町29ノ12（（京都帝大營繕課）

地方會員

宇野　貞三君　明石市三番町398（兵庫縣營繕課）

大石　多聞君　滿洲國撫順東８條通58（西津組）

田口　正夫君　朝鮮慶尙南道蔚山邑（自營）

吉田　正一君　北海道苫小牧町幸町101小林方（苫小牧工業學校）

後藤米太郎君　名古屋市中區廣池町１（愛知縣學校營繕技師）

特別賛助員

前田　祐司君　北區中之島６ノ６田島應用化學工業所

三島圓四郎君　普通賛助員ヨリ變格

木村　壽德君　普通賛助員ヨリ變格

越賀　睦治君　天王寺區眞法院町32（建築材料商）

野間　房義君　今治市榮町１ノ26（土木建築請負業）

普通賛助員

中村　利正君　西宮市森具北蓮毛847ノ53（合名會社竹中工務店）

青木　昌一君　府下中河内郡小阪町中小阪555（合資會社清水組大阪支店）

片岡　正義君　府下南河内郡柏原町今町３丁目（大阪市役所臨時校園建設所）

國岡長四郎君　神戸市灘區灘北通８丁目２ノ１（鐵道省大阪改良事務所神戸分室）

三浦英太郎君　府下中河内郡小阪町中小阪６ノ８（大阪市役所臨時校園建設所工事係）

國永　清喜君　住吉區桑津町135（大阪府建築課）

近藤　岩夫君　兵庫縣川邊郡伊丹町大鹿36東平方（大阪鐵道局大阪保線區）

繁岡　鎭君　岡山市大供本町２ノ129砂崎方（岡山地方專賣局營繕係）

福田　峯雄君　府下北河内郡諸堤村字三島384（陸軍造兵廠大阪工廠技術課）

山本宗一郎君　西成區千本通5ノ4關西理化學工業所

今井　齊君　京都市左京區吉田本町12中尾越郎方（京都帝大營繕課）

伊東　一郎君　京都市吉田上大路35竹内方（京都帝大營繕課）

大島千太郎君　西淀川區傳法町北１ノ56（中西商店鐵工部）

角谷　一郎君　和歌山市本町5丁目（鐵高組）
田村　忠雄君　京都市左京區吉田上大路8山口方（京都帝大營繕課）
服部　保君　京都市左京區一乘寺塚本町5（京都帝大營繕課）
松田　良雄君　京都市左京區吉田上阿達町30種田桂三方（京都帝大營繕課）
宮崎　巖君　京都市左京區田中關田町50青木幾次郎方（京都帝大營繕課）
村田　義雄君　京都市東山區大和大路通正面下ル1ノ533（京都帝大營繕課）
横山　一夫君　京都市左京區北白川下池田町14ノ2大西方（京都帝大營繕課）
吉永　定雄君　京都市左京區吉田上大路町35竹内方（京都帝大營繕課）

退　會　者

會　員

生駒　一雄君、佐藤節雄君

地方會員

長瀬幸一君

特別贊助員

筧文五郎君

普通贊助員

伊藤一郎君、大澤松蔭君、岡本文之君、高山虎次郎君、吉田太郎君

轉　居　轉　勤

會　員

井手　正雄君　北區中之島大阪市役所臨時校園建設所
根來　弘君　尼崎市神田中通3ノ143
石川積一郎君　東區石町1ノ8（電東173）
島崎　政男君　西成區南海通2ノ20
東山　靜君　東京市芝區白金三光町276
砂　尙一君　旭區新森小路中2ノ35
太宰　二郎君　德島市前川町大字前川小松方

地方會員

森岡　正雄君　廣島市段原町東浦町871
上枝　卓君　愛媛縣西條町大町高木旅館內
馬野　七登君　府下吹田町旭町1001

特別贊助員

嘉數　初君　嘉數化學工業所（電福島1985）
西岡　隆夫君　東京市豐島區高田南町2ノ687杉本製作所內

普通贊助員

中村　英夫君　府下泉北郡踞尾村1198ノ2
小田　旒明君　宇部市西區上町4丁目
本島　步夫君　旭區大宮町6ノ39
吉田光太郎君　仙臺市北四番町東北帝大醫學部附屬醫院外科病室工事場大林組出張所
小松　四郎君　府下中河內郡久寶寺村字三津22ノ5佐守方

死　亡

名譽贊助員

辻阪信次郎君　昭和11年1月23日逝去

會　員

小林　悉君　昭和11年1月23日逝去
須藤　隼人君　昭和11年1月25日逝去
三浦　尙史君　昭和11年2月12日逝去

地方會員

原野　惠助君　昭和11年1月7日逝去

終身贊助員

中川　辰藏君　昭和11年2月11日逝去
（謹んで哀悼の意を表す）

編輯後記

◆2月21日午前關西を襲つた激震は、被害の程度こそ豫想外に少なかつたが、地震の經驗に乏しい關西地方の人達の心膽を寒からしめた點に於て、非常に効果的であつたと言へる。

◆都市の建築が耐震耐火耐風的構造であることの必要は、我建築協會の絕えず主張し來つた所であるが、協會が更に積極的にその促進運動に乘り出さんとする時、恰もこの激震である。幸にも僅少なる被害に於て、而も地震への警戒を精神的に强く關西の人々に印象附けた點に於て、敢て効果的であつたと言へやう。

◆來月號にこの方面の記事の投稿を乞ふ。

◆今月號には、憶らずも東京工大の田邊平學氏、都島工業の濱谷五郎氏の建築教育に關する稿2つを得た。兩氏が夫々の立場に於ける建築教育觀は、併せて我國建築教育全般を覗ふ1資料となるであらう。

◆『都市美の問題』、『都市と防空』の2篇、何れも建築界今日の重要なるトピックである。「建築に關する時事問題」なる題目に對して、嘗て建築家の論議の中心であつた各個、建築の部分的設計計畫に關するものはなく、期せずしてこの種の記事のみを得たことは、建築界今日の問題を雄辯に物語るものに外ならない。島田良馨氏及吉田、津田兩氏の記事等何れも都市に關するものである。

◆都市計畫的角度より建築を見、或は建築的角度より都市計畫を見る時、我々の關心すべき問題は限りなく多い。

◆都市計畫のの上から見たジードルンク、單位住宅として、家族の住居の側から見たジードルンク。或は又、同じく都市排泄物の處理施設にしても全體的處理の利便を主眼とする都市計畫的見地よりと、排泄物發生場たる各個建築の立場からとは、自ら異つた見方があり、異つた解答が生れる筈である。經濟を仲介とするこの兩者の完全な融合こそ、この問題の綜合的解決の鍵である。

◆こうした見方から、建築の各分野に對する會員諸氏の御投稿を得れば幸である。

◆「豐公聚樂第の大廣間」は、大熊喜邦博士の特に本誌の爲に寄せられた資料である。議院竣工前の御多忙中に、稿を賜つた同博士に、深甚の謝意を表する。

◆本野精吾氏の「乾構造小住宅試作」は、同氏邸内に新しく建てられた令息の爲の住宅設計に關する同氏の御意見である。嘗て「家族を含む自畫像」なる題名にて、自邸設計に對する態度を本誌上に發表せられてから10年。この稿に接する讀者は、この小住宅の中に住む同氏の次の時代に對して大なる期待をかけるにちがひない。

◆原稿の締切が毎月15日、20日には校了、25日頃には發送と言ふ編輯毎月の豫定である。その積りで努力して居る。玉稿を賜る方々に締切期日の嚴守を特にお願する次第である。　（新名種夫）

建築と社會

第19輯第3號

毎月1回1日發行　定價　1册 .50圓(郵稅2錢)　12册 6.00圓(同 24 錢)

昭和11年2月25日印刷　昭和11年3月1日發行

發行・編輯　小板常男
印刷人
大阪市北區朝日ビル日本建築協會内

印刷所　大阪活版所
大阪市東區内淡路町1丁目7番地

發行所　財團法人 日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪 39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀 2440番
振替口座大阪 2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	1/2頁	1回	8.00
普通 (前附第1頁)	1頁	1回	45.00
普通 (前附第2頁)	1頁	1回	40.00
普通 (後附第1及最終頁)	1頁	1回	25.00
アート (中挿)	1/2頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
(建築關係業者案内)	1欄	1回	5.00

廣告掲載御申込は本會直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

日本建築協會
創立滿十五年 記念出版

大阪市地質調査圖表

本書は本會常設の災害强度委員會が數年に亘つて苦心調査蒐集した資料を輯錄して一本に纏めたもので、大阪市内約五百ケ所六百有餘の試穿成績の中重複せるもの、近接地にして地質酷似せるもの等を省略して四百十四ケ所を選定したものであつて、他に同種の刊行物なく洵に斯界に於ける驚異的出版である。この出版に際して本會としては凡ゆる點に於て多大の犧牲を拂つたものであるが、しかも尙上梓したる所以のものは、土木建築關係者が計畫に當り常に必要缺くべからざるものであり、又容易に所要のものを調査し得ると云ふ實に簡便にして、斯界にとり稗益尠からざるものと信じたからである。
世の土木建築に關係ある諸賢へこの權威ある寶典を御薦めする次第である。

四六倍版　上質印刷紙　上製箱入　クロース裝幀
定價 3.50圓（本協會員に限り 3.00圓）
送料12錢

日本建築協會刊行
大阪・北區・朝日ビル
振替口座大阪 39975
賣捌 丸善本支店 柳々堂書店

各府縣改正市街地建築物法施行細則

京都府廳

沿革（昭和七年三月三日京都府令第十五號）（昭和十年一月十六日京都府令第一號改正）（昭和十年七月五日京都府令第三十號改正）（別紙添附）

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ法トハ市街地建築物法ヲ、令トハ市街地建築物法施行令ヲ、規則トハ市街地建築物法施行規則ヲ、耐火構造規則トハ市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則ヲ謂フ

第二條 法、令、規則、耐火構造規則又ハ本令ニ依リ知事ニ提出スル書類ニシテ其ノ建築物ガ他ノ法令ニ依リ警察取締ヲ受クベキモノナルトキ又ハ下鴨警察署、太秦警察署、伏見警察署及山科警察署管内ニ在ルモノナルトキハ所轄警察署長ヲ經由スベシ

第三號 法、令、規則、耐火構造規則又ハ本令ニ依ル申請書及届書ニハ規則第百四十四條ニ該當スルモノノ竣功届竝ニ本令第七條第二項、第三十一條及第三十七條ノ届出ヲ除クノ外副本ヲ添附スベシ

二 申請又ハ届出ニ關シ必要アリト認ムルトキハ本令ニ規定ナキ場合ト雖モ別ニ書類ヲ提出セシムルコトアルベシ

第四條 法、令、規則、耐火構造規則又ハ本令ニ依リ申請又ハ届出ヲ爲ス者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

二 法、令、規則、耐火構造規則又ハ本令ニ依リ申請又ハ届出ヲ爲ス者之ヲ建築代願人ニ委任シタル場合ニ於テハ建築代願人ノ連署ヲ要ス

第五號 建築許可申請、建築認可申請又ハ建築届出ヲ爲サントスル者ハ其ノ敷地ノ所有者及使用權者又ハ建築物ノ所有者ノ承諾ヲ受クベシ但シ知事其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第二章 建築線、高、空地

第六條 幅員九尺未滿ノ通路ニシテ行政廳ノ管理ニ屬スルモノ又ハ本令施行ノ際現ニ存在スル幅員六尺以上九尺未滿ノ私設通路ニ在リテハ其ノ中心線ヨリ各四尺五寸ヲ後退シタル線ヲ以テ建築線トス

二 前項ノ通路、河川、池沼、斷崖等ニ沿フトキハ通路ト河川池沼斷崖等トノ境界線ヨリ九尺ヲ後退シタル線ヲ以テ建築線トス

三 前二項ノ私設通路ノ建築線ハ之ヲ廢止スルコトアルベシ

第六條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル敷地ニハ法第八條本文ノ規定ニ拘ラズ建築ヲ許可スルコトアルベシ

一 昭和十年一月三十一日以前ニ指定シタル建築線ニ接スル敷地

二 罹災地、住宅經營地區其ノ他一團ノ土地ニ亘リ指定シタル建築線ニ接スル敷地ニシテ近ク道路竣成ノ見込アリト認ムルモノ

三 前條ノ建築線ニ接スル敷地

四 河川、水路、溝渠等ノ敷地ヲ隔テテ道路ニ接スル敷地

五 山間部等ニシテ家屋連擔ノ見込ナシト認ムル土地ニ於ケル敷地

第六條ノ三 昭和十年一月三十一日以前ニ存在シ現ニ長1.5メートル以上2メートル未滿道路敷地ニ接スル建築物ノ敷地ハ規則第四條第一項ノ規定ニ拘ラズ其ノ建築ヲ許可スルコトアルベシ法施行前ヨリ存在シ長1.5メートル未滿道路敷地ニ接スル建築物ノ敷地ハ建築物ノ用途及四圍ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認ムルモノニ限リ長1.5メートル以上道路敷地ニ接セシムルトキ亦前項ニ同ジ

第七條 私設道路ノ開設又ハ變更ヲ爲サントスルトキハ建築線ノ指定ヲ受クルコトヲ要ス

二 建築線ノ指定ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日迄ニ道路ヲ完成シ届出テ檢査ヲ受クベシ

第八條 建築線ノ兩端ハ他ノ建築線ニ接續スルコトヲ要ス但シ其ノ一端ニ公園、廣場及之ニ類スル廣濶ナル空地アルトキ又ハ幅員90センチメートル以上ノ非常通路アル場合其ノ他保安上支障ナシト認ムルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第九條 劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場、集

會場、公會堂、百貨店等ノ建築物ハ其主タル出入口ニ面スル道路敷地ノ境界線ヨリ其ノ觀客定員又ハ收容人員750人以上ノモノハ5メートル250人以上ノモノハ3メートル其ノ他ノモノハ2メートルノ距離ヲ後退シタル線ヲ前面ノ壁面ノ位置トス但シ上階ノ壁面等ニシテ知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第十條　法第二十六條第二項ノ道路ノ境域內ニ於ケル假設建築物ハ道路工事執行者ノ指定スル期日迄ニ無償ニテ撤去スヘキモノナルトキハ其ノ建築ヲ許可スルコトアルベシ

二　前項ノ許可ニシテ都市計畫事業ニ關スルモノハ都市計畫法施行令第十一條ニ依リ許可シタルモノト看做ス

第十一條　令第十條各號所定ノ敷地ニ於ケル建築物ノ高ハ左ノ各號ニ依ル

一　公園、廣場、河ノ類ニ接スルトキハ公園、廣場、河ノ類ノ幅員（又ハ對側迄ノ距離）カ其ノ敷地ニ於ケル令第七條第一項後段ノ限度ヨリ大ナル場合ニ限リ其ノ幅員（又ハ對側迄ノ距離）ヲ以テ高ノ限度トス

二　前面道路ノ對側ニ公園、廣場、專用軌道若ハ鐵道又ハ河ノ類アルトキハ前面道路ノ幅員ト公園、廣場、專用軌道若ハ鐵道又ハ河ノ類ノ幅員（又ハ對側迄ノ距離）トノ和ヲ超エザル範圍內ニ於テ令第七條ノ一倍四分ノ一ヲ二倍一倍二分ノ一ヲ二倍、二分ノ一トシ令第八條ノ一倍二分ノ一ヲ二倍二分ノ一トス

三　地盤面ガ道路面ヨリ90センチメートル以上高キトキハ其ノ高ヨリ90センチメートルヲ減ジタルモノノ二分ノ一ヲ道路面ヨリ測リタル高ヲ道路面ト看做ス

四　高低ノ差90センチメートル以上ノ二以上ノ道路ニ接スルトキハ前號ノ規定ヲ準用シタル高ヲ低キ道路ノ道路面ト看做ス

五　道路ノ終端ニ位スルトキハ其ノ道路ノ幅員ヲ前面道路ノ幅員ト看做ス

第十二條　左ノ各號ニ掲ルモノハ令第十四條但書ノ地區トス

一　角地（道路ニ接スル敷地二邊ノ內角135度以下）ニシテ各幅員5.5メートル以上其ノ和ガ18メートル以上ノ道路ニ其ノ敷地周圍ノ延長四分ノ一以上ガ接シ且敷地面積10アール以上ノモノ

二　敷地ノ周圍延長四分ノ一以上ガ幅員5.5メートル以上ノ道路ト公園、廣場、河ノ類トニ接シ又ハ道路ヲ隔テテ接スルモノニシテ道路ノ幅員ト公園、廣場、河ノ類ノ幅員（又ハ對側迄ノ距離）トノ和ガ18メートル以上ノ場合ニシテ且敷地面積10アール以下ノモノ

三　土地ノ狀況ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルモノ

第三章　構造設備

第十三條　建築物ノ敷地ニハ建築線ニ沿ヒテ附近ノ公設溝渠又ハ河川ニ疏通スル雨水溝ヲ設クベシ但シ之ニ代ハルベキ溝渠又ハ河川アルトキハ此ノ限リニ在ラズ

二　雨水溝ハ幅員及深各18センチメートル以上トシ耐水材料ヲ以テ構成シ適當ノ勾配ヲ付シ上部ニ取外シ得ベキ構造ノ覆蓋ヲ設クベシ但シ其ノ構造適當ナリト認メラルルモノニアリテハL字形溝ト爲スコトヲ得

三　建築物ノ敷地ガ道路面トノ高低ノ差著シキ場合其ノ他雨水溝ヲ設置シ難キトキハ許可ヲ受ケ之ヲ設ケザルコトヲ得

第十四條　建築物ノ敷地ハ墻壁、葛石其ノ他ノ固定物ヲ以テ其ノ境界ヲ明確ニ區劃スヘシ

二　前項ノ境界表示ノ物件ノ位置ヲ移動シ敷地面積ヲ變更セントスル場合ハ其ノ旨知事ニ屆出ヅベシ

第十五條　住居ノ用ニ供スル建築物ニ在リテハ一棟ノ建築面積合計20平方メートル以上トシ棟毎ニ炊事場及便所ヲ設クベシ但シ衛生上特ニ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第十六條　井戶ト汲取便所及汚物溜トノ距離ハ汲取便所又ハ汚物溜ニ適當ト認メラルル特殊ノ構造設備ヲ施セルモノニ限リ3,5メートル迄短縮スルコトヲ得

二　井戶ノ構造カ掘拔井戶其ノ他衛生上特ニ支障ナシト認メラルル構造ナルトキハ前項ノ距離ヲ更ニ短縮スルコトヲ得

第十七條　井戶ノ位置ハ建築物ノ基礎其ノ他ニ支障ヲ及ボサザル場所ニ之ヲ定ノ井戶側ハ「コンクリート」其ノ他ノ不滲透質ノ材料ヲ以テ構成シ井筒ハ周圍ノ地盤面ヨリ高60センチメートル以上トナシ適當ナル覆蓋ヲ設ケ共用井戶ニ在リ

テハ喞筒ノ設備ヲ爲スベシ但シ掘抜井戸其ノ他特殊ノモノハ此ノ限リニ在ラズ

二　必要ト認ムルトキハ飲用井戸ノ位置及深ヲ指定シ又ハ特殊ノ構造設備ヲ命ズルコトアルベシ

第十八條　上階ニ居室ヲ有スル建築物ノ階段ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ依ルベシ但シ特ニ保安上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限リニ在ラズ

一　蹴上及踏面ノ寸法ハ各段均一ナラシムルコト

二　廻リ段ヲ設クル場合ハ階段ノ下部ニ限リ段數ハ四以下トシ90度ニ對シ四段ノ割合ヲ超エザルコト

三　昇リ口及降リ口ニハ適當ナル足溜ヲ設クルコト

四　木造建築物（木造床ノ場合ヲ含ム）ニシテ三階以上ニ居室面積20平方メートル以上ヲ有スルモノニ在リテハ各階ニ階段二箇所以上ヲ設クルコト但シ其ノ一箇所ハ非常階段又ハ適當ナル避難設備ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

二　非常階段ハ蹴上23センチメートル以下踏面15センチメートル以上トシ其ノ幅員ヲ60センチメートル以上ト爲スコトヲ得

第十九條　集會場、公會堂、說敎所、敎會堂、寄宿舍、合宿所、百貨店、商品陳列場、觀物場、遊技場、宿屋、席貸、待合、貸座敷、料理店、飮食店、及之ニ類スル建築物ノ階段ニシテ公衆ノ用ニ供スルモノハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ依ルベシ但シ上階各階ニ付居室面積（公衆ノ用ニ供スル露臺ハ居室ト看做ス以下之ニ同ジ）30平方メートル以下ノ場合ハ第一號乃至第六號ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

一　階段ノ幅ハ內法90センチメートル以上トナシ踊場及昇リ口又ハ降リ口ノ足溜ハ其ノ幅及長ヲ階段ノ幅以上ト爲スコト

二　蹴上及踏面ノ寸法ハ各段均一ナラシムルコト

三　廻リ段ヲ設ケザルコト

四　適當ナル手摺ヲ設クルコト

五　木造建築物ニ於ケル階段數ハ其ノ上階各階居室面積ノ內最大ナルモノガ50平方メートル以上ノ場合ハ二箇所以上、100 平方メートル以上ノ場合ハ三箇所以上、200 平方メートル以上ノ場合ハ四箇所以上ヲ設クルコト但シ階段三ケ所以上ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ一箇所ニ限リ規則第二十五條第一項ノ階段ト爲スコトヲ得

六　木造以外ノ建築物ニ於ケル階段數ハ其ノ上階各階居室面積ノ內最大ナルモノガ80平方メートル以上ノ場合ハ二箇所以上、160 平方メートル以上ノ場合ハ三箇所以上、320 平方メートル以上ノ場合ハ四箇所以上ヲ設クルコト

七　三階以上ニ居室面積15平方メートル以上ヲ有スル建築物ニ在リテハ各階ニ階段二箇所以上ヲ設クルコト但シ第五號又ハ第六號ノ規定ニ依リ階段ガ一箇所ニテ足ル場合ハ其ノ一ケ所ハ非常階段ト爲スコトヲ得

二　各室ノ配置簡單ニシテ階段ノ幅特ニ廣キ場合又ハ特別ノ避難設備アル場合ハ保安上支障ナキ限リ前項第五號及第六號ノ規定ニ拘ラズ其ノ數ヲ減スルコトヲ得

第二十條　物干、物見臺等ノ屋上工作物ニシテ甲種防火地區內ニ在ルモノハ不燃材料（漆喰ノ類ヲ除ク以下同ジ）ヲ以テ構成シ乙種防火地區內ニ在ルモノ又ハ防火地區外ニ在ル面積20平方メートル、床高3.5 メートルヲ超過スルモノハ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ被覆スベシ但シ防火上危險ノ虞ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　構造强度計算ニ於ケル水平風壓力ハ垂直平面 1 平方メートルニ付獨立煙突ニ在リテハ 200 キログラム以上其ノ他ノ建築物ニ在リテハ 100 キログラム以上トス但シ建築物ノ種類、形狀又ハ土地ノ狀況ニ依リ其ノ增加ヲ命ジ若ハ其ノ低下ヲ認ムルコトアルベシ

第四章　手　　續

第二十二條　建築線ノ指定又ハ變更ヲ受ケントスル者ハ別記樣式第一號ニ依ル申請書ニ圖面及土地臺帳ノ寫ヲ添附シ知事ニ申請スベシ

二　前項ノ申請書ニハ關係土地ノ所有者、使用權者及關係建築物所有者ノ連署ヲ要ス必要アリト認ムルトキハ關係建築物占有者ノ承諾書ヲ添附セシムルコトアルベシ

三　第一項ノ圖面ニハ周圍ノ道路竝ニ其ノ幅員關係土地ノ地盤竝ニ其ノ境界線、建築物、工作物其ノ他關係地物ノ位置、方位、縮尺等ヲ記入シ建築線ノ位置及建築線間ノ距離ヲ明示スベシ

第二十三條　規則第百四十三條第一項第五號ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

一　罹災地ニシテ知事ノ指定シタル區域内ニ於テ罹災後三月以内ニ建築スルモノ

二　他ノ法令ニ依リ建築物ノ位置、構造、設備又ハ敷地ニ關シ許可又ハ認可ヲ要スベキ建築物

三　建築面積660平方メートル以上ノ建築物

第二十四條　規則第百四十三條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ別記様式第二號ニ依ル申請書、摘要書及設計書ニ圖面ヲ添附シ知事ニ申請スベシ

二　他ノ法令ニ依リ許可認可ヲ要スル建築物ニ在リテハ前項ノ書類ノ外ニ其ノ法令ニ依ル特別ノ構造設備ノ仕様書及圖面ヲ添附スベシ

三　建築物ノ敷地ニ接スル道路、通路又ハ官公有地ノ境界線若ハ其ノ幅員分明ナラザル場合ニ在リテハ其ノ管理者又ハ所有者ノ明示書類若ハ證明書ヲ添附スベシ但シ法第二十六條第二項ノ道路及土地區劃整理若ハ耕地整理ノ計劃道路ニ付テハ其ノ工事執行者タルベキ行政廳又ハ組合長ノ明示書類若ハ證明書ヲ以テ之ニ代フ

四　第一項ノ認可申請ヲ爲シ又ハ規則第百四十四條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ法、令、規則耐火構造規則又ハ本令ニ依リ許可、認可若ハ承認ヲ要スル事項アルトキハ其ノ事項ニ付別ニ手續ヲ要セズ

第二十五條　前條第一項ノ設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　圖面ニ示シ難キ構造設備、材料ノ種別竝ニ寸法、其ノ他仕様ノ概要

二　鐵骨造、鐵筋「コンクリート」造又ハ其ノ他特殊ノ構造ニ係ルモノハ主要部分ノ構造、强度計算

三　昇降機其ノ他援房、換氣、避雷、消火、給水、排水、汚物處理等ノ附屬設備アルモノハ其ノ構造仕様ノ概要

第二十六條　第二十四條第一項ノ圖面ハ左ノ各號ニ依リ申請ニ係ル部分ト其ノ他ノ部分トヲ着色其ノ他ノ方法ニ依リ區別スベシ

一　附近見取圖（道路ノ連絡、道路ト敷地ノ關係、道路ノ幅員、目標トナルベキ附近ノ地物竝ニ方位ヲ記入シタルモノ）

二　配置圖（縮尺ハ五十分ノ一、百分ノ一、二百分ノ一、三百分ノ一、五百分ノ一又ハ六百分ノ一トシ方位、敷地境界線、建築線、建物墻壁、井戸、煙突、周圍ノ道路、排水路等ヲ明示シ道路幅員及道路ト建築物竝ニ建築物相互間ノ距離ヲ記入シタルモノ）

三　各階平面圖（縮尺ハ五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一トシ一部分ノ用途、寸法、各居室ノ床面積、及採光面積竝ニ方位ヲ記入シタルモノ）

四　立面圖（縮尺ハ五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一トスルコト）

五　主要部斷面圖（縮尺ハ十分ノ一、二十分ノ一、五十分ノ一又ハ百分ノ一トシ各部分ノ高其ノ他ノ寸法、主要材料ノ種別寸法、基礎及隣接建築トノ關係ヲ記入シタルモノ）

六　各階床組平面圖（縮尺ハ五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一トシ材料ノ種別寸法ヲ記入シタルモノ）

七　小屋組平面圖（縮尺ハ五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一トシ材料ノ種別寸法ヲ記入シタルモノ）

八　石垣、擁壁ノ類ノ斷面圖（縮尺ハ二十分ノ一又ハ五十分ノ一トスルコト）

二　規模小なる建築物又ハ特ニ其ノ必要ナシト認ムルモノニ在リテハ第一階平面圖ヲ以テ配置圖ニ充用シ又ハ前項第四號乃至第七號ノ圖面ヲ省略セシムルコトアルヘシ

第二十七條　規則第百四十四條ノ場合ニ在リテハ別記様式第二號ニ依ル届書、摘要書、設計書ニ前條第一項第一號乃至第三號及第八號ノ圖面ヲ添附シ知事ニ届出ツヘシ

第二十八條　左ニ掲クルモノヽ新築、增築、改築又ハ移轉ニ付テハ届出ヲ要セス

一、足代、棧橋及下小屋ノ類ニシテ假設的ノモノ

二　飾門ノ類ニシテ假設的ノモノ

三　防火地區、美觀地區又ハ風致地區外ニ在ルモノニシテ面積5平方メートル以下ノ屋上工作物

四　高3メートル以下ノ墻壁又ハ門戸ノ類

第二十九條　規則第百四十三條ノ申請又ハ規則書百四十四條ノ届出ヲ要セサル場合ニシテ法、令規則、耐火構造規則又ハ本令ニ依リ許可、認可

若ハ承認ヲ要スル事項アルトキハ第二十四條又ハ第二十七條ニ準シ申請又ハ届出ヲ爲スヘシ

第三十條　規則第百四十三條、第百四十四條又ハ前條ニ依リ許可認可ヲ受ケ若ハ届出ヲ爲シタル者工事竣工前ニ第二十四條及第二十七條ノ摘要書（敷地ノ所有者及使用權者、建築物ノ所有者建築設計者、建築工事請負人、建築工事施行者若ハ建築工事監督主仕者又ハ其ノ住所氏名ヲ除ク）、設計書及圖面ヲ變更セントスルトキハ關係事項ヲ具シ知事ニ申請シ又ハ届出ツヘシ

第三十一條　規則第百四十三條、第百四十四條又ハ本令第二十九條ニ依リ許可ヲ受ケ若ハ届出ヲ爲シタル者工事竣工前ニ建築主、建築工事管理者、建築代願人、敷地ノ所有者及使用權者、建築物ノ所有者、建築設計者、建築工事請負人、建築工事施工者若ハ建築工事監督主任者及其ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ之ヲ知事ニ届出ツヘシ

二　前項ノ建築主ノ名義變更ハ双方ノ連署ヲ要ス

第三十二條　規則第百四十六條ノ竣工届ハ別記樣式第三號ニ依ルヘシ

第三十三條　第七條第二項、第三十條乃至前條及第三十七條ノ申請書又ハ届書ニハ許可證認可證又ハ承認證ノ年月日及記號番號ヲ附記スヘシ

第三十四條　許可、認可又ハ承認アリタル日ヨリ六月以内ニ起工セサルトキ若ハ竣工期日ヲ經過スルコト一年ニシテ假竣工セサルトキハ其ノ許可、認可又ハ承認ハ効力ヲ失フ但シ其ノ期限内ニ延期ノ手續ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　法適用區域ノ設定若ハ變更ハ地域、地區又ハ區域ノ指定若ハ變更ノ際建築工事中ノ建築物又ハ建築工事ニ着手セサルモ設計アル建築物ハ其ノ設定、若ハ變更ノ日ヨリ三十日以後ニ届出テ承認ヲ受クヘシ

二　前項ノ届出ニハ第二十四條又ハ第二十七條ノ規定ヲ準用ス工事中ノモノニ在リテハ其ノ工程ヲ附記スヘシ

三　第一項ノ承認アリタル日ヨリ三十日以外ニ起工セサル時又ハ竣工期日ヲ經過スルコト三月ニシテ假竣工セサルトキハ其ノ承認ハ効力ヲ失フ

第五章　工事取締

第三十六條　工事現場ニハ建築許可證、建築認可證又ハ建築承認證及申請又ハ届出書類ノ副本ヲ備置キ當該官吏又ハ吏員ノ要求アリタルトキハ之ヲ提示スヘシ

二　工事現場ニハ道路ヨリ瞭易キ場所ニ許可、認可又ハ承認ノ年月日、記號番號及建築主ノ住所氏名ヲ明記シタル木札ノ類（幅25センチメートル以上、長40センチメートル以上）ヲ掲出スヘシ

第三十七條　建築工事左ノ各號ノ一ニ該當スル工程ニ達シタルトキハ遲滯ナク届出ヘシ

一　上棟又ハ之ニ相當スル工程

二　其ノ他特ニ指示シタル工程

前項ノ届出ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得

第三十七條ノ二　建築物竣工シタルトキハ建築物檢査證ヲ貼附スヘシ但シ大修繕、大變更、用途豫更又ハ一部ノ增築、改築ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　前項ノ場合ニ於テ建築物所有者又ハ占有者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可認可、承認若ハ指定ヲ取消シ又ハ工事ノ中止其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

一　申請書又ハ届書ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

二　申請書又ハ届書ヲ事項ニ相違シタル工事ヲ爲シタトキ

三　建築主三月以上所在不明トナリタルトキ

第三十九條　建築代願人、建築設計者、建築工事請負人建築工事施行者、建築工事管理者又ハ工事監督主任者ニシテ不適當ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和七年三月三日）

大正十三年京都府令第四號市街地建築物法施行細則ハ此ヲ廢止ス

（改正ハ昭和十年二月一日ヨリ施行）

京都府令第三十號

昭和七年京都府令第十五號市街地建築物法施行細則中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年七月五日

京都府知事　鈴木信太郎

第二十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

左ニ掲グルモノノ工事ヲ施サザル場合ノ用途變更ニ付テハ認可ヲ得ルコトヲ要セズ

一　原動機馬力數合計三以下ノ工場但シ令第一條第二號、第三條第二條ニ掲グルモノヲ除ク

二　飲食店、料理店及カフエーニシテ階上又ハ地階ニ客室ナキモノ

大阪府廳

(大正九年十二月一日 大阪府令第九十四號)
(大正十二年八月六日 大阪府令第五十六號 一部改正)
(大正十五年十月一日 大阪府令第百五十五號 一部改正)
(昭和三年三月二十九日 大阪府令第二十七號 一部改正)
(昭和十年三月一日 大阪府令第十五號 改正)

第一章　總　則

第一條　本令ニ於テ法ト稱スルハ市街地建築物法ヲ、令ト稱スルハ市街地建築物法施行令ヲ、規則ト稱スルハ市街地建築物法施行規則ヲ、特殊建築物耐火構造規則ト稱スルハ市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則ヲ謂フ

第二條　法、令、規則、特殊建築物耐火構造規則又ハ本令ニ依リ當廳ニ提出スベキ申請書又ハ届書ハ所轄警察署ヲ經由スベシ但シ竣功以外ノ工程ニ關スル届出ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　建築主又ハ建築線ノ指定ヲ受ケントスル土地所有者ガ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ法定代理人ノ、準禁治產者ナルトキハ保佐人ノ連署ヲ要ス

第四條　建築主當府ニ居住セザル場合ハ適當ナル建築工事管理者ヲ定メシムルコトアルベシ

第二章　地　域

第五條　令第一條第十號ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ但シ住居ノ安寧ヲ害スル虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得ズト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　左ニ掲グル事業ヲ營ム工場ニシテ常時使用スル原動機馬力數ノ合計一ヲ超過スルモノ

イ　機織、撚糸、組紐又ハ莫大小ノ編立

ロ　製材又ハ挽物

二　席貸、料理屋、又ハ飲食店（飲食店ニ在リテハ單ニ飲食物ヲ供給スルモノヲ除ク）

三　活動寫眞ノ撮影場、遊技場

四　射撃場

第三章　建築線及壁面ノ位置

第六條　行政廳ノ管理ニ屬スル通路又ハ道路ニシテ幅員4メートル未滿ノモノニ在リテハ其ノ中心線ヨリ各2メートル距リタル線ヲ以テ建築線トス但シ幅員2.73メートル以上ノモノニシテ已ムヲ得ズト認ムルモノ又ハ土地利用上必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　建築物ノ壁面ハ建築線ヨリ45センチメートル以上後退セシムベシ但シ路面上2.5メートル以上ニ在ル蛇腹、出窓、門柱、袖壁、袖柱、ノ類ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條　法第七條但書ノ規定ニ依リ建築線ヲ指定シタルトキ及法第十條ノ規定ニ依リ壁面ノ位置ヲ指定シタルトキハ前二條ノ場合ヲ除キ之ヲ告示ス其ノ變更、廢止ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第四章　高及空地

第九條　建築物ノ敷地ガ公園、廣場、河、海ノ類ニ接スル場合ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ令第七條ノ規定ノ適用ニ關シ8メートルヲ16メートルトス

第十條　建築物ノ敷地ノ前面道路ノ對側ニ公園、廣場、河、海ノ類アルトキハ令第七條又ハ同第八條ノ規定ノ適用ニ關シ前面道路ノ對側境界線ヨリ之等ノ幅員ノ二分ノ一以内ニシテ且道路幅員ノ二分ノ一以内ヲ前面道路ノ幅員ニ加算シタルモノヲ以テ前面道路ノ幅員ト看做ス

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前項ノ適用ニ關シ道路幅員ノ二分ノ一ヲ道路幅員トス

一　敷地ノ前面道路ノ對側ニ公園又ハ廣場ノ類アルモノニシテ交通上特ニ支障ナシト認ムルトキ

二　敷地ガ別ニ他ノ道路ニ接スルトキ

第十一條　建築物ノ敷地ノ地盤面ガ前面道路ノ中央ヨリ一メートル以上高キ場合ニ在リテハ令第七條第二項ノ前面道路ノ中央ハ其ノ高低ノ差ヨリ一メートルヲ控除シタル殘ノ二分ノ一高キ位置ニ在ルモノト看做ス

第十二條　左ノ各號ニ掲グルモノハ令第十四條但書ノ角地又ハ地區トス但シ住居地域内ニ在ルモノヲ除ク

一　幅員6メートル以上其ノ和22メートル以上

内角150度以下ノ二ノ道路ニ依リ成レル角敷地ニシテ其ノ道路ニ接スル長ガ敷地周圍ノ三分ノ一以上ノモノ但シ面積1000平方メートル以内ノ部分ニ限ル

二　幅員6メートル以上其ノ和22メートル以上間隔20メートル以下ノ道路ノ間ニ在ル敷地ニシテ其ノ道路ニ接スル長ノ和ガ敷地周圍ノ四分ノ一以上ノモノ

三　公園、廣場、河、海ノ類ニ接スル敷地ニシテ前各號ニ準ズト認ムルモノ

第五章　構造設備

第十三條　建築物ノ敷地内ニ於ケル防濕及汚水、雨水ノ排泄又ハ處理ニ關スル設備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　建物内ノ地盤ハ耐水材料ヲ以テ之ヲ築造スルコト但シ用途上已ムヲ得ザル部ニ付テハ此ノ限リニ在ラズ

二　汚水ハ下水溝、下水管又ハ溜桝等ヲ通ジ溝渠ニ排泄スルコト

三　敷地ト道路トノ境界線ニハ幅内法18センチメートル以上ノ雨水溝ヲ設クルコト但シ之ニ代ルベキ公共溝渠ノ施設アルトキハ此ノ限リニ在ラズ

四　前號雨水溝ノ道路側ニ於ケル緣石ノ頂ノ内面ハ建築線ト一致セシムルコト

五　第六條ノ通路ニ在リテハ前二號ニ準ジ雨水溝ヲ設クルコト

第十四條　井戸ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ特殊ノ構造ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限リニ在ラズ

一　汚水、雨水等ノ侵入セザル樣其ノ周圍ヲ石練瓦、「コンクリート」、土管（素燒ヲ除ク）又ハ厚板ノ類ヲ以テ構造シ其ノ底ニハ深60センチメートル以上川砂ヲ敷クコト

二　上部ニハ地盤面上高60センチメートル以上ノ井筒又ハ井桁ヲ設備スルコト

三　周圍50センチメートル以内ノ地盤面及流シ場ハ耐水材料ヲ以テ構造シ流シ場ニハ適當ナル排水設備ヲ爲スコト

第十五條　主トシテ住居ノ用ニ供スル建築物ニハ左ノ設備ヲ爲スベシ

一　敷地内ニ便所ヲ設クルコト

二　居室ニハ上部ニ欄間其ノ他ノ換氣孔ヲ設クルコト

三　木造ノ床又ハ天井ニハ適當ナル掃除口ヲ設ケ又ハ之ニ代ルベキ設備ヲ爲スコト

第十六條　當廳ニ於テ告示シタル建築物ノ階段ノ構造ハ別段ノ定アルモノノ外左ノ各號ニ依ルベシ但シ規模小ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　階段及踊場ノ幅ハ内法90センチメートル以上ト爲スコト

二　蹴上21センチメートル以下踏面21センチメートル以上トシ各段均一ナラシムルコト

三　適當ナル扶欄ヲ設クルコト

四　柱ヲ軸トスル廻リ階段ト爲サザルコト但シ下部ニ設クル廻リ段ニシテ廻轉角度90度ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　建築物ノ階段ノ數ハ別段ノ定アルモノノ外左表ニ依リ適當ニ之ヲ配置スベシ

構造ノ種類	床面積(平方メートル)	階段數
壁體、床、柱、屋根及階段耐火構造ノ建築物	250以下	1以上
	500以下	2以上
	1000以下	3以上
	2000以下	4以上
	2000平方米ヲ超過スルモノハ2000平方米又ハ其ノ端數ヲ增ス毎ニ1ヲ增ス	
其ノ他ノ建築物	100以下	1以上
	200以下	2以上
	400以下	3以上
	400平方米ヲ超過スルモノハ400平方米又ハ其ノ端數ヲ增ス毎ニ1ヲ增ス	

居室ヲ有セザルモノ又ハ室ノ配置簡單ニシテ階段ノ幅特ニ大ナルモノニ在リテハ前項ノ階段數ヲ遞減許可スルコトアルベシ

第十八條　長屋ニシテ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段耐火構造ニ非ザルモノハ左ノ構造ト爲スベシ

一　各戸ノ境界ヲ爲ス壁體ハ地盤ヨリ屋根面下ニ達セシムルコト

二　兩側ニ於ケル外壁ヲ耐火構造ト爲スコト但

シ隣地境界線トノ間ニ45センチメートル以上ノ空地ヲ保有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三　桁行25メートルヲ超ユルモノニ在リテハ25メートル以内毎ニ防火壁ヲ設クルコト

周圍ノ狀況ニ依リ防火上必要ナシト認メタルトキハ前項ノ規定ノ全部又ハ一部ヲ適用セザルコトアルベシ

第十九條　物干、物見臺等屋上工作物ニシテ面積10平方メートルヲ超ユルモノハ不燃材料ヲ以テ構成スベシ

第二十條　第2階以上ニ居室ヲ有スル建築物ニシテ表窓ニ鐵格子、土格子等堅固ナル遮蔽ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ全部又ハ一部ヲ隨時取外シ又ハ開放シ得ル構造ト爲スベシ但シ避難上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　强度計算ニ於ケル水平風壓力度ハ鉛直平面1平方メートルニ付煙突、物見塔、廣告塔及無線電信用電柱ノ類ニ在リテハ200キログラム以上ト、其ノ他ノ建築物ニ在リテハ100キログラム以上ト爲スベシ但シ建築物ノ種類、形狀又ハ土地ノ狀況ニ依リ其ノ增加ヲ命ジ又ハ其ノ低下ヲ許可スルコトアルベシ

第六章　工事執行

第二十二條　規則第百四十三條第一項第五號ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

一　罹災地ニシテ當廳ノ指定シタル區域內ノ建築物ニシテ罹災後三ケ月以內ニ建築スルモノ

二　都市計畫トシテ決定シタル土地區劃整理區域內ノ建築物ニシテ當廳ノ指定シタル期間內ニ建築スルモノ

三　都市計畫法第十條第二項ノ風致地區內ニ建築スルモノ

四　令第一條乃至第三條又ハ本令第五條ニ揭グル建築物

五　左ニ揭グル用途ニ供スル建築物

イ　工場

ロ　集會場又ハ公會堂

ハ　寄宿舍、常設展覽會場、百貨店又ハ勤工場

ニ　自動車ノ車庫

ホ　貸事務所

ヘ　集合住宅

ト　診療所及齒科診療所

六　建築面積600平方メートルヲ超過スル建築物

七　床面積千平方メートルヲ超過スル建築物

八　別ニ告示シタルモノヲ除キ他ノ法令ニ依リ建築物ノ位置、構造設備又ハ敷地ニ關シ許可又ハ認可ヲ要スル建築物

第二十三條　規則第百四十三條ノ建築物ニシテ別ニ告示シタルモノニ付テハ認可ヲ要セズ但シ第三十一條ニ準ジ届出ヅベシ

第二十四條　規則第百四十三條ノ認可申請又ハ同第百四十四條ノ届出ヲ要セザル建築物左ノ如シ但シ規則第百四十三條第一項第二號及本令第二十二條第一號乃至第三號ニ該當スルモノヲ除ク

一　容量1立方メートル以下ノ水槽ノ類ヲ支承スル建築物ニシテ高5メートル以下ノ鐵骨造ノモノ

二　高9メートル以下ノ煙突ノ類

三　高3メートル未滿ノ木造又ハ鐵骨ヲ有スル「メタライラスコンクリート」造ノ墻壁、障壁若ハ門戶ノ類ニシテ建築線又ハ通路境界線ヨリ1メートル以上ノ距離ニ在ルモノ

四　物干、物見臺等屋上工作物ニシテ面積10平方メートル以下ノモノ

五　工事用假設小屋、板圍又ハ假足代ノ類

令第三條ノ二ニ該當スルモノヲ除キ工場ノ常時使用スル原動機馬力數ノ變更ニ因ル用途變更ヲ爲サントスル場合ニ於ケル規則第百四十三條ノ認可申請ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十五條　規則第百四十三條第一項ノ建築認可ヲ受ケントスル者ハ摘要書、設計書、及圖面ヲ添附シ別記樣式第一號ニ依ル申請書正副2通ヲ提出スベシ仍必要ト認ムルトキハ他ノ圖書ヲ提出セシムルコトアルベシ

道路ノ占用其ノ他ノ法令ニ依リ建築前ニ許可又ハ認可ヲ受クベキ事項アルモノハ其ノ許可證又ハ認可證ノ寫ヲ添附スベシ但シ之ニ依リ難キ場合ハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十四條第一項ノ規定ニ依リ許可、認可又ハ承認ヲ受ケタル事項アルモノニ在リテハ其ノ事項、當該條項竝ニ許可、認可又ハ承認年月日及記號番號ヲ附記スベシ但シ同條第二項ノ規定ニ依リ併記スルモノニ在リテハ許可、認可又ハ承認ヲ受ケントスル事項、當該條項及其ノ事由ヲ

記載スベシ

第一項ノ申請書ニハ敷地所有者ノ氏名、住所竝ニ敷地使用上故障ノ有無ヲ附記スベシ

第二十六條　前條第一項ノ摘要書ハ別記様式第二號ニ依リ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　用途但シ左ノモノニ付テハ左ノ事項ヲ附記スベシ

イ　工場ニ在リテハ其ノ製品ノ種類、原料、作業方法及常時使用スル原動機ノ種類竝ニ馬力合計數

ロ　令第三條第四號ノ建築物ニ在リテハ貯藏又ハ處理スル物品ノ種類數量及處理ノ狀態

ハ　倉庫ニ在リテハ貯藏物品ノ種類

ニ　自動車ノ車庫ニ在リテハ其ノ室面積

ホ　劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場及之ニ類スル建物ニ在リテハ觀客定員

ヘ　集會場、公會堂及之ニ類スル建物ニ在リテハ收容定員

ト　飮食店及遊技場ニ在リテハ其ノ業態

二　地域、地區

三　位置

四　敷地面積

五　建築面積ノ合計（現存スル建築物ノ建築面積ヲ含ム）及其ノ敷地面積ニ對スル比

六　各建築物ニ付其ノ名稱、建築面積、構造種別、高、軒高、階數、各階面積及工事ノ要旨

七　道路敷、河川敷其ノ他境界明示又ハ建築線指定ノ年月日及番號

八　建築工事請負人（直營ナルトキハ代表大工以下同ジ）、建築工事設計者又ハ建築工事監督者アルトキハ其ノ氏名、住所

九　竣功豫定期日

前項ノ建築工事請負人又ハ建築工事監督者ニ付テハ起工五日以前ニ届出ヲ爲スヲ妨ゲズ

第二十七條　第二十五條第一項ノ設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　圖面ニ示シ難キ構造設備、材料ノ種類、寸法其ノ他仕様ノ梗概

二　鐵骨造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニ在リテハ其ノ代表的主要部分ノ構造、强度計算

三　昇降機、排水工事、配管工事、煖房、消火避雷其ノ他ノ附屬設備アルトキハ其ノ構造說明

建築物ニシテ輕易ナルモノニ在リテハ前項第一號及第二號ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條　第二十五條第一項ノ圖面ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　敷地附近略圖

二　配置圖縮尺百分ノ一、五十分ノ一、二百分ノ一、三百分ノ一又ハ六百分ノ一（道路ノ明示杭又ハ指定建築線標杭ノ位置、第七條ヲ壁面ノ位置ノ指定線、敷地境界線、建築物ノ配置、四隣道路其ノ他ノ狀態、方位、寸法ヲ明示スルコト）

三　各階平面圖縮尺百分ノ一、五十分ノ一又ハ二百分ノ一（各部ノ用途、寸法、各室ノ室面積及採光面積、方位、工場ニ在リテハ原動機ノ位置等ヲ明示スルコト）

四　主要斷面圖縮尺五十分ノ一又ハ百分ノ一（建築物ノ高、軒高、階高、天井高、床高其ノ他ノ寸法、主要材料ノ種類、寸法竝ニ基礎及隣接建築物トノ關係ヲ明示スルコト）

五　立面圖縮尺百分ノ一、五十分ノ一又ハ二百分ノ一

六　基礎平面圖縮尺百分ノ一、五十分ノ一又ハ二百分ノ一

七　各階床平面圖縮尺百分ノ一、五十分ノ一又ハ二百分ノ一

八　小屋組平面圖縮尺百分ノ一、五十分ノ一又ハ二百分ノ一

九　構造上緊要ナル部分ノ詳細圖縮尺二十分ノ一又ハ五十分ノ一

十　根切深3メートル以上ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ山留工事圖

十一　前條第三號ノ設備ニ關スル圖面

前項各號ノ圖面ニハ申請ニ係ル部分ト其ノ他ノ部分トヲ着色其ノ他ノ方法ニ依リ區別スベシ

建築物ニシテ輕易ナルモノニ在リテハ第一項第四號（建築線ニ關係アルモノヲ除ク）乃至第十一號ヲ省略スルコトヲ得

第二十九條　第二十七條又ハ前條第一項第四號乃至第十一號ノ圖書ニシテ一時ニ全部ヲ具備シ難キ場合ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ其ノ提出シタル部分ニ對シ特ニ認可スルコトアルベシ

第三十條　規則第百四十三條第二項ノ認可申請ニ付テハ第二十五條乃至第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　規則第百四十四條ノ届出ハ摘要書、

設計書及圖面ヲ添附シ別記樣式第三號ニ依ル正副二通ヲ以テ起工十日以前ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ摘要書、設計書、圖面ニ付テハ第二十六條、第二十七條、第二十八條第一項第一號乃至第四號及同條第二項ヲ準用ス

規則第百四十四條第一號又ハ第二號ノ屆出ニ付テハ第二十五條第四項ヲ準用ス

第一項ノ屆出ガ第二十五條又ハ第三十條ノ申請ト同一敷地內ノモノナルトキハ申請書ニ屆出事項ヲ併記スルコトヲ得

第三十二條　建築工事竣功前申請書又ハ屆書ノ圖書ノ內容ヲ變更セントスルトキハ第二十五條乃至前條ニ準ジ更ニ認可申請又ハ屆出ヲ爲スベシ但シ建築工事請負人、建築工事監督者ニ付テハ其ノ變更又ハ選定後5日以內ニ屆出ヅルヲ妨ゲズ

前項ノ建築主ノ變更ニ付テハ前建築主ノ連署ヲ要ス但シ連署シ能ハザルトキハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ申請書又ハ屆書ハ關係ナキ部分ノ圖書ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ申請書又ハ屆書ニハ建築認可證又ハ建築屆書ノ年月日、記號番號ヲ附記スベシ

第三十三條　規則第百四十三條ノ認可ヲ受ケ又ハ同第百四十四條ノ屆出ヲ爲シタル建築物ニシテ第二十六條第一項第四號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ摘要書及配置圖ヲ添ヘ其ノ旨屆出ヅベシ

第三十四條　法、令、規則、特殊建築物耐火構造規則又ハ本令ニ依リ許可、認可又ハ承認ヲ受ケントスル者ハ第二十五條乃至第二十八條ニ準ジ申請書正副二通ヲ提出スベシ

前項ノ申請ハ規則第百四十三條ノ認可申請書又ハ第百四十四條ノ屆書ニ併記スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ建築認可又ハ建築屆書ノ副本の交付ヲ以テ第一項ノ許可、認可又ハ承認ヲ併セ得タルモノト看做ス

第三十五條　法適用區域の設定若ハ變更、地域若ハ地區ノ指定若ハ變更其ノ他ノ場合ニ於テ建築工事中ノ建築物又ハ建築工事ニ着手セザルモ設計アル建築物ヲ建築セントスル者ハ其ノ施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第二十五條乃至第二十八條ニ準ジ屆出ヅベシ但シ規則第百四十三條又ハ第百四十四條ノ規定ニ依リ手續ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條　土地所有者、土地區劃整理組合又ハ耕地整理組合ハ建築線ノ指定ヲ申請スルコトヲ得

建築線ノ指定ヲ受ケントスル者ハ圖面及關係書ヲ添附シ別記樣式第四號ニ依ル申請書正副二通ヲ提出スベシ其ノ變更又ハ廢止ノ申請ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

必要ト認ムルトキハ前項以外ノ圖書ヲ提出セシムルコトアルベシ

第三十七條　前條第二項ノ關係書トハ左ノ各號ニ該當スルモノヲ謂フ

一　土地所有者ガ申請者ナル場合ニ於テ指定ヲ受ケントスル建築線ニ關係アル土地ニ他人ノ所有地アルトキ又ハ地上權者、永小作人若ハ賃借人アルトキハ其ノ同意書

二　土地區劃整理組合又ハ耕地整理組合ガ申請者ナル場合ニ在リテハ其ノ組合規約又ハ第三十六條ノ申請ニ關シ總會又ハ組合會ガ議決シタル事項ヲ證スル書類

第三十八條　第三十六條ノ圖面ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　四隣ノ狀況ヲ示ス圖面

二　測量圖縮尺百分ノ一、三百分ノ一、六百分ノ一又ハ千二百分ノ一但シ左ノ事項ヲ記載スベシ

イ　方位、縮尺及凡例

ロ　建築線ノ位置及長、建築線間ノ距離

ハ　既設建築物、同工作物、關係道路又ハ通路河川、鐵道、軌道、土地ノ高低其ノ他地形上重要ナルモノヽ位置大サ及名稱又ハ番號

ニ　關係土地一筆每ノ境界線、地番

三　新設道路及其ノ附屬物ノ構造圖

第三十九條　規則第百四十六條ノ規定ニ依リ指定スル工程左ノ如シ但シ必要ナシト認ムルトキハ屆出ヲ省略セシムルコトアルベシ

一　起工シタルトキ

二　基礎杭打ヲ爲サントスルトキ（豫メ期日ヲ指定スルコトヲ要ス）

三　上棟シクルトキ

四　鐵骨工事ニシテ鐵骨ノ建方ニ着手シタルトキ

五　鐵筋「コンクリート」工事ニシテ基礎、各階床及屋根ノ配筋ニ着手シタルトキ

六　避雷設備ニ屬スル地中銅板ヲ埋設セントスルトキ

七　其ノ他特ニ指示シタルトキ

第四十條　許可、認可又ハ承認ヲ受ケ若ハ届出ヲ了シタルトキハ建築工事中其ノ敷地ノ前面賭易キ場所ニ別記様式第五號ノ標札ヲ掲グベシ

前項ノ工事場ニハ常ニ許可、認可、承認又ハ届書ノ副本ヲ備ヘ當該官吏又ハ吏員ノ要求アリタルトキハ閲覧ニ供スベシ

第四十一條　本令ニ依リ許可、認可又ハ承認ヲ受ケ若ハ届出ヲ爲シタル建築物又ハ指定ヲ受ケタル建築線ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可、認可承認若ハ指定ヲ取消シ又ハ届出ヲ無効ト爲スコトアルベシ

一　申請書又ハ届書ニ事實相違ノ記載ヲ爲シタルトキ

二　申請人若ハ届出人三月以上所在不明トナリタルトキ

三　許可、認可、承認又ハ届受了ノ日ヨリ三月以内ニ起工セザルトキ

四　竣功豫定期日ヲ經過スルコト六月ニシテ仍竣功セザルトキ

第四十二條　建築工事ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工事ノ中止其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

一　保安上危險ト認ムルトキ

二　衞生上有害ト認ムルトキ

三　法、令、規則、特殊建築物耐火構造規則又ハ本令若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

四　許可、認可、承認又ハ届出ト異リタル工事ヲ爲シタルトキ

第四十三條　建築工事管理者又ハ建築工事監督者ニシテ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

附　則

第四十四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十五條　大正九年十二月大阪府令第九十四號ハ之ヲ廢止ス

様式第一號

昭和　年　月　日

住　所　　電話番號

建　築　主　氏　名　㊞

住　所　　電話番號

建築工事管理者　氏　名　㊞

大阪府知事　殿

建築認可申請書

申請事項	
關係事項	
特ニ許可、認可又ハ承認ヲ受クルコトヲ要スル事項	
敷地所有者	氏名　住所
敷地使用ニ故障ノ有無	

様式第二號　摘要書

用途	
地域地區	地域　地區
位置	
敷地面積	比
建築面積ノ合計	現存 本願
建築工事請負人	氏名　住所　電話番號
建築工事設計者	氏名　住所　電話番號
建築工事監督者	氏名　住所　電話番號
竣功豫定期日	
道路敷其ノ他ノ明示又ハ建築線指定年月日	
建築物表	

名稱	構造種別	建築面積	高	軒高	工事要旨
	床面積				

様式第三號

昭和　年　月　日

住　所　　電話番號

建　築　主　氏　名　㊞

住　所　　電話番號

建築工事管理者　氏　名　㊞

大阪府知事　殿

建　築　届　書

届出事項	
關係事項	

特ニ許可、認可又ハ承認ヲ受クルコトヲ要スル事項	

様式第四號

昭和　年　月　日

住　所

申請者　氏　名　㊞

電話番號

大阪府知事　殿

建築線指定申請書

建築敷地造成ノ爲別記ノ通リ道路開設可仕候ニ付左記ノ位置ニ建築線御指定相成度關係書竝ニ圖面相添ヘ此段及申請候也

位　置

地名　地番	地目	面積	土地所有者	借地權者
合計　筆				

道　路　表

道路番號	道路幅員	道路延長	道路面積	道路方向	新設又ハ整理別
				NE度	
合計					

突出建築物表

建築物番號	種類	構造	建築年度	建築線突出寸法	切リ取リ豫定期日

明示又ハ證明ノ年月日番號

道路敷、河川敷其ノ他境界明示ノ年月日番號

建築線指定年月日番號

組合等ノ使用證明等ノ年月日番號

建築と社會第19輯第3號　廣告索引

ア　阿部鐵工所……50
　　旭硝子株式會社……45
　　朝日建材株式會社……前附1
　　淺野スレート株式會社……49
　　淺海商會……34
イ　岩元工業株式會社……34
　　伊藤元商店……46
エ　榮進社……22
　　英進商會……28
　　荏原製作所……11
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　　大阪伊丹商店……47
　　大阪組立コンクリート製作所……12
　　大野製作所……前附4
　　大阪電氣商會大阪暖房商會……12
　　岡田建材店……30
　　奥村重兵衛商店……31
　　大阪アスファルト商會……10
カ　勝田風呂製作所……表紙4
キ　木下謹三商店……26
　　桐田商會……35
　　協和製作所……15
ク　黒川化學工業所……17
　　久保商店……24
ケ　建盛商會……29
コ　後藤商店……47
　　工英社……53
サ　佐渡島西店……41
　　三機工業株式會社大阪支店……表紙2
　　坂本商會大阪支店……28
　　坂田ベンチレーター製作所……39
シ　島貿易株式會社……42
ス　須賀商會……51
セ　政正合資會社……40
　　清光社……24
タ　田島應用化學工業所大阪支店……54
　　大洋組建材部……46
　　ダンロップ護謨株式會社……中挿
　　タカラ商會……19
　　田村商會……48
　　田中昌司商店……38
チ　チヨイント商會大阪支店……14
ト　東洋リノリユーム株式會社……37
　　東洋陶器株式會社……13
　　東京電氣株式會社……32
ナ　內外土木建築材料合資會社……36
　　南滿鑛業株式會社……21
　　中井商店大阪支店……52
　　中野石材販賣店……38
ニ　日本建築紙工株式會社……40
　　日本建材工業所……中挿
　　日本金具株式會社……中挿
　　日本窒素肥料株式會社……表紙3
　　西原衛生工業所……23
　　西孫南店建築金物部……19
ノ　野澤幸三郎商店……20
ヒ　日立製作所……44
　　平松釣戸車製作所……30
　　美素工業所……前附2
フ　福原商店大阪支店……39
ホ　ボルネオ物產商會……29
マ　マルエス工業株式會社……18
　　松井商店……17
　　丸善株式會社……8.9
ミ　三井物產株式會社……27
ヤ　矢橋大理石商店……16
　　大和護謨製作所……25
ヨ　横河橋梁製作所……33
　　吉田鹿之助本店……7
　　米本榮商店……16
ラ　ライトラバー工業合資會社……43
リ　理化學興業株式會社……前附3
レ　玲光社(木內眞太郎)……21